

年 報

第 1 号

平成 2 5 年

取手北相馬保健医療センター医師会病院

御挨拶

公益社団法人 取手市医師会 会長

取手北相馬保健医療センター医師会病院 理事長

真壁 文敏

この10年あるいはこの5年で、だいぶ社会情勢が変わり政治が変わり天候気候も様変わりし、人の考え方も変わってきたような気がいたします。

未曾有の大災害東日本大震災や、新型インフルエンザ感染症への対策の経験を含め転ばぬ先の杖ではないですが、超高齢化社会における熱中症、脱水症、認知症など予見できる危機に対しては、常に備えていけるように力を入れておかなければなりません。

そのような時代背景の中で、取手北相馬保健医療センター医師会病院は地域の病院でありたいと願っております。地域の病院と言うのは今盛んに言われております、地域完結型の病院のことであり、実際に地域医療支援病院として頑張っているところでございます。私が思う『地域で診る病院』と言うのは、地域の患者様を大切にする病院であり、同時にそこに働く職員も大切にする病院でもあるべきと考えます。

簡単にいいますと、職員のスキルアップや技術向上への研鑽が最終的には地域の患者様の為になる事と考え、接遇やマナーも含めまして、医療知識の充実を図ることが、地域の医療資源で地域を診ていくことにつながると考えております。

取手北相馬保健医療センター医師会病院は、救急搬送を含む多くの急病、怪我などに対応し地域医療に頑張っておりました。これからも地域の安心な医療を支えていきたいと思っております。

キーワードは連携であります。病診連携、病病連携、多職種間連携。これらを常日頃より実践することにより地域包括ケアが実現し「患者さんの目線での医療」を実現できると考えております。

さらに今年度のニュースといたしましては、救急を含む急性疾患、生活習慣病を含む慢性疾患、高齢化社会にも対応できる在宅医療を、タイムリーに受けられる仕組みが構築されたこと、そして筑波大学の高度医療を受けられる仕組みが構築できることとなったことがございます。

今回年報の発刊に際しまして、取手市医師会を代表いたしまして冒頭につたない挨拶をさせていただきますが、取手北相馬保健医療センター医師会病院は今まで以上に地域住民の皆様から愛され、信頼され、慕われる、地域の中核病院を目指してまいりますので変わらぬご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

それではみなさん、この年報を、どうぞごゆっくりご覧ください。

御挨拶

取手北相馬保健医療センター
医師会病院
病院長 鈴木 武樹

取手北相馬保健医療センター医師会病院は、茨城県最南に位置し設立以来 32 年地域住民の方々の健康増進、疾病予防（健診事業）、疾病治療（病院事業）に尽くしてきました。私どもは病院理念として **HEART**（H:優しさに溢れた医療<Hospitality> E:迅速で効率的な医療<Efficient> A:向学心に満ちた医療<Academic> R:充実した地域医療<Regional> T:信頼感のある医療<Trustful>）を掲げています。私は、職員に前の3つが特に重要であること、つまり優しく効率的で向学心を持って医療の現場に臨むよう指導しています。そのことができてはじめて地域の方々に信頼される病院になることができると考えています。

病院の沿革は昭和57年7月当時の医師会長であった荒木恒夫先生らのご尽力で県内初の医師会立病院として取手市野々井の丘に設立され、平成5年11月訪問看護ステーション開設、平成9年11月健診センター増築、平成18年8月南棟増築による210床への増床と共に県内5番目の地域医療支援病院の承認を得るなど着実に地域医療に沿い歩んでまいりました。

そして今年は、当院にとって大きな変革の年であります。一つは、4月より取手市医師会が公益法人へ移行し、より公共性、透明性の求められる組織になったことです。二つ目は7月より院内に「筑波大学附属病院取手地域臨床教育ステーション」が設置され、大学の医師が我々と一緒に仕事をするることにより、筑波大学の高度先進医療から取手市医師会在宅ネットワークまでの地域循環型包括医療がいよいよスタートとなることです。これらのことは、病院理念の実現に向けての新たな一歩となると確信するとともに身を引き締め対応する決意であります。

もちろん病院としての課題も多々あります。看護師不足による一病棟閉鎖が続いていること、昨年度の事業収支の赤字などの事項につき迅速な対応が必要であります。院内での努力はもちろんですが、医師会、行政とも緊密な連携を図っていく所存であります。

我々だけでは、気付かない点、至らない点があります。皆様の忌憚のないご意見をお待ちしています。

病院理念

当院は、次のことを心に刻み医療に励みます。頭文字を結ぶと Heart（心・優しさ）で、地域医療における私たちの心の理念です。

H — 優しさに溢れた医療 (Hospitality)

E — 迅速で効率的な医療 (Efficient)

A — 向学心に満ちた医療 (Academic)

R — 充実した地域医療 (Regional)

T — 信頼感のある医療 (Trustful)

優しく効率的で向学心に満ちた地域医療で信頼を得ることを目指します。

基本方針

地域における医療機能分担を重視し、病診連携・病病連携を最重視し医療連携を推進します。

急性期病院を中心に地域にねざした医療を目指します。

入院治療を中心とし、高度な医療を提供します。

地域医療支援病院として、24 時間二次救急医療の充実に努めます。

職員の向学心を醸成し、優れた医療の提供に努めます。

患者さんの権利章典

取手北相馬保健医療センター医師会病院は、WMA リスボン宣言に則り以下に記載する患者の権利を擁護、保障します。

1. 良質の医療を受ける権利

すべての人は、差別なしに適切な医療を受ける権利を有する。

患者は、常にその最善の利益に即して治療を受けるものとする。

供給を限られた特定の治療に関して、それを必要とする患者間で選択を行わなければならない場合は、そのような患者はすべて治療を受けるための公平な選択手続きを受ける権利がある。

患者は、医療を継続して受ける権利を有する。

2. 選択の自由の権利

患者は、医師、医療機関を自由に選択し、また変更する権利を有する。

患者はいかなる治療段階においても、他の医師の意見を求める権利を有する。

3. 自己決定の権利

患者は、自分自身に関わる自由な決定を行うための自己決定の権利を有する。

判断能力のある成人患者は、いかなる診断上の手続きないし治療に対しても同意を与えるかまた差し控える権利を有する。患者は自分自身の決定を行ううえで必要とされる情報を得る権利を有する。

患者は医学研究あるいは医学教育に参加することを拒絶する権利を有する。

4. 意識のない患者

患者が意識不明かその他の理由で意思を表明できない場合は、法律上の権限を有する代理人から、可能な限りインフォームド・コンセントを得なければならない。

法律上の権限を有する代理人がおらず、患者に対する医学的侵襲が緊急に必要とされる場合は、患者の同意があるものと推定する。

5. 患者の意思に反する処置

患者の意思に反する診断上の処置あるいは治療は、特別に法律が定めるか医の倫理の諸原則に合致する場合には、例外的な事例としてのみ行うことができる。

6. 情報に関する権利

患者は、いかなる医療上の記録であろうとそこに記載されている自己の情報を受ける権利を有し、また症状について医学的事実を含む健康状態に関して十分な説明を受ける権利を有する。しかし第三者についての機密情報は、その者の同意なくしては与えてはならない。

例外的に、情報が患者自身の生命あるいは健康に著しい恐れがあると信ずるべき十分な理由がある場合は、その情報を患者に与えてはならない。

患者は、他人の生命の保護に必要とされていない場合に限り、その明確な要求に基づき情報を知らされない権利を有する。

7. 守秘義務に対する権利

患者の健康状態、症状、診断、予後及び治療について個人を特定しうる情報ならびにその他個人のすべての情報は、患者の死後も秘密が守られなければならない。

秘密情報は、患者が明確な同意を与えるか、あるいは法律に明確に規定されている場合に限り開示することができる。

個人を特定しうるあらゆる患者のデータは保護されなければならない。

8. 尊厳に対する権利

患者は、その文化宗教および価値観を尊重されるように、その尊厳とプライバシーを守る権利を有する。

患者は、人間的な緩和ケアを受ける権利を有する。

目 次

医師会長挨拶	
病院長挨拶	
病院理念・基本方針	
患者さんの権利章典	
病院の概要と沿革	
沿革	1
施設基準	2
病院組織	3
診療科報告	
内科	5
外科	8
循環器科・循環器センター	10
整形外科	12
健康管理部	
健診科	14
看護部報告	
看護部	20
東3階病棟	24
東4階病棟	27
南4階病棟	31
外来・救急外来	35
手術・中央材料室	40
医療相談室	46
診療技術部報告	
放射線科	48
検査科	54
リハビリ科	58
栄養科	61
薬剤科	67
診療支援部報告	
医療情報管理室	73
医療連携室	74
安全管理室	76
事務部報告	
医事課	77

総務課	81
経理課	82
保育室	83
委員会報告		
医療安全管理委員会	84
感染対策委員会	86
カルテ・クリティカルパス委員会	90
医療の質向上委員会	91
化学療法委員会	93
医療ガス安全管理委員会	94
NST褥瘡対策委員会	95
教育委員会	98
薬事委員会	100
コンピューター委員会	101
栄養委員会	102
広報委員会	104
輸血療法委員会	105
個人情報保護委員会	106
倫理委員会	107
災害対策報告		
DMAT	108
取手市師会		
役員		
活動内容		
生涯教育講演会・研究会		
メディア掲載		
取手の病院に医師派遣…		

病院概要と沿革

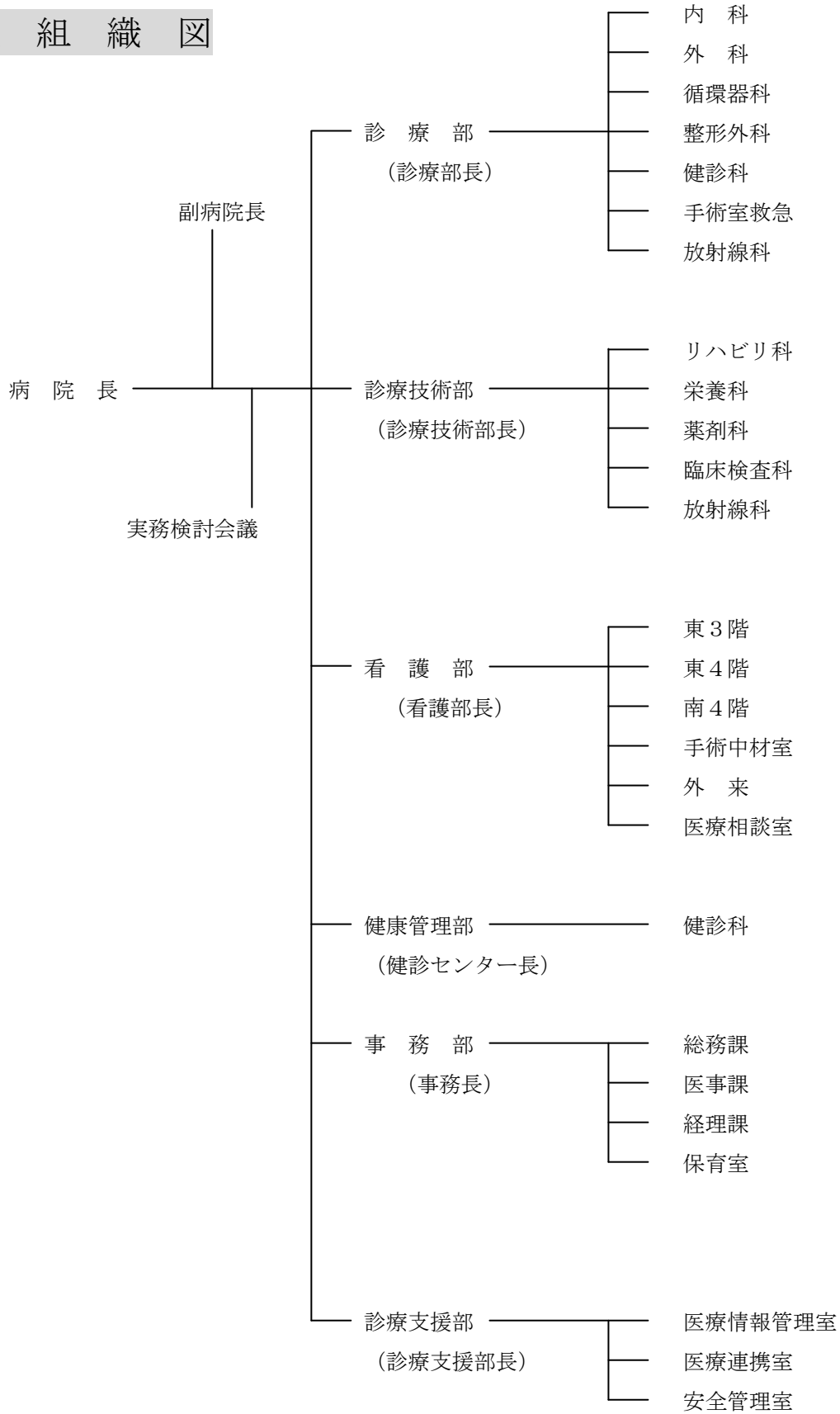
沿 革

明治 35 年		北相馬郡医師会を結成
昭和 22 年	11 月	法律改正により、社団法人北相馬郡医師会設立
昭和 44 年	6 月	取手町内において休日緊急当番医制を実施
昭和 45 年	9 月	守谷町内において休日緊急当番医制を実施
昭和 48 年	6 月	社団法人取手市医師会に名称を変更
昭和 57 年	7 月	取手北相馬保健医療センター医師会病院開設
同年	10 月	取手北相馬休日夜間緊急診療所開設
平成 5 年	11 月	訪問看護ステーションひまわり開設
平成 6 年	4 月	茨城県南地域産業保健センター開設
平成 9 年	3 月	医師会病院リハビリテーション棟増築
同年	11 月	医師会病院健診センター増築
平成 12 年	4 月	ひまわり居宅介護支援事業所開設
平成 18 年	3 月	医師会病院療養棟 50 床増床
同年	6 月	医師会病院一般病棟 50 床増床
同年	8 月	地域医療支援病院認定
平成 24 年	11 月	取手北相馬保健医療センター医師会病院 30 周年記念式典開催
平成 26 年	2 月	筑波大学との寄附講座設置に関わる協定を締結

施設基準(平成 25 年 11 月 1 日現在)

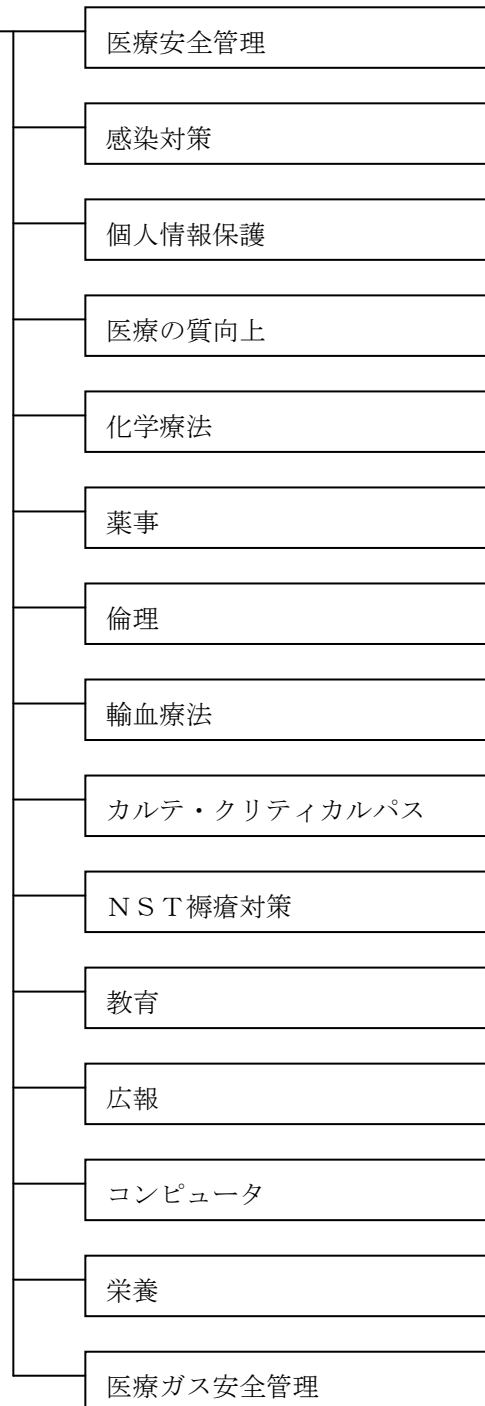
一般病棟入院基本料 (10 対 1)	医科点数表第 2 章第 10 部 手術の通則の 5 及び 6 に掲げる手術
療養病棟入院基本料 2	糖尿病合併症管理料
診療録管理体制加算	画像診断管理加算 1
療養病棟療養環境加算 1	画像診断管理加算 2
療養環境加算	心臓 MRI 撮影加算
重症者等療養環境特別加算	大動脈バルーンパンピング法
医師事務補助体制加算 (50 対 1)	医療機器安全管理料 1
臨床研修病院入院診療加算	輸血管理料 (Ⅱ)
救急医療管理加算	検体検査管理加算 (Ⅳ)
急性期看護補助体制加算 1 (50 対 1)	運動器リハビリテーション料 (Ⅰ)
栄養サポートチーム加算	肝炎インターフェロン治療計画料
救急搬送患者地域連携紹介加算	がん患者リハビリテーション料
救急搬送患者地域連携受入加算	遠隔画像診断
感染防止対策加算 2	がん性疼痛緩和指導管理料
医療安全対策加算 2	冠動脈 CT 撮影加算
退院調整加算	がん患者カウンセリング料
入院時食事療養 (Ⅰ)	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
入院時生活療養 (Ⅰ)	CT 撮影 (64 列) 及び MRI 撮影 (1.5 テスラ)
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	夜間休日救急搬送医学管理料
呼吸器リハビリテーション料 (Ⅰ)	大腸 CT 撮影加算 (64 列)
薬剤管理指導料	在宅患者訪問看護・指導料
開放型病院共同指導料	同一建物居住者訪問看護・指導料
ニコチン依存症管理料	糖尿病透析予防指導管理料
外来化学療法加算 1	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅰ)	輸血適正使用加算
検体検査管理加算 (Ⅰ)	がん治療連携指導料

病院組織図



院内委員会一覧

病 院 長



診 療 科 報 告

内 科（総合医療）

1. スタッフ

内科医長 熊谷 宗士

許 表勝、岩崎 正彦、川邊 淳夫

2. 診療内容

当科の基本理念を実行できるよう謙虚に耳を傾け丁寧な身体診察、適切な検査の実施、適切な医療のレベルの確保を心がけてきた。内科的診療を担っており、健康診断での指摘事項の精密検査、特殊な診断・治療を必要とする疾患まで幅広く診療を行っている。特に当科では下記の疾患の診療に力を入れている。

糖尿病疾患

主な診療内容は糖尿病の診療と内分泌疾患の診断・治療である。診療対象疾患は糖尿病、高脂血症、肥満症、甲状腺疾患、等である。

糖尿病の診断、治療に関して様々な面から個々の患者に最適なアプローチを試みている。糖尿病治療の基本は食事療法・運動療法・薬物療法であり、一人一人の患者に対してその方の生活環境や背景を考慮し個別に取り組んでいる。食事療法は栄養指導室にて管理栄養士が適宜、そして繰り返し指導できる体制を設備している。

薬物療法に関しては適切な内服薬の選択はもとより、外来でのインスリン導入も実施している。糖尿病認定看護師の資格を有した看護師が勤務しインスリン注射、自己血糖測定の手技主導から生活指導まで幅広く糖尿病の療養指導を行っている。また、一般外来患者を対象とした糖尿病教室を毎月2回開催しており、幅広い方々に糖尿病に関する情報提供と指導を行っている。

内分泌疾患

内分泌疾患では2次性高血圧の鑑別診断として外来にて原発性アルドステロン症、褐色細胞腫等のスクリーニングを行っている。

甲状腺診療に関しては、橋本病、バセドウ病の薬物治療を行っている。

3. 病棟体制

内科は主に東4階病棟に入院。病棟看護師と共に各患者の問題点を共有し治療方針を決定している。

糖尿病に関しては、入院中に教育、療養指導に重点を置いた入院治療を実施している。これには担当医、病棟看護師だけではなく管理栄養士、薬剤師も治療に携わっている。

入院理由としては糖尿病ケトアシドーシスや慢性の高血糖状態是正のための血糖コントロール目的入院、腎症や足病変などの合併症の管理目的入院、糖尿病患者に生じた各種感染症等の治療目的入院があるが、いずれの場合も退院後の全身状態の改善のため、生活習慣の指導を徹底している。

肥満を伴った糖尿病患者に対しては肥満による健康障害の予防のため、食事療法を中心とした生活指導を実施し、内臓脂肪量や各種肥満関連データを患者様と共有している。リハビリテーションにも積極的に取り組んでいる。

また、厳格な食事療法とインスリン治療のあと GLP-1 製剤を使用することにより血糖改善だけでなく減量も達成し、長期にわたる血糖コントロールを目指す治療計画を実施している。

4. 診療体制

月曜から土曜まで2～3診体制で対応している。特殊外来として、糖尿病外来、肝臓病外来を開設している。

【外来診察】

月曜 午前 熊谷、梅田
午後 川邊、梅田

火曜 午前 川邊、梅田
午後 熊谷、梅田、岩崎

水曜 午前 熊谷、川邊、梅田
午後 許、梅田

木曜 午前 許、織壁
熊谷（糖尿病外来）
午後 織壁

金曜 午前 岩崎
午後 熊谷、許

土曜 午前のみ 川邊、山岡
中尾（第1、3、5週）
岩崎（肝臓病外来）

5. 診療実績

1) 外来患者数

初診患者数	2,990 人
再診患者数	20,537 人
延べ患者数	23,527 人

2) 入院患者数

新入院患者数 661 人

実患者数 1,528 人

延べ患者数 28,443 人

6. この1年

脳血管障害の治療として主治医、NSTラウンド、リハビリカンファ、管理栄養士指導に関わって早期退院を目指し実績を上げている。

外 科

1. スタッフ

病院長 鈴木 武樹
 外科部長 舟田 知也
 他 常勤 2名 非常勤 3名

2. 診療内容

当院は茨城県南の地域医療支援病院として、医師会会員の先生方の御協力を得て、日々診療を行っている。

当科において平成 25 年度は腹腔鏡手術が年間 100 例を越し単孔式手術、用手補助下腹腔鏡下手術（HALS）も施行するようになり地域医療支援のみではなく、高度医療の発信にも力を入れている。腹腔鏡手術もさることながら、開腹手術も 200 例を越え教育施設としての役割を果たすことも可能と考えている。疾患別にみても良性疾患から悪性腫瘍手術まで幅広い手術を行っており地域支援病院として緊急手術症例の対応にも力を入れている。化学療法においては外来化学療法室を活用しガイドラインに沿った治療を展開している。今後とも引き続き地域医療の一役を担い、地域の患者様に安心、安全な医療を提供することを心掛け日常診療に臨んでいく事が使命と考えている。

3. 手術実績

件数 331 件

臓器	疾患分類	件数	臓器	疾患分類	件数
食道	悪性腫瘍	1	肛門	良性疾患	6
胃・十二指腸	良性疾患	1	肝臓	原発性肝癌	2
	悪性腫瘍	21		転移性肝癌	1
	その他	1	胆道	胆道結石	40
小腸	イレウス	5		良性疾患	9
	良性疾患	1		悪性腫瘍	1
	悪性腫瘍	1	膵臓	悪性腫瘍	1
結腸	虫垂炎	20	腹壁	鼠径・大腿ヘルニア	38
	良性疾患	9		腹壁瘢痕ヘルニア	1
	悪性腫瘍	30		その他	3
	その他	5	乳腺	良性	22
直腸	良性疾患	2		悪性	28
	悪性腫瘍	4		その他	2
			その他		76
			計		331

4. 学会・研究発表

1. 萩原 謙、高山由理子、及川卓一、鈴木武樹、渡邊 寛、高山忠利：消化器外科領域における肺血栓塞栓症予防に対する術前下肢静脈エコーの有用性(ポスターセッション)、第 113 回日本外科学会定期学術集会、福岡、2013. 4. 11-13
2. 萩原 謙、高山由理子、及川卓一、鈴木武樹：当院における単孔式腹腔鏡下手術の安全で円滑な導入の取り組み、第 518 回日大医学会例会、東京、2013. 5. 18
3. 萩原 謙、高山由理子、及川卓一、鈴木武樹：胆石症、急性胆嚢炎に対する当院の strategy、第 42 回取手消化器研究会、取手、2013. 6. 26
4. 萩原 謙、高山由理子、及川卓一、鈴木武樹：消化器外科手術患者は深部静脈血栓症のリスクファクターか？(要望演題)、第 68 回日本消化器外科学会総会、宮崎、2013. 7. 17-19
5. 高山由理子、萩原 謙、林 友紀、及川卓一、林 成興、鈴木武樹、村山 公、高山忠利、鼠径ヘルニア手術における腹膜前腔の解剖を深めるための工夫(要望ビデオ)、第 68 回日本消化器外科学会総会、宮崎、2013. 7. 17-19
6. 萩原 謙、江原千東、及川卓一、鈴木武樹：左側結腸病変に対する Transumbilical HALS テクニックの有効性と今後の課題、第 4 回 HALS 研究会グループミーティング、東京、2013. 10. 26
7. 萩原 謙、江原千東、及川卓一、鈴木武樹、高山忠利：左側結腸病変に対する Transumbilical HALS テクニック (ビデオワークショップ)、第 75 回日本臨床外科学会総会、名古屋、2013. 11. 21-23
8. 萩原 謙、渡邊 寛、江原千東、及川卓一、鈴木武樹、高山忠利：VTE 予防に対する術前下肢静脈エコーの有用性-消化器外科患者は VTE のリスクファクターか？-(ワークショップ)、第 75 回日本臨床外科学会総会、名古屋、2013. 11. 21-23
9. 高山由理子、及川卓一、萩原 謙、村山 公、鈴木武樹、高山忠利：胆嚢嚢胞と鑑別が困難であった胆嚢リンパ管腫の 1 例(一般演題口演)、第 75 回日本臨床外科学会総会、名古屋、2013. 11. 21-23
10. 萩原 謙、江原千東、及川卓一、鈴木武樹、松田 年、高山忠利：Albert-Lembert 吻合による体腔内手縫い Billrph I 法再建手術(主題関連演題)、第 26 回日本内視鏡外科学会総会、福岡、2013. 11. 28-30
11. 高山由理子、萩原 謙、江原千東、及川卓一、鈴木武樹、高山忠利：二期的に腹腔鏡下胃全摘術と腹腔鏡補助下低位前方切除術を施行した一例 (一般演題口演)、第 26 回日本内視鏡外科学会総会、福岡、2013. 11. 28-30

5. 講演

1. 獣医腹腔鏡セミナー 2013. 10. 24 静岡
萩原 謙、講演

循環器科・循環器センター

センター長（副病院長兼任）： 渡邊 寛（S56年卒 筑波大学卒業）

主な所属学会：日本外科学会、日本臨床外科学会（正会員）、米国胸部外科学会（国際会員）、アジア心臓血管外科学会（正会員）、日本胸部外科学会、日本血管外科学会、日本外科感染症学会、日本脈管学会、日本不整脈学会（評議員）、日本循環器学会、日本プライマリ・ケア連合学会

主な資格：外科指導医、胸部外科指導医、外科専門医、脈管専門医、日本プライマリ・ケア連合学会認定医、日本不整脈学会評議員

1. 心筋梗塞、狭心症

急性冠動脈症候群（急性心筋梗塞症および不安定狭心症）については、現在は当院は心臓カテーテルを行っていませんので、医局に所属しておられる検査可能な施設か筑波大学附属病院ならびに筑波メディカルセンター病院に速やかに転送しています。

また緊急カテーテル検査並びに冠動脈形成術の時期を過ぎて安定期の方は心臓リハビリを行ってから、冠動脈CTなどを行いしかるべき施設にご紹介しています。

2. 心不全

心エコー法を用い心不全の原因を検索し的確な治療を行っています。急性心不全により、緊急入院の必要な患者の受け入れを随時行っており、現在主流の慢性心不全症例に対する β ブロッカーの導入も行っています。薬剤抵抗性心不全症例に対する再同期ペーシング+植え込み式除細動治療（CRT-D）なども筑波大学循環器内科と連携しご紹介しています。

3. 心臓弁膜症

近年増加している僧帽弁疾患、大動脈弁疾患に関しても心エコー法を用い重症度を正確に評価し手術適応を決定し治療しています。外科手術は筑波大学心臓血管外科と連携しています。

4. 高血圧症

2次性高血圧症の鑑別診断を行った後、各々の病態に応じた治療を行っています。携帯型24時間血圧監視記録検査により血圧の日内変動を観察し、治療に反映させています。また、数日の入院を行い、高血圧症の原因、臓器障害の程度を詳しく検査も行っています。なお、自動血圧計データは院内解析ですので迅速な報告や経時的なデータ管理も可能です。

5. 不整脈

ホルター心電図長時間記録検査、電気生理学的検査により診断している。徐脈性不整脈については必要に応じ、恒久的ペースメーカーの植え込み術を施行しています。カテーテルアブレーション治療は筑波

大学循環器内科と緊密な連携をとっています。

6. 大動脈疾患

CTなどで迅速な診断を行い、緊急症例に関しては筑波大学臓血管外科と連携しています。

7. 血管疾患治療

間欠性跛行患者には下肢血管エコー、および下肢 CT アンギオを用いた非侵襲的解剖診断を行い、TASC IIに則った標準的治療に導いています。手術等は筑波大学の心臓血管外科、循環器内科、放射線科と緊密な関係を築いています。

下肢の静脈血栓、特に深部静脈血栓症では、腫れや痛みを感じ、肺梗塞の原因になりえますが、血栓溶解剤や抗凝固剤を用いて治療し、必要によっては静脈フィルターを留置します。心エコー、放射線科とも緊密な協力体制を構築し、他科のコンサルテーションにも応じております。高齢化や地域特性も有り深部静脈血栓症の検出も多く、各科でも学会発表や論文執筆も行われています。

検査は常勤の CVT（血管診療技師）が参加しており、その判断で循環器科や各科に緊急の警報が速やかに行われるようになっています。また脈管学会の修練施設にも認定されています。

8. 救急受入れ体制

地域支援病院でもあり、他科の先生にも緊急対応の指針を示しています。

[学会・研究会発表発表]

1. 渡邊 寛：新機序利尿剤の V2 受容体拮抗薬が有効であった重症心不全症例
第 275 回 臨床研究会（茨城）. 2013 年 7 月 5 日

2. 渡邊 寛：冠動脈 CT 撮影時における塩酸ランジオロールの使用上の工夫
第 6 回茨城県周術期管理セミナー（茨城）. 2013 年 7 月 26 日

3. 萩原 謙、渡邊 寛、江原 千東、及川 卓一、鈴木 武樹、高山 忠利：
VTE 予防に対する術前下肢静脈エコーの有用性—消化器外科患者は VTE のリスクファクターか？
第 75 回日本臨床外科学会学術総会（名古屋）2013 年 11 月 21 日

4. 渡邊 寛、萩原 謙、中島佳子、吉田綾、横井直幸、及川卓一、江原千東、
熊谷宗士、川邊淳夫、大石武彦、金子正則、鈴木武樹：地域性、患者層を考慮した深部静脈血栓症リス
クの検討—積極的血管エコー検査施行経験から—
第 54 回日本脈管学会総会（東京）、2013 年 10 月 10 日

整形外科

1. 業務紹介

整形外科は運動器（骨・関節・靭帯・神経・筋肉といったからだの動きを担当する器官）の病気や怪我の治療を行っています。基本的な治療は薬や日常生活指導などの保存的加療が中心となりますが、必要に応じて手術をお勧めすることもあります。リハビリテーションと連携して治療を進めることもあります。

2. スタッフ紹介

中島 佳子
横井 直幸
吉田 綾

3. 平成 25 年度業績

手術件数 225 件
頸椎椎弓拡大形成術 20 件
腰椎手術 10 件
大腿骨近位部骨折観血的手術 47 件
人工股関節全置換術 3 件
人工膝関節全置換術 4 件
鏡視下手根管開放術 29 件 など

4. 今後の抱負・展望

総合的な治療・療養のため他の診療科との連携、地域の各病院・施設との連携を行います。症例に応じて筑波大学と連携し治療を進めます。

5. 業績

・学会・研究会発表

吉田 綾 特発性肘部管症候群に対する USE system を用いた内視鏡下
神経剥離術-McGowan Grade 別の術後経過-
第 56 回日本手の外科学会学術集会 2013. 04. 18
吉田 綾 絞扼性末梢神経障害に対する鏡視下神経剥離術
第 86 回日本整形外科学会学術集会 2013. 05. 25
吉田 綾 肘部管症候群に対する内視鏡下神経剥離術における非定型
所見
第 5 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 2013. 06. 20

Aya Yoshida Endoscopic management of tarsal tunnel syndrome using
USE system.

ISMISS JAPAN 2013.06.21

吉田 綾 しびれを自覚しない手根管症候群症例の手根管内圧

第24回日本末梢神経学会学術集会 2013.08.24

吉田 綾 絞扼性末梢神経障害に対する鏡視下神経剥離術

第174回茨城県整形外科集談会 2013.10.27

吉田 綾 足根管症候群に対するUSE systemを用いた鏡視下神経剥離
術

第19回日本最小侵襲整形外科学会 2013.11.03

吉田 綾 EVIDENCEに基づいた手根管症候群内視鏡手術の開発と長期
治療結果

第26回日本内視鏡外科学会 2013.11.28

・論文

Aya Yoshida Comparison of clinical results between elderly and
younger patients following endoscopic carpal tunnel
release surgery for idiopathic carpal tunnel syndrome.
Hand Surgery 18(1)

吉田 綾 USE systemを用いた肘部管症候群の手術-特発例と透析例の
比較- JOSKAS 38(3)

吉田 綾 特発性肘部管症候群に対するUSE systemを用いた鏡視下
神経剥離術のMcGowan Grade別術後経過
日本手外科学会雑誌 30(3)

6. 学生実習実績

なし

健 康 管 理 部

健 診 科

1. 業務紹介；当科の業務内容としては以下のごとくである。

1) 院内健診

- ・ 人間ドック／脳ドック
- ・ 生活習慣病健診
- ・ 定期健康診断
- ・ 特殊健康診断
- ・ 特定健診
- ・ 乳がん医療機関健診

2) 出張健診

- ・ 学校健診（腎臓・寄生虫・心臓・貧血・小児生活習慣病健診）
- ・ 住民健診（特定健診・各種がん検診）
- ・ 職域健診（生活習慣病健診・定期健康診断・特殊健診）

2. 職員紹介；当科の職員構成は以下のとおりである。

医師（敬称略）：平岡 昌和センター長（常勤）

林 益弘（非常勤：月火水）、大山 知弘（非常勤：木）、織壁 美名子（非常勤：金）、
佐藤 明子（非常勤：木／脳ドック）

職員 常勤職員：17名

非常勤職員（院内健診：6名）

非常勤職員（出張健診：36名）

3. 平成 25 年度事業実績

1) 院内健診

- ・ 人間ドック : 2,111 名 ・ 脳ドック : 103 名
- ・ 生活習慣病健診 : 1,635 名 ・ 定期／特定／特殊健診 : 2,014 名
- ・ 乳がん検診 : 430 名

2) 出張健診

- ・ 学校健診：市町村立学校 98 校
(私立学校 10 校、県立学校 40 校)

(児童・生徒)

- ・ 腎臓検診（尿検査） : 46,285 名
- ・ 寄生虫検査（ぎょう虫） : 8,709 名
- ・ 貧血検査 : 3,419 名
- ・ 小児生活習慣病予防健診 : 2,479 名

- ・心電図検査 : 13,207 名
- ・胸部 X 検査 : 8,507 名
- (職員健診)
 - ・定期健康診断 : 1,130 名, ・胃がん検診 : 496 名
 - ・住民健診 (取手市・守谷市・利根町: 特定健診・各種がん検診)
 - ・特定健診 : 21,054 名 ・肺がん健診 : 18,555 名
 - ・胃がん検診 : 4,351 名 ・大腸がん検診 : 7,120 名
 - ・乳がん検診 : 2,911 名 ・子宮がん検診 : 2,360 名
 - ・骨粗しょう症検診: 250 名 ・肝炎ウイルス検査 : 1,634 名
 - ・職域健診 52 事業所 (生活習慣病健診・定期健康診断/特殊健診)
 - ・定期/特殊健診 : 5,972 名 ・生活習慣病健診 : 4,448 名

4. 平成25年度の特別活動； 人間ドック受診者へのアンケート調査

今年度の特別活動として、当院の人間ドック受診者を対象として、当院健診科での受診についてのどのような満足度・不満・要望等を感じているのか、さらに受診結果が受診者の健康維持・増進に寄与しているかを知り、今後の健診業務の改善に資するためにアンケート調査を行なった。

(1) 対象；平成24年度に当科人間ドックを受診した2069名（男性 1155名、女性914名）全員に対し、アンケート用紙を送付し、624名（30.2%）から回答を得た。回答者の内訳は、男性337名、女性286名、記入なし1名であった。その主な年齢構成では、60歳代が230名（36.9%）と最も多く、次いで50歳代137名（22.0%）、70歳代112名（17.9%）、40歳代99名（15.9%）で、これらの世代が大部分であった。

(2) 受診理由と印象；

①動機

「自己の健康管理のため」445名、「職場の健康診断のため」164名、「体調等に気になることがあった」16名、「家族や知人に勧められた」8名、など。

②当院を選んだ理由

「職場や自宅から近い」303名、「職場や健保組合の指定病院である」211名、「かかりつけ医、家族や知人に勧められて」73名、「毎年受けている」55名、など。

③当院以外で人間ドックを受診した経験者は319名（590名中）

④他院との比較において

○当院の良かった点

・予約しやすい、 * 職員の対応が親切・丁寧、 * 検査がスムーズ、待ち時間が短い、ひとつのフロアで健診が受けられ、一般病棟と区別されている、などが挙げられている。

⑤当院への要望等について

・昼食が良くない、 * 審査医師の説明が少ない、詳しい説明をしてほしい、胃カメラに関する要望、待ち時間が長い、検査項目を増やしてほしい、などが指摘された。

(3) 健診結果とその後の対策

① 総合判定結果

異常なし（A）及び軽度の異常あるも日常生活に支障なし（B）判定が31名のみであったが、その他大部分の572名では、経過観察、要精査ないしは治療中であった。

② 経過観察ないし要精査と判定された項目では（複数回答）

身体計測、脂質、肝機能、眼底、心電図などの異常所見が100名以上において指摘されていた。

③ 上記(ii)で指摘された異常についての対処

「かかりつけ医を受診した」105名、「当院を受診した」91名、「他の医療機関を受診した」63名、「これから受診する予定」37名であったが、「何もしていない」153名（34%）と約3分の1に相当することが判明した。

④ 上記3で受診したと答えた方の結果について

異常なし81名、経過観察134名、要治療67名、その他19名であった。

(4) 当院の人間ドックの結果報告書について

・十分理解できる内容であったと答えた受診者が513名であったが、“いいえ”と答えた受診者が68名（12%）認められた。

・それらの主な注文点をみると

結果の詳しい説明が足りない

専門用語がわかりにくい

毎年健診を受けているが、時系列での判定がない

経過観察や再検査の指示があいまい

総合判定が機械的で、再検査を受けるといつも異常なし

ピロリ菌検査の内容に不満、などが主なものであった。

以上のアンケート調査結果を踏まえて、今年度からはすでに食事の改善を行い、胃カメラでは経鼻胃カメラ検査を導入、ピロリ菌検査を当院内科受診時での重複を避ける等の検査の改善処置を行うなどの改善策を実行している。さらに、検査結果の説明・総合判定の表現や内容の難解さを極力避けるために、判定区分の見直しと記載方法について改良を加えて平成26年4月からわかりやすい総合判定結果を目指した取り組みを始めている。また、希望する受診者には総合判定の説明会の開催も企画している。

5. 今後の抱負・展望

上記4のアンケート調査の結果を踏まえて、検査結果の記載方法の改善、受診者の疑問に対する結果説明会の企画、要精査の結果が出た受診者へは当院ないしはかかりつけ医、他の医療機関への受診を電話や手紙等により、より積極的に受診を勧める企画を進めている。これらのことにより、健診の結果、要精査・再検査を必要とする受診者において“受診後何もしていない”割合を極力減らして健康増進とその維持、疾病の早期発見に貢献できるように努めたい。

今日、近隣の医療機関でも人間ドック施設を拡充した事業拡大に伴い当院の人間ドック受診者の経年受診によるリピート率は約75%代となっている。今後は健診検査のみならず、再検査のための受診

指導や保健指導を含め、受診者のニーズにソフト面で充実させリピート率を高め、受診者数の向上に努めたい。また、企業訪問による出張健診は健診料金等においてますます他機関との競合になっていくと予想される。今後、医師会病院の知名度を生かして健診から医療までをフォローすることで、信頼関係を構築し事業を拡大していきたい。

6. 業績（学会発表／参加）

- | | | |
|----------|-------|---|
| 25.6.22 | 萱橋 純子 | 精度管理研修会参加（日本総合健診医学会） |
| 25.9.3 | 海老原 聡 | 竜ヶ崎地区全国労働衛生週間準備打ち合わせ会
健診結果の見方・運動療法について講演 |
| 25.9.25 | 海老原 聡 | ヘルシー若返り講座（運動指導）：利根町 |
| 25.10.1 | 海老原 聡 | すらしボディ講座（運動指導）：利根町 |
| 25.10.18 | 海老原 聡 | 健診結果の見方・運動療法 講演：キリンビール |
| 25.11.13 | 海老原 聡 | 健診結果の見方・運動療法 講演：東京鉄骨 |
| 25.11.22 | 海老原 聡 | 骨粗しょう症予防教室・運動指導：取手市 |
| 25.11.29 | 面高 由佳 | 生活習慣病予防スキルアップ研修参加 |
| 26.1.31 | 貝津 真弓 | 日本総合健診医学会参加 |
| 26.3.7 | 海老原 聡 | 食生活改善推進員研修会・運動指導：利根町 |

「平岡 昌和」

英文原著論文

- 1) Fukamizu S, Sakurada H, Hayashi T, Hojo R, Komiyama K, Tanabe Y, Tejima T, Nishizaki M, Kobayashi Y, Hiraoka M. Macroreentrant Atrial Tachycardia in Patients without Previous Atrial Surgery or Catheter Ablation: Clinical and Electrophysiological Characteristics of Scar-Related Left Atrial Anterior Wall Reentry. J Cardiovasc Electrophysiol 2013;24:404-412.
- 2) Takagi M, Aonuma K, Sekiguchi Y, Yokoyama Y, Aihara N, Hiraoka M. The prognostic value of early repolarization (J wave) and ST-segment morphology after J wave in Brugada Syndrome: Multi-center study in Japan. Heart Rhythm. 2013;10:533-539.
- 3) Sekiguchi Y, Aonuma K, Takagi M, Aihara N, Yokoyama Y, Hiraoka M. New Clinical and Electrocardiographic Classification in Patients with Idiopathic Ventricular Fibrillation. J Cardiovasc Electrophysiol 2013;24:902-908.
- 4) Hiraoka M, Takagi M, Yokoyama Y, Sekiguchi Y, Aihara N, Aonuma K; Japan Idiopathic Ventricular Fibrillation Study Investigators. Prognosis and risk stratification of young adults with Brugada syndrome. J Electrocardiol. 2013 46:284-288.
- 5) Nishizaki M, Yamawake N, Sakurada H, Hiraoka M. ECG interpretation in Brugada syndrome. Journal of Arrhythmia 2013;29:56-64.

その他共著4編

和文原著論文

- 1) 林 武邦, 深水 誠二, 赤澤 良太, 名内 雅宏, 西村 卓郎, 渡邊 智彦, 北村 健, 島田 博史, 岩澤 仁, 石川 妙, 北條 林太郎, 前野 健一, 大塚 信一郎, 小宮山 浩大, 田邊 康宏, 手島 保, 西崎 光弘, 平岡 昌和, 櫻田 春水. 東枝間リエントリー性心室頻拍と脚枝間リエントリー性心室頻拍が合併していた陳旧性心筋梗塞の1例. 臨床心臓電気生理 2013;36: 185-193.
- 2) 北村 武, 伊藤晋平, 谷井博亘, 山口博明, 岡崎英隆, 稲葉茂樹, 桜田春水, 深水誠二, 西崎光弘, 平岡昌和. 心室性期外収縮へのカテーテルアブレーション後に急性心膜炎を来たし、広範なJ波の出現後多形性心室頻拍、心室細動を来たした1例. 心臓、2013;45(Supple 3):161-165.
- 3) 瀬谷美瑛, 山分規義, 田村夏子, 稲村幸洋, 中村知史, 高山 啓, 金子雅史, 清水雅人, 藤井洋之, 西崎光弘, 桜田春水, 平岡昌和. Unmappable VT に対して EnSite-NavX mapping が有用であった1例. 心臓, 2013;45(Supple 3):189-195.

和文著書

- 1) 新 博次, 矢板正弘, 小野克重, 平岡昌和 (編). 抗血栓治療薬の現状と未来. ライフメディコム、東京、2013.

和文総説その他

- 1) 平岡昌和. Brugada 症候群と薬物に関するウェブサイト (BrugadaDrug.org Safe drug use and the Brugada syndrome). JPN J Electrocardiol 2013;33:248-249.

国際学会発表

- 1) HIRAOKA M, SEKIGUCHI Y, TAKAGI M, YOKOYAMA Y, AIHARA N, AONUMA K, for the Japan Idiopathic Ventricular Fibrillation Study (J-IVFS) Investigators. Clinical Characteristics of Patients with Idiopathic Ventricular Fibrillation Excluding Brugada Syndrome - *Japan Idiopathic Ventricular Fibrillation Study (J-IVFS)*. In Symposium ; Idiopathic Ventricular Fibrillation and Early Repolarization. The 40 the International Congress on Electrocardiology (ICE2013). August 8, 2013, Glasgow, Scotland.
- 2) Hiraoka M. J wave syndrome or early repolarization syndrome. Symposium; Early Repolarization” . October 2, 2013. Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session 2013 (APHRS2013), Hong Kong.

その他、共同発表者として5演題

国内学会発表

- 1) 秋葉美佳, 浅岡絃子, 小島麻記子, 相澤由貴子, 貝津真弓, 神田吉也, 平岡昌和, 鈴木武樹. 特定保健指導における短期目標体重値設定の検討 - 4%減量達成に向けて-. 第54回日本人間ドック学会学術大会、2013年8月30日、浜松市.
- 2) 古田恒二, 許 表勝, 岩崎正彦, 平岡昌和, 鈴木武樹. 子宮内膜細胞診の従来法と液状検体処理法の比較及び組織診断. 第42回日本総合健診医学会、2014年1月31日、東京

- 3) Y. Inamura, N. Yamawake, K. Li, Y. Hada, K. Hada, T. Takamiya, H. Shimada, T. Nakamura, M. Shimizu, H. Fujii, M. Nishizaki, H. Sakurada, M. Hiraoka 「冠攣縮性狭心症における J wave の意義」第 33 回日本ホルター・ノンインベシブ心電学研究会、2013 年 6 月、東京
 - 4) 福岡裕人、北條林太郎、河村岩成、森山優一、中田晃裕、荒井 研、名内雅宏、西村卓郎、渡邊智彦、北村 健、小宮山浩大、田辺康宏、深水誠二、手島 保、西崎光弘、平岡昌和、櫻田春水 疼痛による状況失神が植え込み型ループレコーダーで高度房室ブロックと診断できた 1 症例。2013 年 7 月 第 4 回失神研究会
 - 5) M. Shimizu, H. Fujii, N. Tamura, M. Seya, Y. Inamura, T. Nakamura, K. Takayama, M. Kaneko, N. Yamawake, M. Nishizaki, H. Sakurada, M. Hiraoka : 「Autonomic nerve system disturbance in patients with takotsubo cardiomyopathy」, 日本不整脈学会総会, 2013 年 7 月 東京.
- その他、共同発表者として 29 演題の発表

院内研究会

- 1) 平岡昌和 平成 25 年 6 月 7 日 (金) 第 274 回臨床研究会
演題「危険な不整脈の見分け方」
- 2) 平岡昌和 平成 26 年 1 月 10 日 (金) 第 279 回臨床研究会
演題「ブルガダ症候群について」

国際学術論文査読

1. Circulation Arrhythmia, Electrophysiology (USA)
2. Journal of Cardiovascular Pharmacology (USA)
3. Journal of Electrocardiology (USA)
4. Pacing and Cardiac Electrophysiology (PACE) (USA)

学会活動

1. President, International Society of Electrocardiology
2. Past-President & Chairman, Advisory Subcommittee, Asia Pacific Heart Rhythm Society (APHR)
3. 日本心電学会学術諮問委員会委員長
4. 日本学術会議連携会員

その他の活動

1. 公益財団法人・日本心臓財団評議員
2. 公益財団法人・福田記念医療技術振興財団・学術選考委員会委員長
3. 公益財団法人・井上科学振興財団 井上学術賞候補者推薦人

看 護 部 報 告

看護部

1. 業務紹介

一般病棟においては入院基本料 10 対 1、急性期看護補助体制加算 50 対 1、夜間急性期看護補助体制加算 50 対 1 を、療養病棟においては、療養病棟入院基本料 2（看護配置 25 対 1 以上、看護補助配置 25 対 1 以上、看護職員中看護師比率 20%以上、看護要員の月平均夜勤時間数 72 時間以内）の届出をしている。

東 3 階は外科・整形外科混合病棟で、主に手術前・手術後の患者、化学療法を行う患者が入院対象となる HC 室 5 床を含む一般急性期病棟である。当院には、ICU がなく、侵襲が大きく重症度の高い手術患者が手術後すぐに病棟管理となり、高いアセスメント能力・判断力・スキルが要求される。東 3 階病棟には、質の高い看護を提供することができる外科系のプロフェッショナルが揃っている。

東 4 階病棟は内科・循環器・終末期の混合病棟である。高齢者の看護はもちろん、緊急を要する心電図の解析に優れており、その対応に迅速に行動できること、さらに終末期の患者へのゆっくりとした心優しい対応まで必要とされる。東 4 階には緊急時の対応から終末期まで幅広く対応できるスタッフが揃っている。

南 4 階病棟は医療療養型病棟で、一般病棟と在宅・施設との間を結ぶ重要な役割がある。治療を終えた後の患者が対象となるが、特に、点滴や経管栄養ではなく、経口摂取が可能な状態で退院してほしい、という思いで口腔体操などのケアに力を入れており、平成 25 年度にはスタッフ 1 名が摂食・嚥下認定看護師研修を受講した。南 4 階病棟には、入院時と同等もしくはそれ以上のレベルで退院して欲しいと願う家族の思いに寄り添い、細部まで行き届いた看護が提供できる、志の高いスタッフが揃っている。

手術室は、手術のほか内視鏡、特殊検査等を行っている。日々進歩する医療を学びながら、技術を身に付け、最先端の手術・処置に対応している。医療安全や感染対策等必要不可欠な管理だけでなく、患者に対して安心を提供することも求められる。手術室には、最先端の技術が提供でき、さらに優しさあふれるスタッフが揃っている。

外来は一般外来と救急外来、休日夜間診療所の 3 つの役割をもっている。一般外来は、内科・外科・整形外科のほか専門外来を有し、救急外来は 24 時間態勢で患者を受け入れている。また、休日夜間診療所は、当院の医師のほか取手市医師会に所属する医師との連携で外来を行っている。外来看護師は、地域住民とのプライマリーな関わりから特殊な専門性、さらには救急対応までジェネラルな知識・技術が提供できるスタッフが揃っている。

2. スタッフ紹介（平成 26 年 3 月末現在）

看護師	76 名
准看護師	17 名
看護助手	41 名
准看護学生	2 名

看護部長	1 名
看護師長	5 名
看護主任	4 名

3. 平成 25 年度実績

一般病棟入院基本料	10 対 1
急性期看護補助者加算	50 対 1
夜間看護補助加算	50 対 1
療養病棟入院基本料	2

一般病棟入院基本料 10 対 1 に則り、看護職員配置、看護必要度、入院患者数等管理を行った。平成 25 年度の 1 日平均入院患者数は 82 名で、月平均 1 日あたり看護配置数の基準値は 25 名、実績値は 26 名だった。看護必要度（一般病棟看護必要度評価加算又は急性期看護補助体制加算を届出ている病棟に入院し、10 対 1 入院基本料を算定している患者に行われたモニタリング及び処置等並びに患者の状況等の日常生活動作の自立度について行う毎日の評価）は 16.9%（A 得点 2 点以上かつ B 得点 3 点以上）で、平均在院日数は 17 日であり、以上のことから、入院基本料 10 対 1 の施設基準は満たしている。

平成 25 年度の当院常勤看護職員離職率は 10%であった。公益社団法人日本看護協会の「2013 年 病院における看護職員需給状況調査」によると、常勤看護職員離職率は調査全体で 11%、一般法人で 12.7%、200～299 床の病院で 11.4%、茨城県で 9.9%であるので、それらと比較すると、当院の方が低いか、ほぼ同じであることがわかる。

保健師助産師看護師法及び看護師等人材確保の促進に関する法律において、努力義務化された新人看護職員研修に関しては、新人看護師研修部会を設置し、毎年院内で全ての研修を実施している他、茨城県看護協会で行われている新人看護職員向けの研修に全て参加するようにしている。

平成 25 年度はブランディングに着目し、人材の獲得・確保を解決することを試みた。ブランディングとは、企業が顧客にとって価値のあるブランドを構築するための活動を指す。顧客の視点から発想し、ブランドに対する共感や信頼など顧客にとっての価値を高めていく戦略の一つである。

各部署から有志を募りプロジェクトチームを立ち上げ、1 か月 1 回活動を行い、明らかになった課題と取り組む点に関して、今、何が問題かを定義しプランを考え、活動を始めている。

4. 今後の抱負

ブランディング活動の一番の成果として、看護職員自らが病院や看護部のよいところを語れるようになり、少しずつ前向きな気持ちになってきていると感じる。また、即戦力ではないが、当院で働く看護学生・准看護学生が友人に当院を勧めるなどして、卒業後、当院での勤務を希望する看護学生も増え

ている。

現在、看護部のパンフレットおよびホームページを新たに作成している。今後は、病院と看護部のPR、広報を行い、「入職希望者を増加させる」という目標を達成したい。

5. 業績（学会発表等）

【講義】

1) 藤田あけみ

ファーストレベル研修「問題解決」

平成 25 年 9 月 20 日 平成 25 年度 認定看護管理者教育課程（ファーストレベル）研修講義

2) 藤田あけみ

<成人看護Ⅲ> 皮膚疾患患者の看護 2 章

平成 26 年 1 月 21 日、1 月 28 日、2 月 4 日 土浦市医師会附属准看護学院講義

【講演】

1) 藤田あけみ

「今日からはじめよう！フットケア」

茨城県腎臓病患者連絡協議会 第 42 回定例総会講演会

平成 25 年 6 月 9 日 茨城県総合福祉会館コミュニティホール

2) 藤田あけみ

「スキンケアの基礎知識」

TENA 排泄ケア研究部会

平成 25 年 8 月 10 日 千住ミルディズ

3) 藤田あけみ

「コンチネンスケア確立への組織的な取り組み」

—オムツ交換から看護・介護の質向上を考える—

TENA 排泄ケアセミナー

平成 25 年 11 月 30 日 チサンホテル郡山

4) 藤田あけみ

「コンチネンスケア確立への組織的な取り組み」

—オムツ交換から看護・介護の質向上を考える—

TENA 排泄ケアセミナー

平成 26 年 3 月 8 日 つくば国際会議場

5) 藤田あけみ

「病院・看護部に求められるブランディング力」

高田 誠¹、藤田あけみ²

¹株式会社オーセンティックス、²取手北相馬保健医療センター医師会病院

日本臨床看護マネジメント学会 平成 26 年度 学術研究会 特別講演 3

平成 26 年 3 月 9 日 東京都看護協会

【学会・研究会発表】

1) 藤田あけみ

<インフォメーション・エクステンジ 16>

「看護管理者としてグローバルなマネジメントスキルを身につけよう！！」

—M-S-T メソッドの活用と成果—

山元恵子¹、嶋森好子²、高田 誠³、藤田あけみ⁴、佐久間あゆみ⁵、吉川孝子⁶、
瀬下律子²

¹富山福祉短期大学 看護学科、²公益社団法人 東京都看護協会、³朝日サステイナビリティ・
マネジメント、⁴取手北相馬保健医療センター医師会病院、⁵一宮西病院、⁶春日部市立病院
第 17 回 日本看護管理学会学術集会 平成 25 年 8 月 24 日 東京ビッグサイト

【学会・研究会参加】

1) 藤田あけみ

第 10 回日本褥瘡学会関東甲信越地方会学術集会

平成 25 年 6 月 8 日 幕張メッセ 国際会議場

2) 藤田あけみ

第 31 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会

平成 26 年 2 月 21～22 日 仙台国際センター

【研修・講習会】

1) 藤田あけみ

第 1 回医療安全管理者養成研修会

平成 25 年 7 月 18～20 日、8 月 1～3 日 東京ビッグサイトファッションタウンビ
ル

2) 藤田あけみ

平成 25 年度 第 2 回 病院機能改善支援セミナー

平成 25 年 8 月 19 日 日本医師会館大講堂

3) 藤田あけみ

看護管理者のための経営分析セミナー

平成 26 年 1 月 30 日 (株) ホギメディカル 本社ホール

【雑誌投稿】

1) 藤田あけみ

組織の変化をつくり出すためのマネジメント力：特集 1 マインド・スキル・ツールメソッドの
成果. 医学書院 看護管理 2013 増刊号 vol. 23 no. 8

東 3 階 病 棟

1. 業務紹介

当病棟は病床数 58 床、外科・整形外科の混合病棟である。手術件数は年間 390 件を超える。疾患によっては手術前後に化学療法を行うこともある。外来部門と連携をとり、入院前に術前検査とオリエンテーションを行ない円滑に手術がすすめられるようにしている。

外科は乳房、胃、大腸、直腸などの悪性腫瘍による手術が主である。整形外科は転倒による骨折や頸椎の手術が主である。日常生活動作の低下をきたさず、早期退院を迎えられるように入院生活でできる部分は患者様自身で行えるように環境を整え、日常生活が自立できるような関わりを重視している。

医師・看護師・理学療法士・薬剤師・栄養士・ソーシャルワーカー等によるカンファレンスが定期的に行われている。多職種が協働し入院生活および退院に向け、よりよい看護を提供できるようにチーム医療を行っている。

2. スタッフ紹介

師長 1 名

主任 1 名

病棟スタッフ

看護師 19 名（日勤常勤 4 名・パート 4 名含む）

准看護師 3 名

（1 年未満 3 人 1～3 年 5 人 3～5 年 5 人 5～10 年 7 人 10 年以上 4 人）

看護助手 8 名

3. 平成 25 年度業務実績

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	月平均
病床稼働率	64.31	61.01	69.88	72.13	76.47	70.63	75.97	73.39	78.08	77.97	74.13	67.18	71.76
患者総数	1032	1207	1122	1193	1266	1138	1275	1189	1276	1304	1114	1116	1186
月平均患者数	35	39	38	39	41	38	42	40	39	42	40	34	38.91
平均在院日数	12.36	15.13	13.74	11.84	12.33	12.61	15.09	13.88	11.46	13.42	13.6	13.35	13.23
入院 (夜勤帯)	94 (14)	102 (18)	83 (16)	115 (24)	114 (27)	104 (27)	90 (22)	96 (32)	117 (21)	119 (29)	89 (21)	87 (13)	100.8 (22)
退院	87	101	94	104	109	91	91	88	128	102	94	99	99
手術	28	27	31	43	41	26	35	35	39	34	22	32	32.75
検査	518	579	482	606	603	480	535	587	617	680	476	577	561.8
化学療法	14	16	13	18	23	14	14	21	10	16	22	15	16

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総数	月平均
褥瘡院内発生 件数	2	4	6	3	4	4	1	1	3	3	2	4	37	3.08
褥瘡院内発生率	0.19	0.33	0.53	0.25	0.35	0.35	0.16	0.08	0.39	0.23	0.18	0.23		0.2725

4. 今後の展望

当病棟は手術の他、化学療法の入院もあるため、幅広い知識と技術を求められる。今年度は病棟内勉強会を月に1回、開催する計画をしている。自己研鑽に努め、外科・整形チームそれぞれのチーム内の知識・技術の向上に取り組んでいく。

化学療法については治療に要する日数や、点滴、検査、症状観察など必要な項目を明示するため、化学療法委員会でクリニカルパスの導入を検討している。5月より一部薬剤において、インフューザーポンプの導入がはじまる。委員会と協働し、医療スタッフだけでなく患者様に治療の内容と経過を解りやすく案内できるように完成にむけていく。

当科の整形外科は高齢者の転倒による骨折が多く、在宅、施設入所中と入院前の生活背景は様々である。今後も入院時より退院後の生活が円滑にいくように、多職種との連携を図っていく。入院基本料の施設基準にあるように平均在院日数を勘案した退院支援をすすめていきたい。

5. 業績

【研修・講習会】

1) 皮膚排泄ケア

平成25年6月7日 7月3・17日 8月1・29日 看護研修センター 1名参加

2) 実習指導者講習会

平成25年6月18日～9月20日 看護研修センター 1名参加

3) 救急看護

平成25年7月2日 土浦研修室 1名参加

4) ストーマリーダーシップコース

平成25年7月24・27日 東京慈恵医大病院 1名参加

5) 新人看護師が必要な安全対策

平成25年7月30日 土浦研修室 1名参加

6) 平成25年度栄養サポートチーム担当者研修会

平成25年8月2・3・4日 東京栄養食糧専門学校 244教室 1名参加

7) 輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い

平成25年8月6日 看護研修センター 1名参加

8) 学研セミナー「1日でわかる皮膚のすべて」

平成25年10月20日 秋葉原UDX 2名参加

9) 新人看護職に必要な看護倫理

平成25年10月11日 土浦研修室 1名参加

10) がん治療における化学療法

平成25年10月29・30日 看護研修センター 2名参加

- 11) 経腸栄養セミナー
平成 25 年 11 月 9 日 つくば大学病院 2 名参加
- 12) 平成 25 年度茨城医師会 准看護師卒後研修会
平成 25 年 11 月 16 日 茨城県医師会 1 階研修講堂 1 名参加
- 13) 学生指導者フォローアップ研修
平成 26 年 1 月 15 日 看護研修センター 2 名参加
- 14) 第 8 回 学会関東甲信越地方会 茨城県支部教育セミナー
第 6 回 日本褥瘡学会 茨城県支部在宅褥瘡セミナー
平成 25 年 1 月 19 日 茨城県メディカルセンター 2 名参加

6. 学生実習実績（平成 25 年度）

- 9 月 18 日～9 月 27 日：桜水会 土浦看護専門学校
3 年課程 1 年生 4 名
- 10 月 1 日～10 月 18 日：桜水会 土浦看護専門学校
2 年課程 1 年生 4 名

東 4 階 病 棟

1. 業務紹介

当病棟は、内科・循環器・外科（緩和）の混合病棟である。内科は肺炎や糖尿病・脳梗塞の患者が多く入院している。また、80歳以上の高齢者が多く、認知症があり、ADLも低下しているなどの理由から自宅退院が困難な患者が多く、後方病院や施設等へ退院の調整が必要な患者が多い。そのため、MSWとも連携をとり退院調整を行っている。循環器は不整脈や心不全、閉塞性動脈疾患、静脈血栓症などの患者が多く入院している。ペースメーカー置換術や静脈結紮術も行っている。月2回、循環器医師から講義があり心電図の基礎から応用まで学ぶことができ、知識だけでなく実践にも活かされている。外科は緩和患者が多く入院されている。週1回、医師・看護師・理学療法士・薬剤師・管理栄養士・MSWとともに癌のリハビリテーションカンファレンスを行い、多職種との連携を図り患者のQOLの維持・向上に努めている。混合病棟として幅広い疾患・治療に対しての看護を提供している。また、感染病棟でもあり感染管理認定看護師も配置されている。専門的知識のもと患者に安心・安全な看護を提供している。

平成25年2月より看護師2人一組で患者を受け持つようにしたことにより他スタッフの看護を知ることができ、お互いに刺激し高めあうことに繋がっている。教育や人材育成にも効果を発揮している。

2. スタッフ紹介

看護師 23名（日勤常勤：3名 夜勤専従：3名 パート：6名）
 准看護師 1名
 看護助手 10名

3. 平成25年度 実績

＜表1＞ 業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
病床稼働率	77.60%	79.57%	70.76%	80.98%	83.81%	82.57%	77.98%	79.24%	73.17%	74.53%	75.81%	76.06%
患者総数	1268	1343	1145	1360	1416	1360	1312	1282	1219	1256	1139	1282
平均在院日数	22.88	21.63	17.66	21.52	21.31	25.21	20.72	18.44	19.59	17.22	18.91	21.85
入院（夜勤帯）	57(10)	67(27)	72(18)	62(17)	74(24)	60(20)	67(26)	74(14)	58(16)	92(41)	57(24)	69(15)
退院	59	63	65	71	65	52	66	73	74	74	71	70
手術（ペースメーカー・気切）	2	4	3	2	0	3	3	3	1	3	1	1
検査	416	297	364	408	482	369	367	392	224	406	342	370

<表1-2> 業務実績（科別入院患者数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科	35	42	46	47	53	42	45	52	43	78	43	41
循環器	9	12	16	7	9	13	12	10	7	8	10	10
外科（ターミナル）	13	12	10	6	11	5	9	12	8	5	4	10

<表1-3> 内科入院疾患内訳

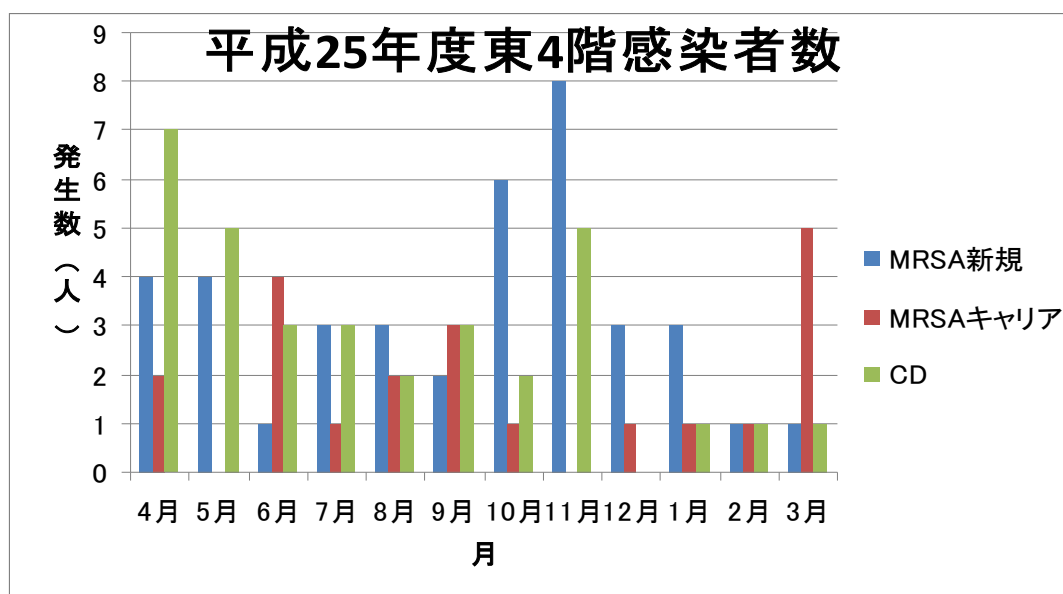
	総数 567名
肺炎	94
糖尿病	46

<表2> 褥瘡発生率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
褥瘡発生率	0.32%	0.30%	0.26%	0.15%	0.21%	0.21%	0.21%	0.21%	0.21%	0%	0.18%	0.16%

<表3> 感染状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
MRSA新規	4	4	1	3	3	2	6	8	3	3	1	1
キャリア	2	0	4	1	2	3	1	0	1	1	1	5
CD	7	5	3	3	2	3	2	5	0	1	1	1



4. 今後の抱負・展望

病棟の平均在院日数を短縮することに取り組む。まずは医師と協力しクリティカルパスを導入する。また、院内の連携だけでなく、近隣病院やクリニック、筑波大学附属病院や国立がんセンター東病院との連携も前年以上にとっていくことで患者本人・家族の望む医療・看護が提供できるようにする。また、入院期間が長期化しないように院内感染や褥瘡発生を減らす。

中途採用者にむけての育成プログラムを作成し、教育面を充実させる。そしてマグネットホスピタルの達成を目指す。

5. 業績（学会発表）

【学会・研究会発表】

1) 第29回日本環境感染学会総会・学術集会

間島 菜穂子

「インフルエンザ対策に対する職員の取り組み」：2月15日

「インフルエンザアウトブレイクを経験して」：2月15日

平成25年2月14、15日

グランドプリンスホテル新高輪、国際間パミール、グランドプリンスホテル高輪

【研修・講習会】

1) 「看護管理者のマネジメントスキル・ワークショップ」

平成25年9月6、7、8日 10月26、27日

東京看護協会 研修室 1名参加

2) 「退院調整看護師養成研修」

平成25年9月25日 10月11、28日

茨城県看護研修センター 研修室 1名参加

3) 「認定看護管理者フォローアップ研修」

平成25年11月26日 茨城県看護研修センター 研修室 1名参加

4) 「実習指導者講習会」

平成25年6月18日～7月19日 8月26日～9月20日

茨城県看護研修センター 研修室 1名参加

5) 「実習指導者講習会」

平成26年1月15日 茨城県看護研修センター 研修室 1名参加

6) 「自ら行動できる職業人、社会人を目指して」

平成25年5月21日 筑波メディカルセンター病院 1名参加

7) 「感染看護」

平成25年6月4日 土浦研修室 1名参加

8) 「救急看護」

平成25年7月2日 土浦研修室 1名参加

9) 「輸液・シリンジポンプの使い方」

平成25年8月6日 茨城県看護研修センター 研修室 1名参加

- 10) 「新人看護師が必要な安全対策」
平成 25 年 7 月 30 日 土浦研修室 1 名参加
- 11) 「新人看護師に必要な看護倫理」
平成 25 年 10 月 11 日 土浦研修室 1 名参加
- 12) 「栄養サポートチーム担当者研修会」
平成 25 年 8 月 2、3、4 日 東京栄養食糧専門学校 1 名参加
「病院実習」
平成 25 年 10 月 24、31 茨城県こども病院 1 名参加
- 13) 「看護必要度研修」
平成 26 年 2 月 16 日 ベルサール新宿グランド 2 名参加
- 14) 「北里大学感染制御研究機構」
平成 25 年 11 月 2 日 12 月 7 日 北里大学 白金キャンパス 1 名参加
- 15) 「茨城県感染管理認定看護師の会」
平成 25 年 11 月 30 日 つくば国際会議場 大ホール 1 名参加

6、学生実習実績（平成 25 年度）

9 月 1 8 日～9 月 2 7 日：桜水会	土浦看護専門学校	3 年課程	1 年生 4 名
1 0 月 1 日～1 0 月 1 8 日：桜水会	土浦看護専門学校	2 年課程	1 年生 3 名

南 4 階 病 棟

1. 業務紹介

当院の療養病棟は、入院基本料2の医療型療養病床である。急性期の治療が終了した後も治療の必要性が高く、日常生活全般に援助が必要な患者が入院し、入院患者の平均年齢は81.1歳で高齢者が多い。疾患別にみると、脳梗塞後遺症、パーキンソン病、肺炎、悪性腫瘍などが多く、点滴、緩和ケア、退院へ向けてのリハビリ目的と幅広いケアが必要になっている。患者や家族が安心して穏やかな入院生活が行えるように、理学療法士や栄養士、褥瘡・栄養サポートチーム、MSWなど多職種と連携を図り、個別性のある質の高い看護、介護を提供していきけるよう日々努力している。また、季節や行事毎に、病棟を飾り付けし、患者が楽しく療養生活を送れるように工夫している。

2 スタッフ紹介

医師：許 表勝

看護師・准看護師 13人

看護補助者 12人

① 床数：50床

② 病棟スタッフ

看護師 13名

看護助手 12名

<経験年数>

<経験年数>

1年未満：2人

1年未満：0人

1～3年：1人

1～3年：5人

3～5年：0人

3～5年：1人

5～10年：1人

5～10年：2人

10年以上：9人

10年以上：4人

3. 平成25年度実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
病床稼働率 (%)	91.5	91.6	90.2	89.6	85.7	84.7	82.8	91.6	88.8	87.3	86.4	90
患者総数	1365	1413	1350	1379	1321	1260	1276	1370	1370	1354	1206	1387
平均在院日数 (日)	343	355	902	231.7	332	230.9	256.8	392.6	393.4	302.4	345.7	310
入院 (転入含む) 患者数	15	12	8	15	15	14	15	13	10	11	4	12
退院 (転棟含む) 患者数	15	13	9	18	15	14	13	6	13	8	6	8
平均看護必要度 (%)	10.7	13.4	16.6	15.7	13.6	5.7	11.7	13.6	17.1	12.7	16.8	19.1
平均在院患者数	45.7	45.8	45.1	44.8	42.8	42.3	41.4	45.8	44.4	43.9	43.2	44.7

褥瘡発生率 (%)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0.15	0.14	0.07	0.07	0.15	0.16	0.16	0.22	0.07	0.15	0.16	0.14

転倒発生率 (%)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0.07	0.07	0	0.14	0.07	0.15	0.23	0.21	0.14	0	0.08	0.07

平均患者数と医療区分の割合

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均患者数	45.73	45.8	45.1	44.83	42.83	42.33	41.41	45.8	44.41	43.67	43.17	44.74
医療区分 2・3 平均	63	65	70	69	71	70	71	70	76	72	72	74

4 今後の抱負・展望

26年度の診療報酬の改定により、一般病棟で長期療養になる患者に関して、療養病棟での受け入れが必要となる。25年度の施設退院、転院患者は29名、自宅退院患者は14名であった。今年度はさらに、多くの患者が施設や自宅に退院できるようにしていく。そのためには、病棟全体で療養病棟の役割について理解を深め、医師やMSW、他職種と連携をとり退院調整していく。院内の受け入れ体制として、週1回各病棟に出向き、療養病棟適応患者の情報収集を行う。院外からの受け入れ体制として、MSWと患者訪問し、情報交換を行うなどして毎月の病床利用率を上げていく。

5. 業績

【学会・研究会発表】

- 1) 身体拘束に対するスタッフの意識変化—身体拘束体験から患者理解を深める—
今坂知美、片見千絵、岡野二三男、高橋令恵
第26回いばらき医療福祉研究集会 平成25年10月27日 つくば国際大学キャンパス

【研修・講習会】

- 1) 医療安全管理者養成研修会
平成25年7月18日～20日 8月1日～3日
東京ファッションタウンビル 東館9階研修室 1名参加
- 2) 平成25年度看護管理者等研修会
平成25年10月24日 水戸プラザホテル 1F ガーデンルーム 1名参加
- 3) 看護管理者のためのコンピテンシー・モデル入門
平成26年1月25日 医学書院本社2階 第1.2会議室 1名参加
- 4) 平成25年度茨城県医療安全研修会
平成26年2月2日 茨城県民文化センター大ホール 1名参加

- 5) 日本臨床看護マネジメント学会 平成 26 年度学術研究会
平成 26 年 3 月 9 日 東京都看護協会 2 階研修室 2 名参加
- 6) T E N A 排泄セミナー
平成 26 年 3 月 8 日 つくば国際会議場 4 名参加
- 7) 看護管理者のマネージメントスキル・ワークショップ
平成 25 年 4 月 27、28 日
東京都看護協会 研修室 1 名参加
- 8) 認定看護管理者教育課程 ファーストレベル研修
平成 25 年 6 月 26 日～平成 26 年 3 月 11 日 159 時間
茨城県看護研修センター 研修室 1 名参加
- 9) ユニチャーム・メンリッケ セミナー
平成 25 年 8 月 10 日
東京都足立区北千住 シアター 1010 講義室 4 名参加
- 10) 看護必要度ステップアップ研修（～記録と監査を中心に～）
平成 26 年 2 月 16 日
東京都看護協会 研修室 1 名参加
- 11) 新人教育研修
（長期的、継続的に優れた看護職員を確保するために）
平成 26 年 3 月 7 日
茨城県霞ヶ浦医療センター（茨城県看護研修センター土浦研修室） 1 名参加
- 12) がん患者の外見支援
平成 25 年 8 月 30 日
J A とりで総合医療センター、講堂 2 名参加
- 13) 皮膚創傷ケア最新トピックス
平成 25 年 9 月 27 日
J A とりで総合医療センター、講堂 2 名参加
- 14) メディカルケアサポート、セミナー i n 茨城
平成 25 年 6 月 22 日
茨城県メディカルセンター
- 15) 楽しくマスター。1 日でわかる皮膚のすべて（学研セミナー）
平成 25 年 10 月 20 日
秋葉原 V D X
- 16) 第 8 回日本褥瘡学会関東甲信越地方会、茨城県支部教育セミナー
平成 26 年 1 月 19 日
茨城県メディカルセンター
- 17) 院内感染とその対策：細菌について
平成 26 年 3 月 13 日
J A とりで総合医療センター 2 名参加

18) 認知症の人の症状がその人を理解する

平成 25 年 12 月 12 日

龍ヶ崎済生会病院 2 名参加

外 来

1. 業務紹介

地域医療支援病院として、地域の医療施設と緊密な連携を図り、急性期病院として質の高い医療サービスを行っている。平成25年4月から平日の夜間休日診療がなくなり、病院として24時間対応の外来診療を行っている。医師1名、看護師1名で救急患者の対応に当たり、休日と救急輪番日は内科、外科系医師2名で活動している。看護師は病棟との連携を図るため、6月から病棟夜勤応援（吸引や体位変換、点滴準備）を行っている。平成25年10月から、外来診療アシスタントが導入となり診療補助業務中心に活動している。診療待ち時間短縮や業務の効率化・安全な医療を目指して、皆様のご期待に沿えるよう努力している。

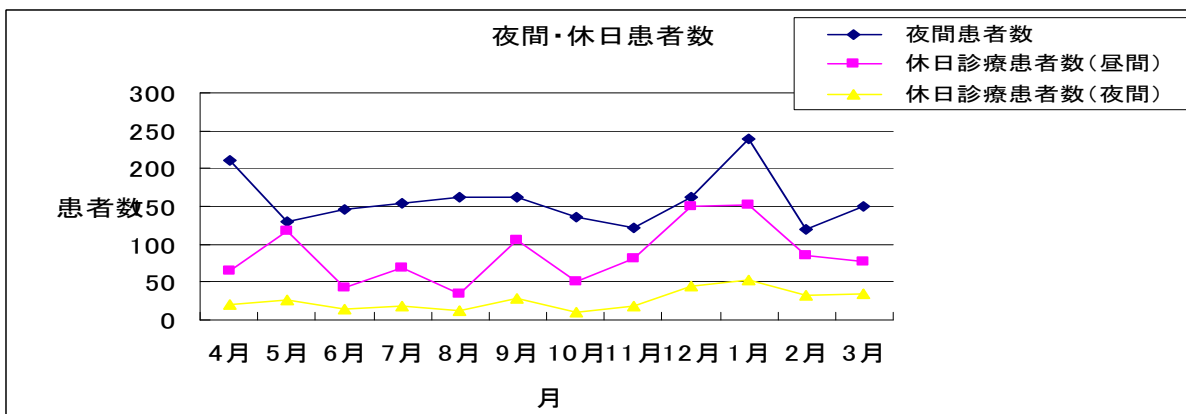
2. スタッフ紹介

看護師 常 勤：7名 非常勤：8名
 助 手：1名

3. 平成25年度実績

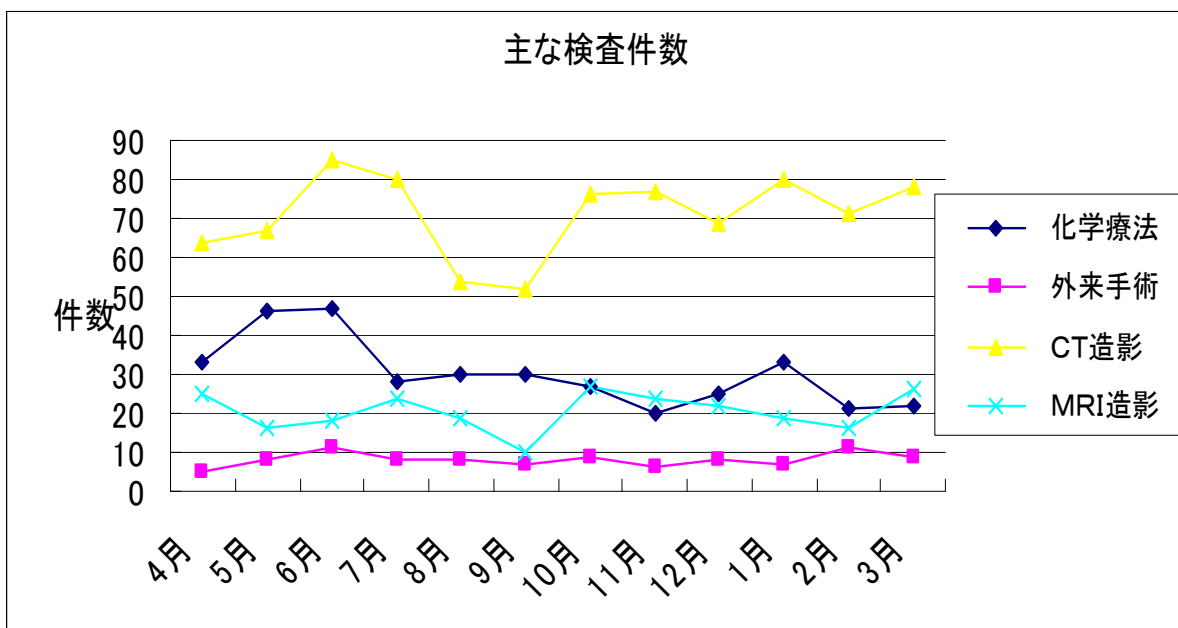
① 月別 患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
外来患者総数	4812	4893	4723	5033	4903	4544	5233	5298	5333	5263	4475	4885	59395	4951
日勤患者数	4601	4763	4578	4879	4741	4381	5097	5177	5171	5024	4238	4656	57306	4771
夜間患者数	211	130	145	154	162	163	136	121	162	239	120	116	1859	170
休日診療患者数(昼間)	64	118	43	68	35	105	51	81	151	153	85	78	1032	86.8
休日診療患者数(夜間)	21	26	14	18	12	29	11	19	45	52	32	35	314	27.9
入院患者総数	152	165	155	178	189	162	159	173	174	198	148	151	2004	169
直接入院数	47	39	36	51	42	45	42	43	52	50	42	48	537	42.8
外来入院数	105	126	119	127	147	117	117	130	122	148	106	103	1467	126



② 月別 検査・治療

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
化学療法	33	46	47	28	30	30	27	20	25	33	21	22	362	31.4
外来手術	5	8	11	8	8	7	9	6	8	7	11	9	97	7.83
ストマ外来	6	4	5	5	5	4	2	1	4	2	4	4	46	4
禁煙外来	8	3	4	5	8	5	5	6	11	10	10	7	82	7.33
透析予防指導	8	11	8	5	7	5	3	3	4	5	4	6	69	6
ボトックス注射	9	12	9	7	14	10	8	16	11	12	8	11	127	11.3
CT造影	64	67	85	80	54	52	76	77	69	80	71	78	853	70.4
MRI造影	25	16	18	24	19	10	27	24	22	19	16	26	246	19.8
冠動脈CT	7	3	1	6	3	5	6	2	3	1	5	3	45	3.75
静脈フィルター	0	0	1	1	5	2	0	0	1	1	1	2	14	1.08
TAE									1		1		2	1
胆管ドレナージ	4	1	1	2	1	2	2	5	6	6	7	4	41	3.58
レウス管挿入	1	1	4	3	2	3	1	3	4	1	0		23	2
リザーバー留置	1	1	3	4	8	2	3	0	2	3	1	2	30	2.83
脊椎造影	3		1	2	1	2	2		4	1	0	4	20	1.7
胸腔ドレイン	3		1				3	2		2	0	1	12	1.71
PTA		4	2	2	3	4	2	4	1		2	1	25	2.67
PICC			5	4	7	7	1	3	9	15	6	15	72	6.33
乳腺生検		2	4	5	10	2	15	5	2	7	4	3	59	5.6
その他(徒手整備)		1		1		1	1		4	1	1	1	11	1.43
予防接種							68	533	127	46	2		776	155



③ 専門外来 (H.25. 4月 ~ H26. 3月)

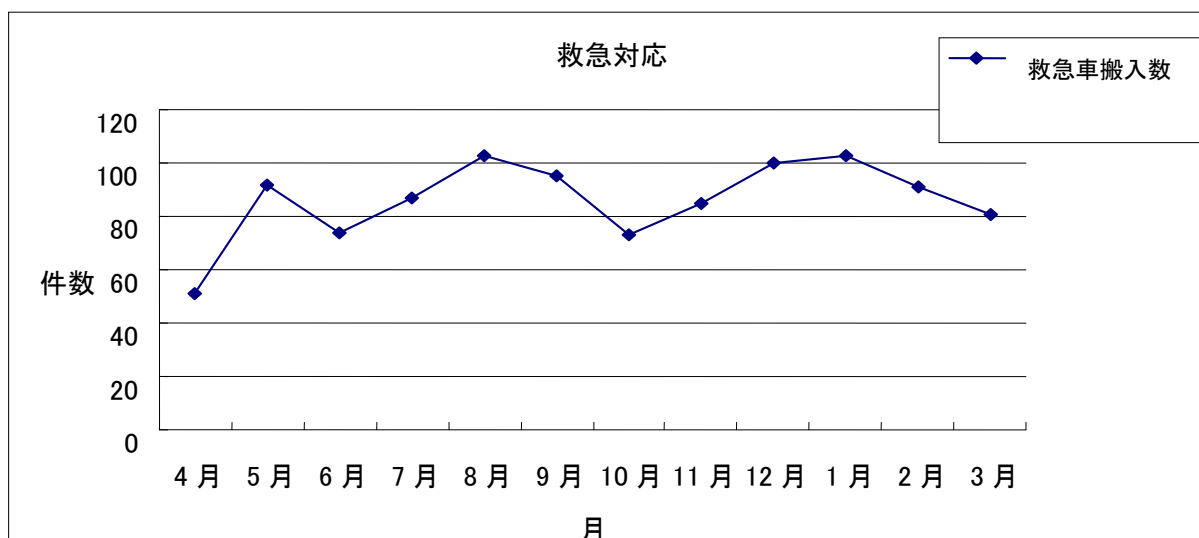
ストーマ外来 51回 (前年比: -11件)

禁煙外来 16名 (前年比-20名) 成功者 12名 中断者 4名
(成功者率 75%)

糖尿病透析予防指導 指導20名 修了者 12名 中断者 2名

④ 月別 救急車受け入れ数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
救急車搬入数	51	92	74	87	103	95	73	85	100	103	91	81	1035	86.6



4. 今後抱負・展望

地域の方々との信頼関係を築き、安心して受診できる、そして満足していただける看護が提供できるよう努める。

看護外来として、ストーマ外来・禁煙外来・糖尿病透析予防指導の専門をはじめ、検査説明・入院時のアナムネ聴取、化学療法看護、骨粗鬆症治療における看護と専門性の高い看護外来が提供できるよう外来看護師が役割を見つめ直し、丁寧な接遇とより質の高い看護で患者満足度を向上させる。

職員の満足度を高めるため、個別性に配慮した勤務形態、専門性を発揮し、個々の目標を達成させる。

5. 業績

【講義】

- 1) 本谷 睦子 糖尿病教室 (当院会議室) 平成26年3月11日
「クイズあり、ゲームあり。楽しく学ぼう！食後高血糖と動脈硬化」
- 2) 川崎勢津子 糖尿病教室 (当院会議室) 平成25年7月3日

「知って得するナースが教える足のお手入れ」

糖尿病教室（当院会議室）平成25年9月25日

「糖尿病、放っておくとどうなる？～写真でみる合併症～」

【学会・研究会発表】

1) 小泉貴子・稲本真紀・飯塚香

「外来診療の現状とトリアージシート導入後の変化
ートリアージシート活用の有効性を検討して」

茨城県看護研究学会発表（茨城県看護協会主催）

平成26年2月22日 茨城県立医療大学

2) 森下 晃子・飯塚 香・倉持 杏子

「大腸内視鏡検査の前処置説明の工夫」

院内看護研究発表 2014.1.17

【研修・講習会】

- 1) 森下 晃子
- ① APACT国際禁煙会議 2013.8.18（千葉県幕張メッセ）
 - ② 禁煙学会 2013.8.19～8.20（千葉県幕張メッセ）
 - ③ 禁煙科学会学術総会 2013.11.3～11.4（群馬県高崎健康福祉大学）
 - ④ 呼吸器ケアリハビリテーション学会学術総会 2013.10.10～10.11
（東京都東京ドーム）
 - ⑤ 3学会合同呼吸療法認定士 認定更新の為の講習会
2014.2.19～2.20（東京都大田区産業プラザ）
- 2) 本谷 睦子
- ① がん患者の外見をサポートする 2013.8.30（JAとりで）
 - ② メディカルスタッフのための糖尿病スキルアップ 2013.9.21（柏市）
 - ③ 千葉県糖尿病看護研究 2013.11.13（千葉県）
 - ④ 糖尿病患者支援のための研修会 2013.11.23（東京都）
 - ⑤ 糖尿病療養指導士更新者用講習会 2013.12.14～15（横浜市）
 - ⑥ 日本糖尿病学会関東甲信越地方会 2014.1.18（横浜市）
 - ⑦ 糖尿病療養支援ネットワーク研修会 2014.1.26（東京都）
 - ⑧ 日本がん看護学会集会 2014.2.8～9（新潟県）
 - ⑨ 茨城県糖尿病療養指導士研修会 2014.2.23（土浦市）
 - ⑩ 日本在宅ケア学会学術集会 2014.3.15～16（東京都）
- 3) 川崎勢津子
- ① 茨城県糖尿病療養指導士研修会 2013,7,21
 - ② 看護管理学会 2013,8、（幕張メッセ）
 - ③ 千葉県糖尿病看護研究会 2013.11.13（千葉県）

- ④ 糖尿病患者支援のための研究会 2013, 11, 23 (東京都)
- ⑤ 糖尿病療養指導士更新者用講習会 2013. 12. 14~15 (横浜市)
- ⑥ 日本糖尿病学会関東甲信越地方会 2014. 1. 18 (横浜市)

- 4) 高木 真樹
- ① 日本褥瘡学会総会 関東甲信越地方会 2013, 6, 7
 - ② 茨城県看護協会「化学療法」2013, 10, 29~30
 - ③ ストーマ排泄リハビリテーション学会総会 2014, 2, 21~22
 - ④ 日本臨床マネジメント学会「看護必要度ステップアップ研 2014, 2, 16
 - ⑤ 茨城県看護協会「新人教育責任者研修」
 - ⑥ がん治療における化学療法 茨城県看護協会 2013. 10. 29 と 30

- 5) 飯塚 香
- ① 医療の質・安全学会主催 医療安全管理者養成研修 6日間
2013. 11. 7~11. 9 と 12. 12~12. 14 (東京都)
修了証書
 - ② 茨城県看護協会主催 地域連携研修「一人の人を支える地域連携」
2013. 10. 26
 - ③ 茨城県看護協会主催 「看護職のWLB推進 フォローアップ・ワークショップ」 2014. 2. 5

- 6) 水庭 智子
- ① 茨城県看護協会主催「救急看護5日間」2013. 8月~12月
 - ② つくば常総ICLSコース

- 7) 石井 直美
- ① 茨城県看護協会主催「糖尿病看護2日間」2013. 9月

- 8) 小泉 貴子
- ① 茨城県看護協会主催「災害看護：災害支援ナースⅠ・Ⅱ3日間」
2013. 7月と12月

- 9) 稲本 真紀
- ① 茨城県看護協会主催「災害看護：災害支援ナースⅠ・Ⅱ3日間」
2013. 7月と12月

6. 学生実習実績

なし

手術室

1. 業務紹介

平成 25 年度は、手術件数も増加し約 570 件の手術が行われました（手術患者数）。前年度と比較し、増加率は 2 倍程度となっており地域医療への貢献という観点からも、大きな躍進の年であったと思います。

当院手術室では、外科（消化器・呼吸器・乳腺・形成）、整形外科、循環器の手術が行われており、各診療科いずれにおいても手術件数は増加傾向にあります。

外科領域においては、近年注目されている腹腔鏡手術において、多種多様な術式が行われており、手術件数の約 3 割を占めるまでとなりました。

整形外科領域では、脊椎手術、鏡視下手術、人工関節手術や多部位の骨折観血の手術が行われています。循環器科では、ペースメーカー移植、下肢静脈瘤に対する硬化療法・高位結紮術がおおく行われおり、また、他の診療科の術前フォローアップ、術中フォローアップなども対応しています。

内視鏡室では、上部内視鏡（胃カメラ）、下部内視鏡（大腸カメラ）を行い、昨年度同様約 2500 件の検査が行われました。また、緊急内視鏡検査・処置、ESD・EMR など特殊内視鏡検査・手術も行われ、多岐にわたり地域医療に貢献してきたと思われます。

中央滅菌材料室では、日々の滅菌管理、材料管理を強化し、安定した材料の供給、安心して使える滅菌器具・材料の供給を日々行い、安全・安心な医療の提供に貢献しています。

2. OR スタッフ

○看護師 6 名（男性 2 名、女性 4 名）

看護経験年数 : 5～10 年… 1 名、10 年以上… 5 名

手術室経験年数 : 3～ 5 年… 1 名、5～10 年… 2 名、10 年以上… 3 名

○看護助手 4 名（男性 1 名、女性 3 名）

助手経験年数 : 1～ 3 年… 1 名、3～ 5 年… 2 名、10 年以上… 1 名

手術室経験年数 : 1～ 3 年… 1 名、3～ 5 年… 2 名、 5～10 年… 1 名

限られた人員の中で手術室は、手術のほか中央材料室と内視鏡を兼務しています。看護師及び助手の経験年数から分析すると、10 年以上となるスタッフが多く、新人や中堅スタッフの不足による教育面の指導レベル低下が懸念されるところと考えています。

このため、今後 3～5 年の経験者を育成し、バランスの良い体制にできるよう人事を含めた検討が必要であると思われます。

3 : 業務実績

手術実績（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）

手術件数（手術患者数）574 件

総手術件数（術式別件数）595 件

診療科別件数（術式別件数）

- ・ 外科 307 件
- ・ 循環器 36 件
- ・ 呼吸器 14 件
- ・ 整形外科 238 件

内視鏡検査実績（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）

内視鏡検査総数 2,469 件

- ・ 上部内視鏡 1,913 件（特殊検査 109 件）
- ・ 下部内視鏡 556 件（特殊検査 58 件）

4. 教育・研究

教育

院内研修に関しては、手術や内視鏡検査の状況により業務を優先しなければならない場合を除いては、よく参加できています。

しかし、院外研修に関しては業務状況などからあまり積極的な参加を支援できなかった。

今後、多くの院外研修に参加できるよう手術・検査の予定調整、医師への協力要請、人員の確保（新規採用・不足時の応援体制）など、手術室の労働環境を引き続き改善していく必要があります。

手術室内の学習会については、2 グループ制とし各グループのリーダーに、予定の作成、計画に沿って勉強会が実施できるよう促してきましたが、定期的に行うことができていませんでした。来年度は、一歩戻りリーダーシップについての指導が必要であると考えています。

研究

- ・ 院内研究：術前訪問再開に向けた取り組み

平成 24 年から引き続き、術前訪問の再開に向け研究を行いました。訪問時の説明用パンフレット、情報収集用紙の作成を行い、昨年の研究では行えなかった実際に患者への術前訪問を実施しました。実際に術前訪問を行うことで、看護師と患者様との視点の違いや、感じ方の違いなど直接コミュニケーションを図れたことにより得られたニーズなど、多くの貴重な意見、情報を得ることになりました。

5. 今後の展望

平成 25 年度同様の手術室環境を維持し、更なる手術件数の増加に対応していかれる環境及び人材の育成に努め、安全・安心の医療の提供を継続していく。

手術室内の設備、器機について老朽化が進み修理対応不可能な器機も多数あり、平成 26 年の 1 年間ではすべての器機・設備を購入・整備を行うのは難しい状況ではありますが、可能な限り買換え、補修を進め、更に患者様に安心していただける環境づくりに従事していく。

人材育成に関しては、目標としていた院外研修参加率 70%以上が達成されていないので、今年も引き続き目標に掲げ、多くのスタッフかより良い学びの時間を得られるよう、研修・学会スケジュールの把握、シフトの調整を行っていきます。

また、現在のスタッフ、今後加入するスタッフが安心して長く勤務できる職場作りにも心がけ、看護部目標に習い「マグネット手術室」として長く愛される職場を目指します。

内視鏡検査 平成 25 年度			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
上 部	胃・十二指腸	院内	83	77	88	82	87	66	99	82	119	87	70	77	1,017	
		トック	26	54	61	65	48	59	68	50	48	33	62	43	617	
		受託	15	12	10	12	11	5	14	17	8	19	8	16	147	
	胃・十二指腸・経鼻	院内	1	1	3	3	2	1		1	1	1	2	3	19	
		受託		1		1		1				1			4	
	ポリペクトミイ・EMR	院内			2							1		1	4	
		受託													0	
	止血術	院内				1	2					1	3	2	9	
		受託				1									1	
	胃瘻造設	院内		1			1					1		1	4	
		受託													0	
	胃瘻交換	院内	1		2	4	5	1	1		3	1	4	3	25	
		受託	2		3	3	2	1	1			2	4	2	20	
	EIS	院内							1			2	1		4	
	EVL	院内											1		1	
	食道ファイバー	院内								1					1	
	食道拡張術	院内								1				3	2	6
	食道ステント	院内													0	
	ERCP	院内	1			1									2	
	内視鏡的総胆管結石砕石術	院内				1									1	
	内視鏡的総胆管結石術	院内	1		1	1		1	2	1	4	1	1		13	
	胆道砕石術	院内		2	1									1	4	
	異物除去	院内							1						1	
	十二指腸ステント	院内													0	
	ESD	院内	1			2	1	1				2			1	8
	胃ステント	院内													0	
	小腸ファイバー・経口	院内													0	
胆道ステント	院内											4	1	5		
小腸留置型	院内													0		
食道粘膜切除術	院内													0		
下 部	直腸	院内				1				1		5			7	
		受託													0	
	S状結腸	院内	5	1	4	5	4	4	5	3	1	2	2	3	39	
		受託													0	
	下行結腸・横行結腸	院内			1				1	2	2		4	1	1	12
	受託			1										1		

上行結腸・盲腸	院内	36	28	34	43	42	28	44	34	37	32	24	33	415
	受託	6		8	1		1			1	3	3	1	24
ポリペクトミイ・EMR	院内	4	4	2	8	6	10	1	4	3	4	4	5	55
	受託													0
止血術	院内	1					1							2
	受託													0
大腸ステント	院内				1									1
小腸結腸狭窄部拡張術	院内													0
														0
気管支鏡	院内													0
合計		183	181	221	236	211	182	240	195	231	202	194	193	2,469
前年同月比		14	△ 39	12	44	23	△ 35	△ 25	△ 35	0	7	△ 26	△ 6	△ 66

H25年度 術式別手術件数（外科・呼吸器）

分類	術式	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	鏡視下	
上部消化管	食道悪性腫瘍手術（頸・胸・腹部の操作によるもの）						1							1		
	胃全摘（開腹）							1				1	1	3		
	胃全摘（腹腔鏡下・補助下）					1		1						2	○	
	胃全摘+胆嚢摘出（開腹）			3		1		1		1		1	1	8		
	胃全摘+胆嚢摘出（腹腔鏡）			1			1							2	○	
	33 幽門側胃切除（開腹）							2	1			1		1	5	
	幽門側胃切除（腹腔鏡下・補助下）		1					1							2	○
	腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術）										1	1			2	○
	幽門側胃切除+胆嚢摘出	1									2			1	4	
	幽門側胃切除+胆嚢摘出（腹腔鏡下・補助下）											1			1	○
下部消化管	胃部分切除（腹腔鏡下）										1			1	○	
	噴門形成術（腹腔鏡下）										1			1	○	
	胃空腸吻合術（開腹）						1							1		
	小腸切除（開腹）								1					1		
	小腸切除（腹腔鏡）								1					1	○	
	結腸切除〔上行・横行・下行・S状〕（開腹）	1	2	3	1	2	2		1	2	1	2		17		
	結腸切除〔上行・横行・下行・S状〕（腹腔鏡下・補助下）			1	3	1			1	2	1	1	1	11	○	
結腸切除+胆嚢摘出術（開腹）								1				1	2			
79 結腸切除+胆嚢摘出術（腹腔鏡下・補助下）		1												1	○	
結腸切除+小腸ろう造設									1					1		

	結腸切除+人工肛門造設							1					1		
	結腸切除+子宮付属器腫瘍摘出				1								1		
	直腸切除〔前方切除〕 (腹腔鏡下・補助下)			1		1				1			3	○	
	腹腔鏡下前方切除+腹腔鏡下胆嚢摘出									1			1	○	
	直腸切除〔前方切除〕+人工肛門造設 (開腹)			1				1			1		3		
	低位前方切除術 脛体尾部切除 脾臓同時切除							1					1		
	直腸切除+膀胱腫瘍摘出術	1											1		
	虫垂炎手術(開腹)	1			2	2							5		
	虫垂炎手術(腹腔鏡下)	2				3		1	1		1	2	2	12	○
	虫垂炎手術+汎発性腹膜炎手術										1		1		
	汎発性腹膜炎手術+人工肛門造設										1		1		
	汎発性腹膜炎手術+横隔膜下腫瘍										1		1		
	経肛門の直腸腫瘍切除術	1											1		
	人工肛門造設				1					1			2		
	人工肛門造設+小腸ろう造設									1			1		
	人工肛門閉鎖術				1	1		1		1		1	5		
	回盲部切除			1									1		
	回盲部切除(腹腔鏡下)			1									1	○	
	イレウス解除術				1		1			1			3		
胆	胆嚢摘出(開腹)	1	1		1	1		1	1			1	7		
肝	腹腔鏡下胆嚢摘出術	2	1	3	4	1	1	5	5	7	2	1	32	○	
膵	胆嚢摘出(腹腔鏡下)+鼠径ヘルニア 修復術(腹腔鏡下)									1			1	○	
47	腹腔鏡下胆嚢摘出術+腹腔鏡下虫垂 切除術							1		1			2	○	
	胆嚢悪性腫瘍手術(肝部分切除を伴 う)									1			1		
	肝臓切除(区域切除)					1					1		2		
	肝臓切除(亜区域切除)					1							1		
	脾頭部腫瘍切除							1					1		
肛 門	内痔核硬化療法(ALTA)	1			1	1		1					4		
5	経肛門の内視鏡下手術											1	1		
甲	甲状腺摘出				1								1		
状	甲状腺部分切除							1					1		
腺	乳腺腫瘍摘出			1	2		2	3	1	2	4	1	2	18	
	乳房切除+全層植皮術			1									1		
乳	乳腺悪性腫瘍切除 (乳房切除・リンパ郭清なし)			2		2				1		1	7		
腺	乳腺悪性腫瘍切除 (乳房切除・リンパ郭清あり)	1	1	1		1						1	2	7	
64	乳腺悪性腫瘍手術 (乳房部分切除・リンパ節郭清)					2			1		6	2	1	12	
	乳腺悪性腫瘍手術 (乳房部分切除・リンパ節郭清なし)				1	2	1	1	2	6				13	

	乳管腺葉区域切除											1	1		
	リンパ節郭清									1			1		
	乳房腫瘍摘出	1											1		
	創傷処理 デブリードマン									1			1		
表	腫瘍摘出（露出部）	1		1	1			1	1				5		
皮	腫瘍摘出（露出部以外）	2	1		3	1	3	3	1	1	2	1	18		
皮	辱創手術（デブリードマン）			1									1		
下	皮膚悪性腫瘍切除			1									1		
27	皮弁形成術	1			1								2		
そ	鼠径ヘルニア根治術		1	4	3	2			1		1	2	14		
の	鼠径ヘルニア根治術（腹腔鏡下）	4	1	1	4		2		6	2		1	1	22	○
他	腹腔鏡下ヘルニア修復術＋腹腔鏡下小腸切除										1		1		
52	腹壁癒痕ヘルニア根治術											1	1		
	内シャント造設術										1		1		
	開腹ドレナージ 腸ろう造設											1	1		
	試験開腹										1		1		
	創傷処置 デブリードマン					1							1		
	腹壁ろう手術				1								1		
	内シャント増設術		2				1		1				4		
	動脈縫合術（シャント後）								1				1		
	陥入爪手術		1										1		
	リンパ節生検・摘出							1		2			3		
肺	肺葉切除(開胸)					1		1	2			1	5		
8	肺部分切除（開胸）							1					1		
	肺部分切除（胸腔鏡下）				1								1	△	
	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（リンパ節郭清を伴う）											1	1	○	
気管	気管切開						1		1		1	1	2	6	
6															
	合計	21	19	26	33	27	23	25	34	39	25	22	27	321	

医療相談室

1. 業務紹介

医療相談室が行う業務は、病院への受療受診相談、入院によって生じる心理的・社会的相談、医療費等の経済的な相談、福祉制度等の申請や手続きについての相談、退院や在宅サービス利用の相談、介護施設への入所相談、家族問題の相談、苦情対応など多岐にわたる相談業務中心として、行政機関や地域医療機関、介護事業所などとの連絡調整業務などを行なっている。

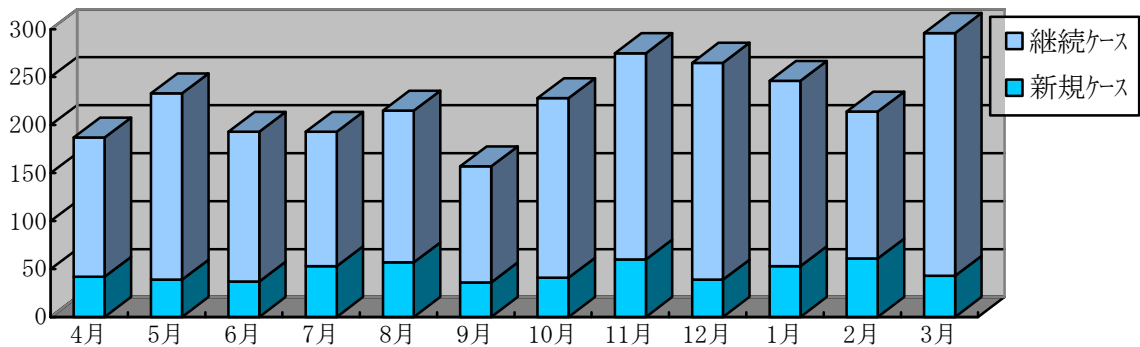
2. スタッフ紹介

医療ソーシャルワーカー 1 名 (社会福祉士)

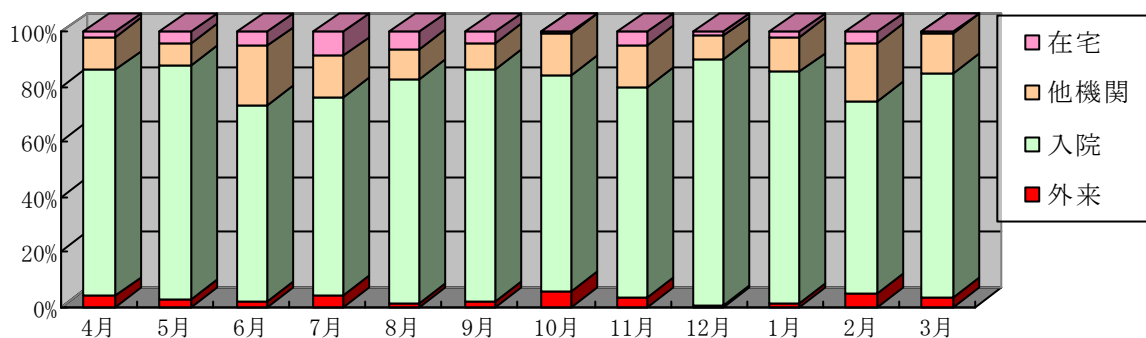
3. 平成 25 年度実績

相談総件数の合計：2,702 件

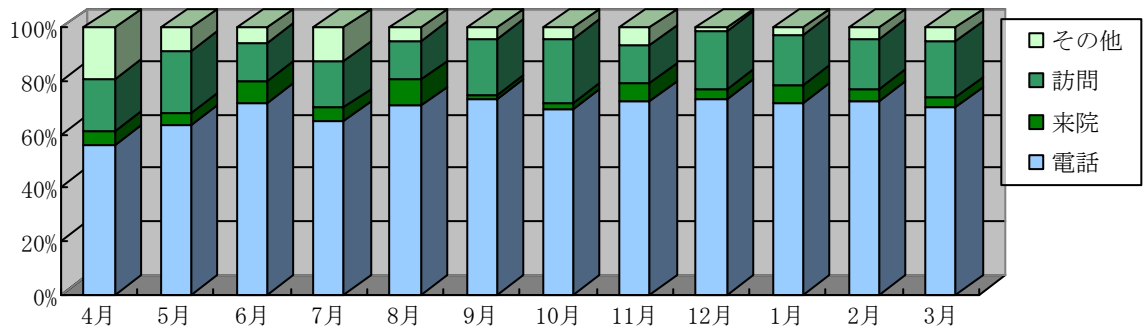
(1) 相談件数 (総相談件数の内、継続ケースと新規ケースの件数を表示)



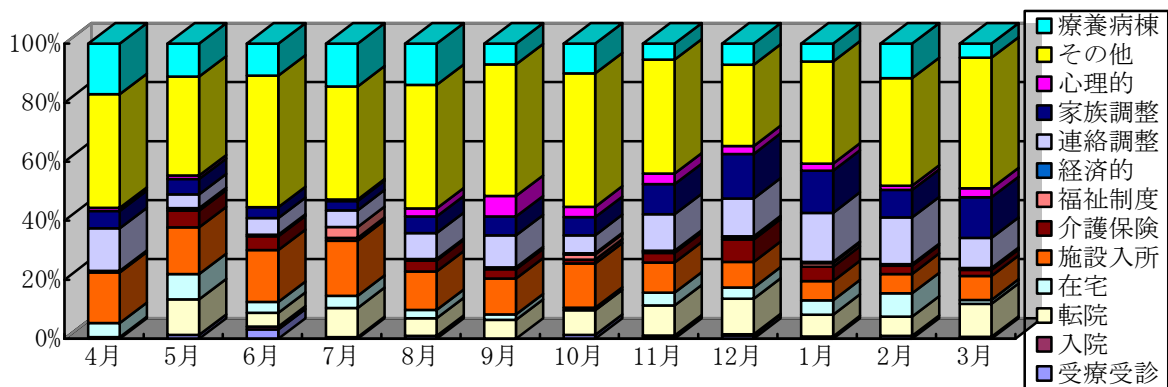
(2) 相談経路 (総相談件数の内、相談経路の割合を表示)



(3) 介入方法 (総相談件の内、介入方法の割合を表示)



(4) 相談対象者 (総相談件数の内、相談対象者の割合を表示)



4. 今後の抱負・展望

平成 22 年診療報酬改定から医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）の行う退院援助が診療報酬で評価をされるようになった。医療チームの一員としての役割も大きくなっている。度重なる診療報酬改定では、病院の機能分化による入院期間の短縮、医療・介護との連携強化が必要不可欠な報酬内容となっている。

平成 23 年度より始まった、取手市医師会の事業である在宅ネットワークとの連携を図ることで、自宅退院へ向けた相談援助件数も増加していく。そのため、今まで以上に地域医療機関や介護事業所との関係構築が必要となる。また、介護サービスや社会制度などの多様化に伴い、今後ますます医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）による相談援助業務の必要性が増していくと思われる。

今後は、地域医療機関ならびに介護事業所、行政機関などと連携強化を図り、早期に相談介入を行うことにより、患者ニーズに的確な援助を実施することで、スムーズな退院調整を実現する。

5. 業績

なし

6. 学生実習実績

なし

診 療 技 術 部 報 告

放射線科

1 業務紹介

<検査業務>

- ・ 院内（他施設からの検査依頼，外来・入院患者様の検査）

- 一般撮影
- ポータブル撮影
- 外科用イメージ
- 骨塩定量
- 乳腺撮影
- CT 検査
- MR 検査
- X 線-TV
- 超音波検査

（その他）休日、夜間の救急撮影業務

- ・ 健診センター（人間ドック，各種健康診断の検査）

- 一般撮影
- 乳腺撮影
- X 線-TV
- 超音波検査
- MRI 検査
- CT 検査

- ・ 検診車（住民検診，企業検診での検査）

- 胸部 検診車
- 胃部 検診車
- 乳腺・骨塩 検診車

<その他の業務；保守管理・画像処理・保管>

漏洩線量測定（年2回）

検診車画像処理（委託車の画像調整、胸部差分処理、健診データ貼り付け処理）

各種装置保守管理業務

マンモグラフィー施設認定取得・制度管理

胃がん検診専門認定技師取得・読影レポート作成業務

遠隔読影補助業務

胸部読影委員会・胃部読影委員会・乳がん読影委員会の補助業務

画像検査予約・調整業務

外部被曝線量測定記録管理

公益社団法人全国労働衛生団体連合会制度管理取得と管理業務

各種委員会活動

2 スタッフ紹介

診療放射線技師；11名（男性；6名、女性；5名）

放射線事務；1名、パート；1名

3 平成25年度 実績

<撮影件数>

モダリティ	CT	MR	MMG	一般撮影	超音波検査	骨塩定量
診療	5287	2033	478	11995	2738	267
健診センター	137	256	929	5896	2178	120
合計	5424	2289	1407	17891	4916	387

胃部検診車	胸部検診車	乳腺検診車	骨塩定量車
5040	24335	2218	350

（当院撮影件数です。委託による撮影は含みません。）

<新規検査>

新たに透析患者様のシャントPTA・上肢動・静脈CTを開始しました。

平成25年シャントPTA件数；24件

<新たな認定技師>

CVT血管診療技師認定；1名

4 今後の抱負・展望

今年度から筑波大学の寄附講座が開設されます。寄附講座の目的の1つに医師会病院を拠点とした学生、研修医の指導育成があり、放射線科としても大学に準じた環境作りが求められます。放射線科としてこの要望に応えられるようソフト面、ハード面の準備を強化していきます。

一方、育成のサイクルを作ることには地域の医師不足の解消にも繋がり、地域住民の健康に大きく寄与することになると思われます。

他職種にわたり協力し合いながら、取手医師会病院がより良い地域医療支援病院に発展するよう努力したいと思ひます。

5 業績（学会発表等）

平成 25 年度 放射線科 業務実績（学会発表等）

【講義】

1) 高倉 有

卒業生による在校生のための就職支援交流会での講師（近況より就職活動に関する体験談の発表）

平成 25 年 6 月 8 日 茨城県立医療大学

【講演】

大石 武彦

日臨技関東甲信・首都圏支部整理研修会での講演（腹部・消化管領域の観察手順とそのポイント）

平成 26 年 2 月 15 日 日本臨床検査技師会

大石 武彦

超音波特別講演会（消化管領域の超音波検査）

平成 26 年 2 月 6 日 東芝メディカルシステムズ

【学会・研究会発表】

大石 武彦

消化管エコーセミナー2013 in 東京での症例提示（門脈ガス血症と腸管嚢胞様気腫症を合併した非閉塞性腸管虚血症の1例）

平成 25 年 8 月 25 日 消化管エコー研究会

【学会・研究会参加】【研修会・講習会参加】

茨城県放射線技師会学術大会

平成 26 年 2 月 23 日 茨城県放射線技師会

放友会

平成 25 年 5 月 23 日

第 93 回茨城早期胃がん大腸がん研究会

平成 25 年 7 月 12 日 茨城県医師会

X 線 CT 認定技師講習会

平成 25 年 8 月 25 日

第 84 回マンモグラフィ技術更新講習会

平成 25 年 10 月 13 日

日本消化管画像研究会臨床セミナー

平成 25 年 10 月 19 日

第 6 回茨城周術期循環管理セミナー

平成 25 年 7 月 26 日

超音波研究会

平成 26 年 1 月 24 日 茨城県放射線技師会 参加者 2 名

超音波研究会

平成 26 年 3 月 14 日 茨城県放射線技師会 参加者 2 名

CVT 認定講習会

平成 25 年 10 月 12 日

第 42 回 取手消化器研究会

平成 25 年 6 月 26 日 取手消化器研究会 参加者 4 名

第 43 回 取手消化器研究会

平成 25 年 10 月 23 日 取手消化器研究会 参加者 2 名

第 44 回 取手消化器研究会

平成 26 年 2 月 26 日 取手消化器研究会 参加者 2 名

第 8 回がん医療セミナー

平成 26 年 2 月 21 日

第 94 回茨城早期胃がん大腸がん研究会

平成 26 年 2 月 28 日 茨城県医師会 参加者 5 名

超音波特別講演会

平成 26 年 2 月 6 日 東芝メディカルシステムズ

第 2 回 MR 研究会

平成 25 年 2 月 7 日 茨城県放射線技師会

取手市医師会学術講演会

平成 25 年 10 月 22 日 取手市医師会

第 3 回読影アシスタント研究会

平成 25 年 10 月 10 日

第 2 回千葉セミナー

平成 25 年 7 月 6 日 日本消化器がん検診学会

デジタルマンモグラフィ講習会

平成 25 年 8 月 31 日 放射線技術学会

第 2 回茨城セミナー

平成 26 年 2 月 23 日 日本消化器がん検診学会

Signa ユーザーズミーティング

平成 25 年 5 月 18 日 GEHC - J 参加者 2 名

Signa ユーザーズミーティング

平成 25 年 9 月 28 日 GEHC - J

取手市医師会学術講演会

平成 25 年 11 月 26 日 取手市医師会

市民フォーラム

平成 26 年 3 月 22 日 取手市医師会

第 69 回日本放射線技術学会 総会学術大会

平成 25 年 4 月 11～14 日 日本放射線技術学会

- 第2回 MRI 循環器撮影研究会
平成25年4月11日 MR 創意工夫懇話会
- 第2回 県東地区シンポジウム
平成25年5月15日
- 第1回 Gyro Ibaraki
平成25年5月25日
- 第10回 MRI tech forum
平成25年6月17日
- 第12回 東京 ASO フォーラム
平成25年6月21日 東京 ASO フォーラム 参加者2名
- 第16回 茨城 MRI カンファランス
平成25年6月28日 茨城 MRI 情報交換会
- ROC セミナー
平成25年7月13・14日 日本放射線技術学会
- MR 研究会 勉強会
平成25年8月30日 茨城県技師会 MR 研究会
- 第41回 日本核磁気共鳴医学会大会
平成25年9月19～21日 日本核磁気共鳴医学会
- 第19回 つくば MR 懇話会
平成25年11月8日 つくば MR 懇話会
- 第17回茨城 MRI カンファランス
平成25年11月14日 茨城 MRI 情報交換会
- Signa 甲子園 2013
平成25年12月7日 GEHC - J
- 第17回 MR 実践講座
平成25年12月14日 日本核磁気共鳴医学会
- 包括脳・MRI 脳画像チュートリアル
平成26年2月25日 包括脳・MRI 脳画像チュートリアル
- 茨城 東芝 MRI プライベートセミナー
平成26年2月25日 東芝メディカルシステムズ
- 日本超音波検査学会 学術大会
平成25年6月14～16日 日本超音波検査学会
- 千葉エコー研究会
平成25年7月7日 千葉エコー研究会
- 取手・守谷血管の会
平成25年11月15日取手・守谷血管の会

【その他】

- 1) 大石 武彦、金子 正則、今野 孝弘、渡邊 寛、鈴木 武樹、佐藤 章仁

学会に投稿した論文「超音波画像とCT画像を対比し得た腹膜垂炎の5例」で学術奨励賞を受賞

平成 25 年 6 月 16 日 日本超音波検査学会

- 2) 大石 武彦

「消化管エコーUP DATE」の執筆(7章:その他の消化管疾患 -ヘルニア、異物、腹膜垂炎-)

平成 25 年 8 月 1 日 発刊 医歯薬出版

- 6 学生実習実績(平成 25 年度); なし

臨床検査科

1. 業務紹介等

(はじめに)

検査科は「患者さん・受診者の方」を中心に考えチーム医療の一員として日夜「より優しく・より正確に・より速く」を目標に努力しています。

現在、ベテラン・中堅・新人とバランスよい優秀なスタッフで構成されています。一日の始まりとして毎朝 8:20 頃、連絡事項に加え順番に「一言朝礼」を行っています。内容は、家族のこと・健康情報・旅行・世界情勢等自由です。そして、最後に病院の理念* (H・E・A・R・T) を唱えています。勤務は 365 日 24 時間体制です。(*Hospitality, Efficient, Academic, Regional, Trustful)

(内容等)

- 1) 検査種類： 生化学検査 尿一般検査 血清学的検査 血液検査 輸血検査
血液ガス検査 細胞診検査 生理検査 心電図検査 心エコー検査
脳波検査 筋電図 トレッドミル検査 乳腺エコー検査等

2) 業務内容

外来採血 早朝採血 (平日 1 名 ; 月・木 2 名 7:00AM~) 病院検査
院内健診検査 院外健診検体検査 医師会員医療機関受託検査業務
日曜・祭日の日直 夜間呼び出し待機体制

3) 院内委員会等参加

安全管理委員会 院内感染対策委員会 輸血療法委員会 NST 委員会
教育委員会 コンピュータ委員会 カルテクリテカルパス委員会
広報委員会 院内災害対策 倫理委員会等

4) 精度管理

- ① 内部精度管理
- ② 外部部精度管理
 - ・日本医師会精度管理
 - ・日本臨床検査技師会精度管理
 - ・茨城県臨床検査技師会制度管理
 - ・全日本労働衛生団体連合会精度管理
 - ・日本総合健診学会制度管理

 - ・日本臨床細胞学会認定施設
 - ・日本臨床検査技師会精度管理認証施設

2. スタッフ紹介

臨床検査技師 常勤 13名

臨床検査技師 非常勤 2名

非常勤事務 1名 非常勤集荷業務 3名

ライセンス等

細胞検査士 4名 国際細胞検査士 4名

日本超音波医学会認定超音波検査士 循環器領域 3名 体表領域 1名

日本乳腺甲状腺超音波診断会議教育委員会主催 乳房超音波講習会受講者 5名

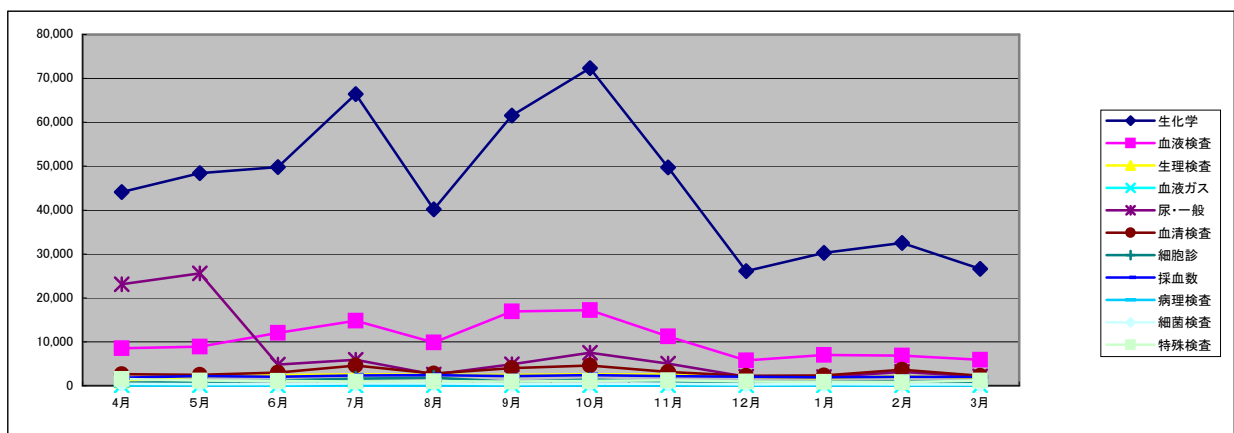
衛生管理者 1名 総合健診指導士 1名 総合健診業務管理士 1名

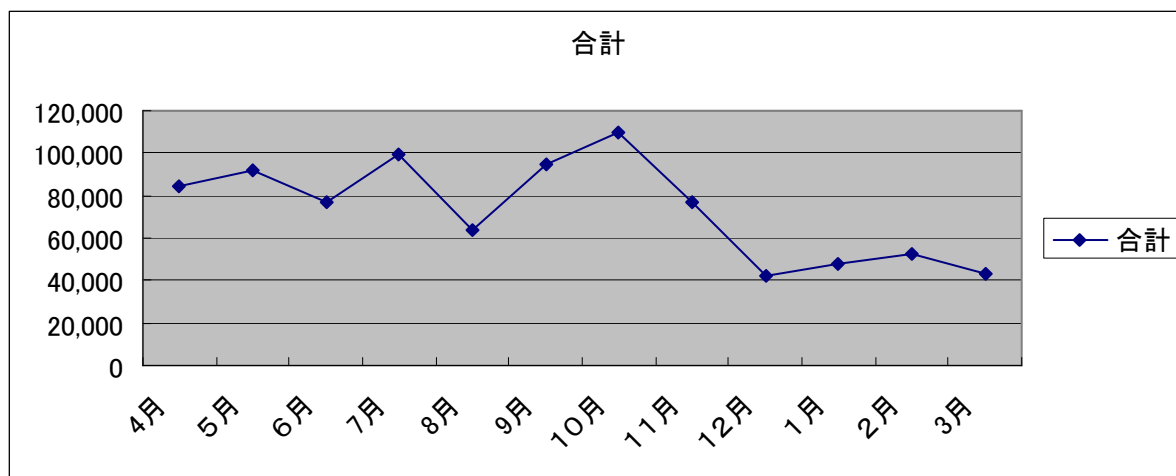
3. 平成25年度実績

1) 検査別・月別実績件数

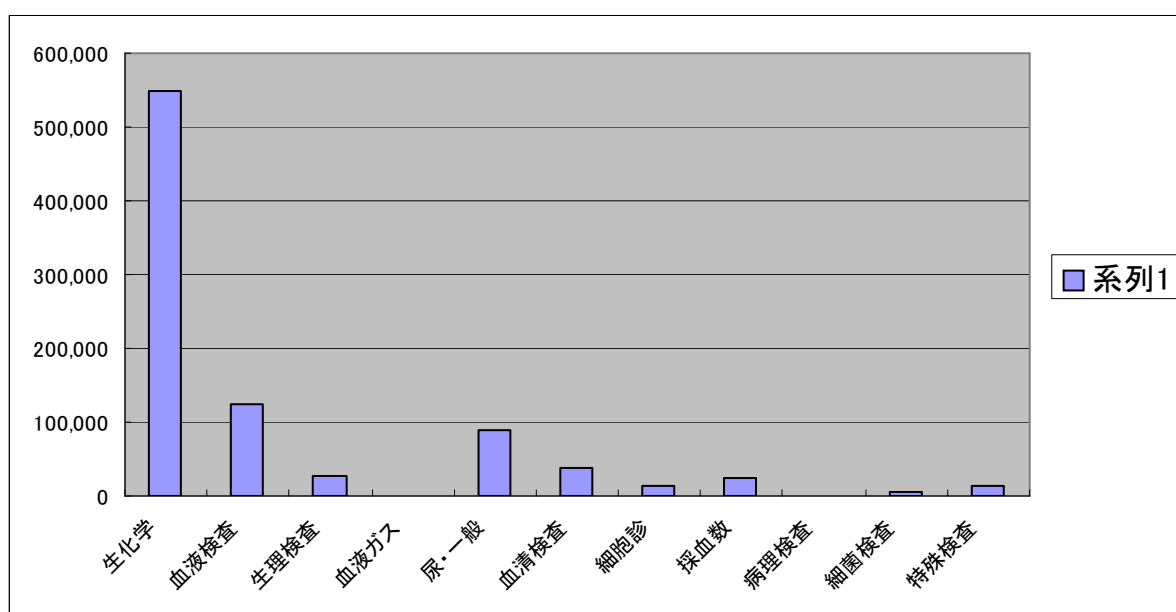
項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
生化学	44,110	48,400	49,792	66,418	40,207	61,549	72,345	49,755	26,088	30,282	32,501	26,618
血液検査	8,512	8,926	12,000	14,779	9,863	16,897	17,222	11,248	5,746	7,011	6,857	5,930
生理検査	1,198	2,113	2,415	2,621	2,507	2,452	2,630	2,584	2,030	1,646	2,226	1,780
血液ガス	43	38	31	30	44	44	57	67	55	75	66	70
尿・一般	23,103	25,587	4,790	5,899	2,535	4,887	7,492	5,032	2,037	1,986	3,163	2,095
血清検査	2,603	2,447	2,960	4,603	2,776	3,998	4,602	3,109	2,226	2,327	3,626	2,260
細胞診	684	791	1,137	1,568	1,832	875	1,382	972	872	901	974	856
採血数	1,827	2,178	2,069	2,328	2,391	2,167	2,384	2,206	2,060	1,910	2,066	1,988
病理検査	89	64	79	90	83	79	76	86	89	73	65	82
細菌検査	446	338	368	501	498	389	416	412	322	339	326	285
特殊検査	1,530	1,194	1,087	923	1,040	929	1,091	1,266	925	844	791	1,181
総合計	84,145	92,076	76,728	99,760	63,776	94,266	109,697	76,737	42,450	47,394	52,661	43,145

2) 検査別・月別グラフ



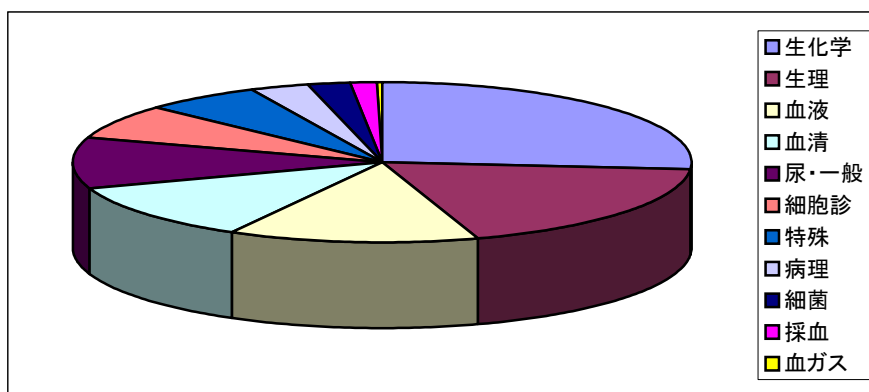


4) 検査項目別・年間件数



5) 検査項目別件数 (H 2 5 年度)

生化学	生理	血液	血清	尿・一般	細胞診	特殊	病理	細菌	採血	血ガス
7509578	5265575	3682603	3313278	2881116	1979560	1761694	821300	636735	409184	93000



6) 依頼別検査件数

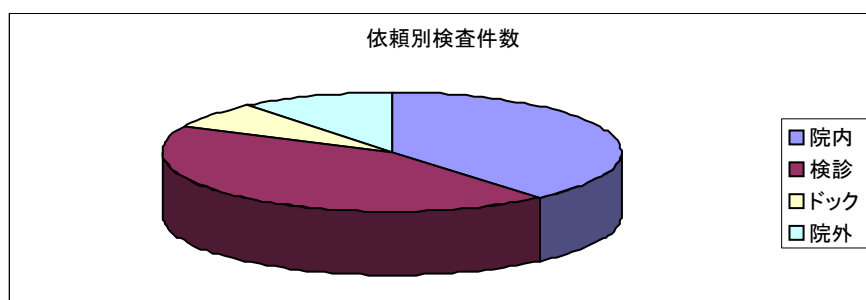
院内	検診	ドック	院外
10821468	11948613	2007001	3028144

院内；病院内依頼

検診；住民検診・事業所検診等出張検診

ドック；人間ドック、院内検診

院外；受託検査



4. 今後の抱負・展望

今後は質のさらなる向上、経費削減、業務拡大を行いたい。

- 1) 質の向上；臨床検査技師として医療の変化に十分に対応できるよう学会はもとより機会を作って研鑽を行う。
- 2) 経費削減；試薬及び消耗品の見直しを図り、より効率的に実施し経費の削減を図る。
- 3) 業務拡大；人間ドック等健診の増加、生理機能検査の要望、に十分対応できるよう業務拡大を行いたい。

5. 業績（学会発表等）

- 1) 52 回日本臨床細胞学会秋季大会 平成 25 年 11 月 2 日

演題；「子宮内膜細胞診における従来法と液状検体法との比較」

発表者 古田恒二 共同演者 中村宗平 浜崎佳子 海老原愛美

許表勝 佐々木寛 鈴木博一

- 2) 第 42 回日本総合健診医学会 平成 26 年 1 月 31 日

演題；「子宮内膜細胞診の従来法と液状検体処理法の比較及び組織診断」

発表者 古田恒二 共同演者 許表勝 岩崎正彦 平岡昌和 鈴木武樹

6. 学生実習実績等

特になし

リハビリテーション科

1. 業務紹介

- ① 入院患者（一般病棟・療養病棟）へのリハビリテーション提供
- ② 外来患者へのリハビリテーション提供
- ③ 訪問リハビリテーション（訪問看護ステーションへの派遣）
- ④ 患者指導（退院前訪問指導, 退院時リハビリ指導, 在宅患者訪問指導）
- ⑤ 他職種連携
 - ・各種カンファレンス開催 1回/週 : 内科・整形外科・がん患者・療養
 - ・介護保険サービス担当者会議参加
 - ・在宅ネットワークカンファレンス参加
 - ・各種申し送り作成（転院先, 介護サービス事業所）
- ⑥ 患者レクリエーション開催
 - 対象：療養・リハビリ患者, 1回/週, 4回/年 季節のイベント
- ⑦ 委員会参加 : 教育, 医療安全, 感染対策, NST 褥瘡, 防災
- ⑧ 教育・啓発
 - ・糖尿病教室 4回/年（運動に関するテーマを担当）
 - ・高校生の1日リハビリ見学
- ⑨ 院外業務
 - ・取手市機能回復訓練事業
 - ・取手市介護認定審査会
 - ・取手市障害者区分認定審査会
 - ・利根町障害者区分認定審査会

2. スタッフ紹介

理学療法士 8名（うち1名産休）
作業療法士 5名
言語聴覚士 1名
助手 2名

3. 平成 25 年度実績

入院・外来リハビリ

単位数

	PT	OT	ST	計
脳血管	10,857	5,364	311	16,532
運動器	7,240	3,162		10,402
呼吸器	3,054	705		3,759
がん	2,107	2,127		4,234
摂食			1,028	1,028
合計	23,258	11,358	1,339	35,955

計画・指導

件数

各種指導	432
実施計画	1414
合計	1846

訪問リハビリ（訪問看護ステーション）

件数

介護保険	324
医療保険	117
合計	441

4. 今後の抱負・展望

現在のリハビリサービスの質を落とさぬよう、部署内で研鑽を積んで行きます。

収益に関して、平成 26 年度は廃用症候群の診療点数引き下げにて減少が見込まれます。引き続き主治医と依頼数や時期の確認を続けること、運動器疾患に関しては外来での早期・初期加算が可能となったことから、必要に応じて外来での積極的フォローアップを図ります。

筑波大学、がんセンター東病院からの紹介患者は確実に増加しており、これらの患者さんを地域につなぐ当院の役割は増加しています。さらに寄附講座（筑波大学附属病院取手地域臨床教育ステーション）開設にて、リハビリの関わりは深くなると予想されます。

これらのニーズにしっかりと答え、当院がこの地域に『なくてはならない病院』として確実に信頼を得るため、当科として努力を続けていきます。

効率的な業務のあり方について随時評価し、業務内容・人員整備等を検討していきます。

5. 業績

【講義】

- 1) 松井弘子 取手市介護予防サポーター養成講座「高齢者の身体能力について」
取手市福祉交流センター 平成 25 年 9 月 19 日
- 2) 松井弘子・藤倉朋子 緑寿荘勉強会「緩和リハビリテーションについて」
老人保健施設緑寿荘 平成 25 年 9 月 13 日

- 3) 松井弘子 生活習慣病予防市民公開講座「骨を元気に！骨粗鬆症の運動療法」藤代保健センター 平成 26 年 2 月 15 日
- 4) 松井弘子 桜水会 土浦看護専門学校「訪問リハビリテーションについて」土浦看護専門学校 平成 26 年 3 月 7 日
- 5) 柴田恵子 藤代学園（取手市教育委員会）「高齢期を元気に生きる知恵」藤代公民館 平成 26 年 2 月 27 日
- 6) 柴田恵子 チャンス総合学院ヘルパー2 級養成講座「コミュニケーション」全 4 回 戸頭ジャスコ内

【学会発表】

- 1) 境 大地 日本理学療法士学会学術集会
「超音波画像診断装置における横隔膜筋厚と表面筋電図との関係」
平成 25 年 5 月 24 日 名古屋国際会議場
- 2) 藤倉朋子 日本緩和医療学会
「人生の終わりに知り合えて～個々に合わせたがんリハビリテーションの関わり～」
平成 25 年 6 月 22 日 パシフィコ横浜

【講演】

- 1) 松井弘子 茨城県理学療法士学会 茨城県臨床工学士会連携シンポジウム
「呼吸器疾患の理学療法に従事する理学療法士の立場から」
平成 26 年 2 月 9 日 茨城県立医療大学

【研修】

- 1) 第 10 回呼吸ケアカンファレンス 4 月 19 日～21 日 2 名
3 学会合同呼吸療法認定士更新単位取得 その他

6. 学生実習実績 * 臨床実習：7-8 週、 評価実習：3-4 週、 見学実習：1 日～5 日
- | | | |
|------------------|---------|--------------|
| ・茨城県立医療大学 | 臨床実習 | PT 科 4 年 1 名 |
| | 評価前実習 | OT 科 3 年 1 名 |
| | 見学実習 | OT 科 1 年 2 名 |
| ・つくば国際大学 | 臨床実習 | PT 科 4 年 1 名 |
| | ・筑波技術大学 | 臨床実習 |
| ・千葉・柏リハビリテーション学院 | 評価実習 | PT 科 3 年 1 名 |
| | 見学実習 | PT 科 2 年 2 名 |
| | | PT 科 3 年 2 名 |
| | | |

栄 養 科

1 業務紹介

- 入院患者の栄養管理および治療食の提供
- 入院外来患者の栄養相談
- 栄養サポート褥瘡対策チームの活動
- 糖尿病透析予防チームの活動
- 糖尿病教室運営にかかわる業務
- 特定保健指導
- 市町村への出張栄養個別相談

2 スタッフ紹介

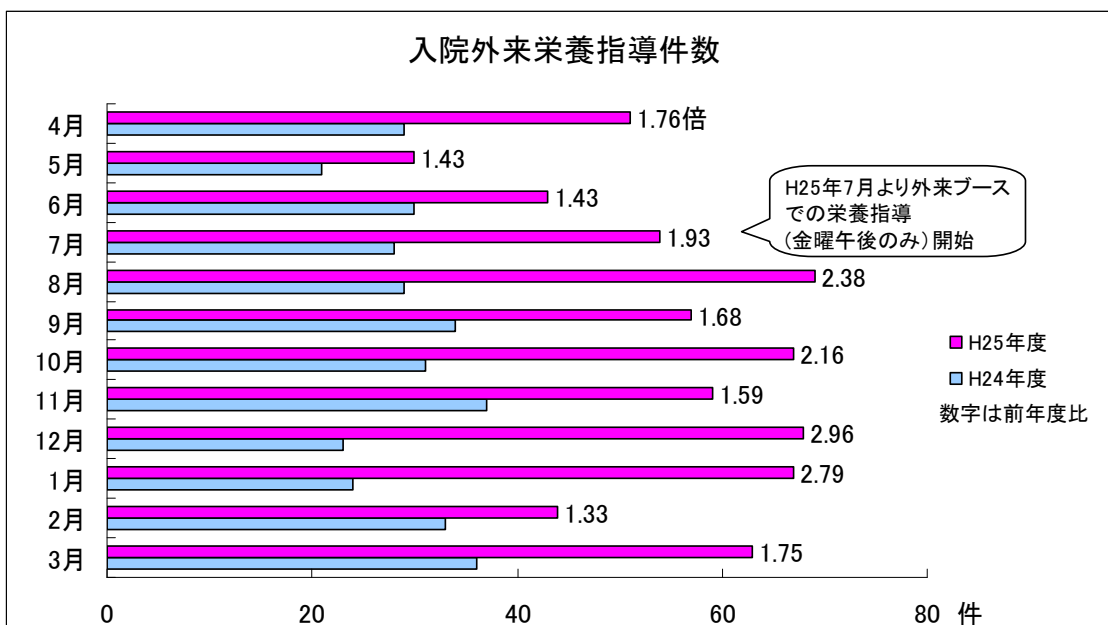
管理栄養士 4名

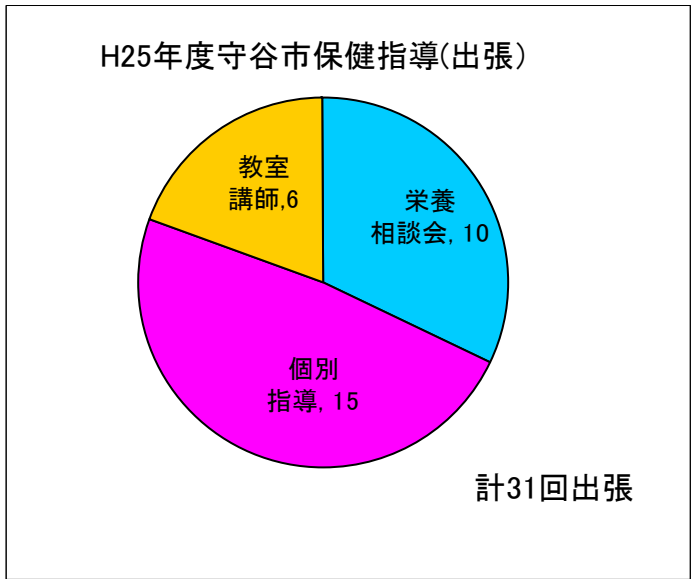
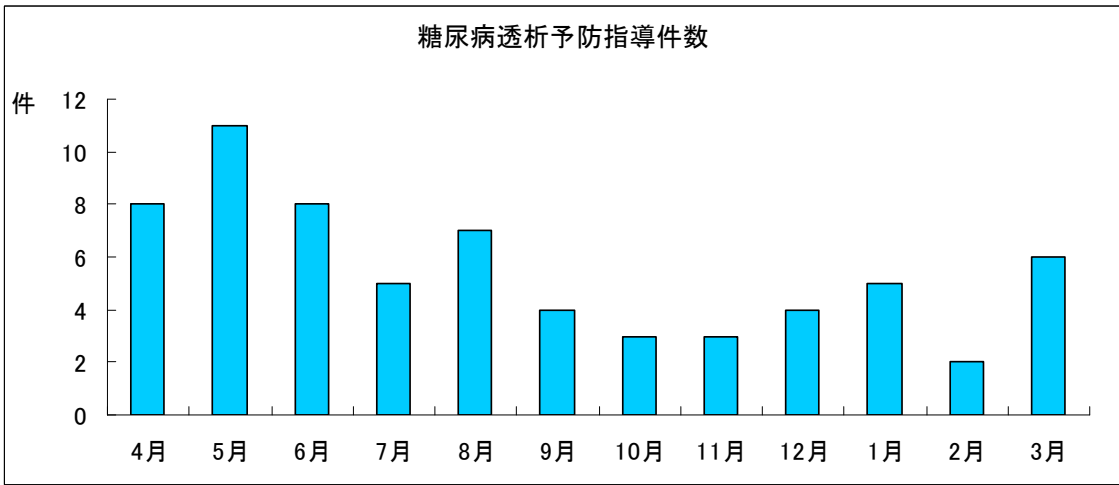
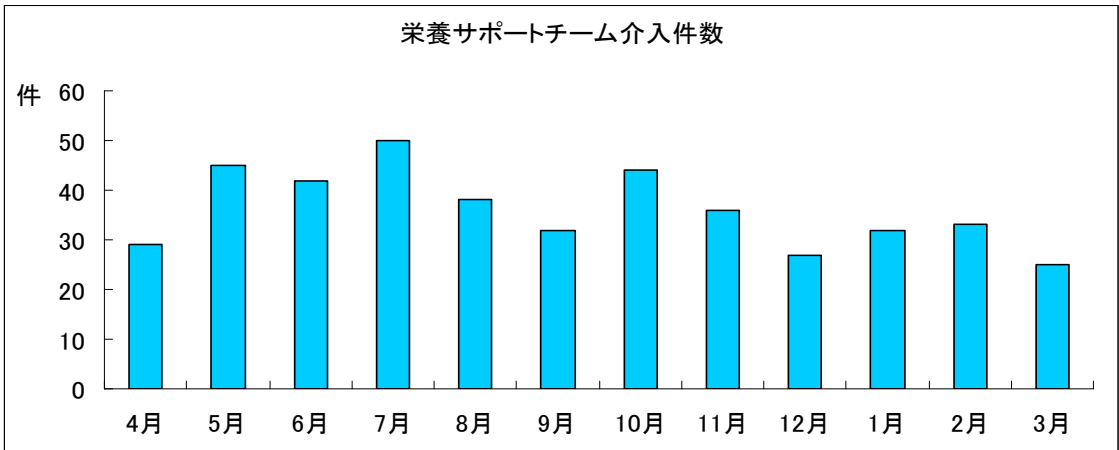
糖尿病療養指導士 2名

栄養サポートチーム担当者研修終了者 3名

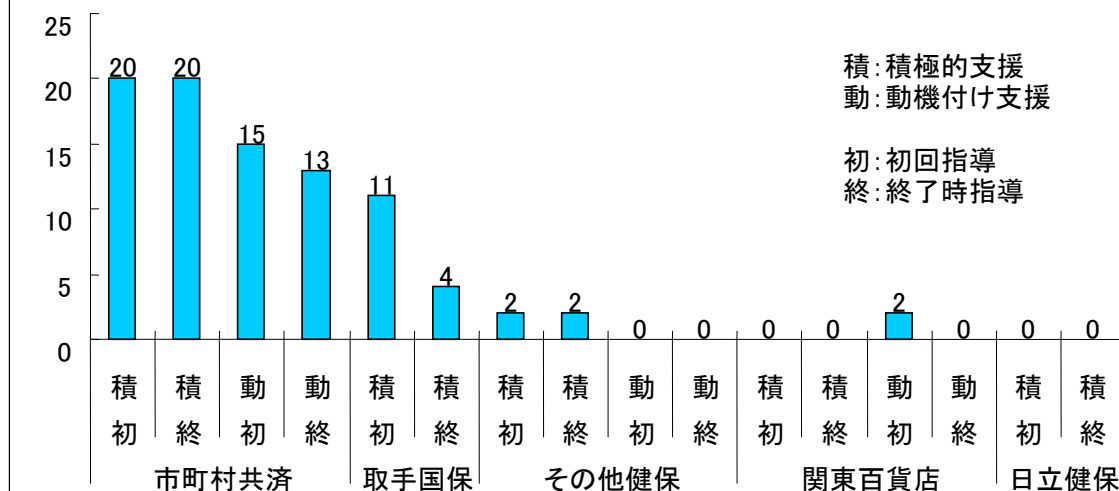
人間ドック健診情報管理指導士 3名

3 平成25年度実績





特定保健指導件数 (H25 年度実施分)



平成 25 年度糖尿病教室開催状況

開催日	テーマ	担当
5/7 (火)	糖尿病は治る病気なの？	医師
5/21 (火)	実食！治療食を食べてみませんか？～病院の糖尿病食の体験～	管理栄養士
6/15 (土)	運動で血糖値は下がるの？～運動療法の効果～	理学療法士
6/22 (土)	知っておきたい薬の知識～糖尿病治療薬のいろいろ～	薬剤師
7/3 (水)	知って得するナースが教える足のお手入れ！	看護師
7/24 (水)	自分の体の状態を調べる～血糖コントロールの目標値と合併症の検査～	臨床検査技師
8/6 (火)	医師が処方する内服のお話～糖尿病の飲み薬について～	医師
8/31 (土)	外食は害食？ 飲酒は禁酒？	管理栄養士
9/12 (木)	転ばぬ先の体力づくり～高齢者向け糖尿病教室の運動療法～	理学療法士
9/25 (水)	糖尿病、放っておくとどうなるの？～写真でみる合併症～	看護師
10/8 (火)	インスリン治療といわれたら～インスリンは最後の手段？？？～	医師
10/19 (土)	自分の体の状態を調べる～血糖コントロールの目標値と合併症の検査～	臨床検査技師
11/14 (木)	膝が痛いと言えないの？	理学療法士
11/26 (火)	作ってみよう！健康・長寿食～糖尿病の調理実習～	管理栄養士
12/4 (水)	シックデイって知っていますか？低血糖になったらどうするの？	看護師
12/17 (火)	知っておきたい薬の知識～糖尿病治療薬のいろいろ～	薬剤師
1/18 (土)	運動嫌いでも血糖値は下がる？！／声出し健康法でストレス発散！	理学療法士
1/25 (土)	気になる話題の糖尿病食事療法	管理栄養士
2/5 (水)	自分の体の状態を調べる～血糖コントロールの目標値と合併症の検査～	臨床検査技師
2/25 (火)	なぜ下がらない、HbA1c！	医師
3/11 (火)	クイズあり、ゲームあり。楽しく学ぼう！食後高血糖と動脈硬化	看護師
3/25 (火)	知っておきたい薬の知識～糖尿病治療薬のいろいろ～	薬剤師

- 非常食マニュアル作成（防災委員会と共同作成）
- 栄養科衛生管理マニュアル改定（感染対策委員会と共同作成）
- 糖尿病教室のリニューアル

63

4 今後の抱負・展望

- 診察と並行した外来栄養指導の実施
- 在宅における食事療養のフォローアップ
- 緩和ケアの患者に対する病院食対応

5 業績

【講演】

1) 秋葉 美佳

平成 25 年度特定健康診査・特定保健指導実践者育成研修
受診者の意欲を維持させる支援を行う
平成 25 年 4 月 22 日 市町村会館講堂

2) 朝岡 絃子

第 176 回取手糖尿病研究会
当院の糖尿病透析予防管理指導の取り組みについて
平成 25 年 6 月 4 日 取手北相馬保健医療センター医師会病院 会議室

3) 朝岡 絃子

第 178 回取手糖尿病研究会
当院の糖尿病外来における低血糖アンケート報告
平成 25 年 10 月 1 日 取手北相馬保健医療センター医師会病院 会議室

【講義】

4) 秋葉 美佳

ヘルスメイク教室
平成 25 年 11 月 19、28 日 平成 26 年 3 月 3 日 守谷市保健センター
糖尿病教室
平成 25 年 11 月 27 日、12 月 4 日、12 月 11 日 守谷市保健センター

【学会発表】

1) 特定保健指導における、短期目標体重値設定の検討

～4%減量達成に向けて～

○秋葉 美佳¹⁾ 朝岡 絃子¹⁾ 吉成 浩子¹⁾ 小島 麻記子¹⁾
相澤 由貴子²⁾ 貝津 真弓²⁾ 神田 吉也²⁾ 平岡 昌和²⁾ 鈴木 武樹³⁾

1) 栄養科 2) 健診課 3) 外科

第 54 回日本人間ドック学会学術大会 平成 25 年 8 月 30 日 アクトシティ浜松

2) 当院における透析予防診療チームの取り組み

～継続指導の効果～ (第 2 報)

64

○朝岡 紘子¹⁾ 秋葉 美佳¹⁾ 川崎 勢津子²⁾ 小西 麻記子¹⁾ 飯塚 香²⁾
熊谷 宗士³⁾

1) 栄養科 2) 看護部 3) 内科

第 17 回日本病態栄養学会年次学術集会 平成 26 年 1 月 11、12 日 大阪国際会議場

3) パーキンソン病に急性脳梗塞を併発し再び経口摂取が可能となった一症例

～急性期から療養期までの NST・褥瘡対策チームの関わり～

○小島 麻記子¹⁾ 朝岡 紘子¹⁾ 秋葉 美佳¹⁾ 吉成 浩子¹⁾ 木村 めぐみ²⁾

染島 康予³⁾ 藤田 あけみ³⁾ 許 表勝⁴⁾ 川邊 淳夫⁴⁾ 及川 卓一⁵⁾ 鈴木 武樹⁵⁾

1) 栄養科 2) リハビリテーション科 3) 看護部 4) 内科 5) 外科

第 17 回日本病態栄養学会年次学術集会 平成 26 年 1 月 11、12 日 大阪国際会議場

【研修・講習会】

1) 茨城県栄養学術講習会

平成 25 年 6 月 8 日 県立健康プラザ (水戸) 2 名参加

2) 第 50 回外科代謝栄養学会

平成 25 年 7 月 4、5 日 東京 一橋講堂 1 名参加

3) 第 54 回日本人間ドック学会学術大会

平成 25 年 8 月 29、30 日 アクトシティ浜松 2 名参加

4) 茨城県栄養学術講習会

平成 25 年 11 月 8 日 県立健康プラザ (水戸) 1 名参加

5) 経腸栄養セミナー

平成 25 年 11 月 9 日 筑波大学病院 4 名参加

6) 栄養セミナー

平成 25 年 11 月 23 日 日本教育会館 (神保町) 3 名参加

7) 茨城県栄養学術講習会

平成 25 年 12 月 14 日 県立健康プラザ (水戸) 1 名参加

8) 外科代謝栄養学会教育セミナー

平成 25 年 12 月 21 日 東京医科歯科大学 2 名参加

9) 第 17 回 日本病態栄養学会

平成 26 年 1 月 11、12 日 大阪国際会議場 2 名参加

10) 糖尿病療養指導士 第 11 回認定更新者用講習会

平成 26 年 2 月 1、2 日 TFT ビル (東京) 1 名参加

11) 竜ヶ崎保健所管内研修会

平成 26 年 2 月 20 日 取手福祉会館 1 名参加

12) 糖尿病勉強会

平成 26 年 2 月 23 日 土浦協同病院 1 名参加

13) 第 29 回 日本静脈経腸栄養学会

平成 26 年 2 月 27、28 日 パシフィコ横浜 1 名

14) 栄養サポート研究会

平成 26 年 3 月 20 日 筑波大学病院 1 名参加

薬 剤 科

1. 業務紹介

(1) 調剤業務

医薬品を医師の処方箋に基づき特定の分量・用法に調剤する一方、量・服用方法・飲み合わせなどを確認(監査)し、必要のある方には薬に関する指導も行っています。入院中の患者様への、内服薬の一包化や注射薬のセットなども行っています。また、清潔な環境のもと、中心静脈栄養剤や抗がん剤の無菌的な調製を行っています。

(2) 病棟業務

入院患者様の持参薬の管理・処方管理・お薬に関する問い合わせへの対応を行っています。また、薬剤師が患者様のベットサイドまで行き、薬の説明を行っています。

(3) D I (医薬品情報)業務

医師など他のスタッフからの医薬品に関する問い合わせ等に、迅速に対応するために医薬品に関する情報を収集して管理しています。そして、それらの情報を理解しやすい形にして他の医療スタッフに提供しています。

(4) 医薬品管理業務

医薬品を良い状態で使用できるよう管理する一方、法律に基づいた管理を行っています。院内各部署への医薬品の供給や管理も行い、院内における医薬品の適正な管理に努めています。

(5) 院内各種委員会への参加

薬の専門家としてそれぞれの委員会へ参加し、薬理的な面から提言しています。

【主な委員会】薬事委員会、医療安全管理委員会、感染対策委員会、化学療法委員会、NST(栄養サポートチーム)・褥瘡委員会など

(6) 教育・研究

院内における糖尿病教室や新人職員への教育などを行っています。講演会、研修会への参加や各種認定資格の取得など、薬学・医学に関する知識の吸収に努めています。

2. スタッフ紹介

- ・薬剤師・・・常勤7名、非常勤1名
- ・助手・・・非常勤1名

3. 平成 25 年度実績

(1) 調剤業務

平成 23 年 6 月より、すべての診療科において院外処方せんを発行するようになりました。

院内について、1 日平均処方せん枚数は、外来 7.4 枚、入院 61.6 枚でした。

院外処方せんについて、1 日平均発行枚数は 131.7 枚、院外処方せん発行率は 96.6% でした。

1 日平均処方せん枚数(平日)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
外来(枚)	2.9	3.1	3.9	4.0	4.5	4.2	3.7	4.6	6.2	6.1	7.5	4.2	7.4
入院(枚)	57.8	80.7	60.2	62.0	65.3	54.1	60.8	60.8	60.9	56.3	60.5	54.0	61.1

院外処方せん発行状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
処方箋発行状況 (%)	97.9	97.8	97.0	97.2	96.6	96.7	97.5	96.5	95.7	95.8	94.0	97.0	96.6
処方箋発行枚数(枚/日)	134.3	138.0	126.7	137.7	126.8	121.2	142.6	126.6	137.0	137.4	117.6	134.1	131.7

(2) 薬剤管理指導業務

すべての病棟で実施しており、必要な患者様に服薬指導を行っています。

服薬指導件数は、年合計：4450 件、月平均：371 件でした。

病棟別服薬指導実施状況

病棟	東 3 階				東 4 階			南 4 階	計	
	整形外科	外科	内科	循環器科	内科	循環器科	外科	内科		
服薬指導(件)	年合計	661	1536	54	6	1016	279	281	617	4450
	月平均	55.1	128.0	4.5	0.5	84.7	23.5	23.4	51.4	371

(3) 化学療法

化学療法を行う患者様に対して服薬指導を行いました。

化学療法の実施件数は、外来：338 件、入院：128 件、計：466 件でした。

化学療法実施件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	平均
外来(件)	38	44	35	24	30	28	26	19	23	32	21	18	338	28.2
入院(件)	11	12	10	9	15	9	11	12	11	9	11	8	128	10.7
合計(件)	49	56	45	33	45	37	37	31	34	41	32	26	466	38.8

(4) 無菌調剤業務

平成 26 年 2 月より、抗がん剤と TPN の無菌調製を行うようになりました。

抗がん剤：1 日平均 2 件、TPN：1 日平均 10 件でした。

4. 今後の抱負・展望

(1) 病棟薬剤業務の実施

平成 26 年度は、「病棟薬剤業務実施加算」の実施を予定しています。

薬剤師が病棟に週 20 時間以上常駐し、持参薬管理、配薬支援、医薬品に係る情報提供等を行うことにより、医療安全の向上、医師・看護師の業務軽減を図ります。

(2) チーム医療への参画

NST、ICT 等のラウンドやカンファレンスに積極的に参加し、チーム医療に貢献できるよう努めます。

(3) 薬剤師の専門性の向上

勉強会の充実、研修会への積極的な参加により、専門性の高い薬剤師の育成に努めます。

5. 業績集

【学会発表】

1) 内田 充恵、鈴木 孝浩、五十嵐 佳子

日本病院薬剤師会 関東ブロック第 43 回学術大会 (H25. 8. 31 ポスター発表)

療養病床受入時の薬剤師介入による薬剤コスト試算の有用性

2) 内田 充恵、五十嵐 佳子

がん化学療法レジメンオーダーシステム運用における問題点とその解決策 (H25. 9. 21 ポスター発表)

【研修・講習会】

1) 4/6 平成 25 年度第 1 回臨床薬剤師研修会 がん領域について 1 名参加

2) 4/9 第 16 回がん治療地域連携の会 外来化学療法中の医歯薬連携 1 名参加

3) 4/18 がん Supportive Care Meeting 制吐療法の進歩と外来化学療法への応用 1 名参加

4) 4/19 茨城 Breast Cancer Symposium

ザンクトガレンをふまえた薬物療法の Up-to-date 1 名参加

5) 5/16 柏市薬剤師会学術研修会 皮膚科医が提案する外用薬の使い方
1 名参加

6) 5/23 取手・龍ヶ崎医療圏第 23 回地域がん拠点病院研修会

化学療法のリスクマネジメント 1 名参加

- 7) 5/29 千葉県病院薬剤師会北部支部研修会 パーキンソン病と治療薬
感染防止対策加算制度が導入されて 1名参加
- 8) 6/14 龍ヶ崎薬剤師会勉強会
高齢者だけでなく、皆にやさしい薬の剤形とは？ 2名参加
- 9) 7/4 がん治療における地域連携第15回がん治療研修会 胃癌の薬物療法他
1名参加
- 10) 7/10 千葉県病院薬剤師会北部支部研修会 血液疾患の治療 1名参加
- 11) 9/13 取手・北相馬緩和ケア研究会
地域の緩和ケアネットワークをどう作るかOPTIM研究の成果から 1名参加
- 12) 9/20 平成25年度日本病院薬剤師会病院薬局協議会/学術フォーラム
医療技術評価と薬剤疫学の最前線 1名参加
- 13) 9/24 千葉県病院薬剤師会北部支部研修会アレルギー性鼻炎治療の最前線 1名参加
- 14) 10/1 第178回取手糖尿病研究会 CGMを用いた糖尿病治療の最適化 1名参加
- 15) 11/12 がん治療における地域連携第16回がん治療研修会
大腸癌の化学療法～レゴラフェニブの位置づけと副作用マネジメント～
2名参加
- 16) 11/25 第2回がん Supportive Care Meeting
当院緩和ケアチームの取り組みと米国でのフェンタニル口腔粘膜吸収剤の使用経験
1名参加
- 17) 12/12 千葉県病院薬剤師会西部支部・船橋薬剤師会合同研修会
『心電図を如何に読むか』－薬剤との関連－ 1名参加
- 18) 12/26 茨城県緩和ケアカンファレンス
いのちに限りがあると気づいたとき－患者として求める服薬支援－ 1名参加
- 19) 1/14 柏市薬剤師会学術研修会
『DPP-4阻害薬 Next Stage：さらなる可能性への期待』 1名参加
- 20) 1/15 千葉県病院薬剤師会北部支部研修会
高齢者における糖尿病治療のポイント 1名参加
- 21) 1/30 柏市薬剤師会学術研修会
プライマリーケア医が行う自殺予防への関わり 1名参加
- 22) 1/31 第13回取手リウマチ懇話会
関節リウマチに対するMTXの適正投与～有効かつ安全に使用するために～
2名参加
- 23) 2/5 第3回東葛地区病院薬剤師会スキルアップ勉強会
化学療法を安全に行うためのレジメン管理と副作用対策 2名参加
- 24) 2/20 がん治療における地域連携第17回がん治療研修会

- 『みんなで参加しよう！肺がん治療の副作用マネジメント』 他 1名参加
- 25) 6/11 第1回千葉県病院薬剤師会北部支部『薬剤師輸液栄養セミナー』
「輸液の処方設計の基礎～その患者さん栄養足りていますか?!～」 1名参加
- 26) 6/20 第1回千葉県病院薬剤師会北部支部『緩和ケアセミナー』
「世界標準のWHO方式がん疼痛治療法」 1名参加
- 27) 7/18 第2回千葉県病院薬剤師会北部支部『緩和ケアセミナー』
「がん疼痛治療について 薬物治療のコツ オピオイド～鎮痛補助薬」
1名参加
- 28) 7/23 第2回千葉県病院薬剤師会北部支部『薬剤師輸液栄養セミナー』
「水・電解質異常について～安全な補正について考えてみよう～」 1名参加
- 29) 9/3 第3回千葉県病院薬剤師会北部支部『薬剤師輸液栄養セミナー』
「肝硬変患者の栄養管理～代謝におけるジレンマの解決とQOL向上を目指して～」 1名参加
- 30) 10/17 第3回千葉県病院薬剤師会北部支部『緩和ケアセミナー』
「差がつく！症状緩和のアセスメント力」 1名参加
- 31) 11/19 第4回千葉県病院薬剤師会北部支部『薬剤師輸液栄養セミナー』
「腎不全患者の輸液・栄養管理～集学的なサポートにより栄養リスクと向き合う～」 1名参加
- 32) 11/21 第4回千葉県病院薬剤師会北部支部『緩和ケアセミナー』
「緩和ケアチームへの薬剤師の関わり」 1名参加
- 33) 12/19 第5回千葉県病院薬剤師会北部支部『緩和ケアセミナー』
「がん疼痛マネジメントと地域連携」 1名参加
- 34) 1/21 第5回千葉県病院薬剤師会北部支部『薬剤師輸液栄養セミナー』
輸液の配合変化～予測能力を養い薬剤師の本領を發揮しましょう！～
1名参加
- 35) 3/4 第6回千葉県病院薬剤師会北部支部『薬剤師輸液栄養セミナー』
がんと輸液管理 1名参加
- 36) 3/13 第6回千葉県病院薬剤師会北部支部『緩和ケアセミナー』
「緩和ケアチームの進む方向」 1名参加
- 37) 8/31～9/1 日本病院薬剤師会関東ブロック第43回学術大会
いま進化のとき、發揮せよ薬剤力！～社会の期待に向かって～
2名参加
- 38) 9/21～9/22 第23回日本医療薬学会年会 再興、再考、創ろう最高の未来
1名参加

- 39) 11/14 第25回つくば薬剤師の集い リウマチの治療について 1名参加
- 39) 11/19 循環器と脳の講演会 “急性期脳梗塞の最新治療 1名参加
- 40) 5/25 がん化学療法と緩和ケア(2) 今緩和医療を考える 1名参加
- 41) 11/9 がん化学療法と緩和ケア(6) 新しいがん免疫療法の開発について 1名参加
- 42) 11/20 心血管治療後の薬物療法を学ぶ “冠動脈カテーテル治療における
至適内科療法の重要性 1名参加
- 43) 3/11 緩和医療学術講演会 “突出痛治療の新展開～フェンタニルレスキュー製剤への期待～ 1
名参加
- 44) 3/14 取手市医師会学術講演会～感染対策研修会～
“呼吸器感染症診療のガイドラインに沿った一般的考え方 1名参加
- 45) 7/27～28 緩和ケア研修会 P E A C E プロジェクト A・B日程 1名参加
- 46) 12/7 日本病院薬剤師会 医薬品安全管理者等講習会 1名参加

6. 学生実習実績(平成25年度)

平成23年度より、薬学部6年制の長期実務実習(11週間)を実施しています。

コアカリキュラムに基づく実習プログラムを作成し、2名の学生の実習を行いました。

- ・ 第Ⅰ期(5月13日～7月26日)… 1名(千葉科学大学)
- ・ 第Ⅱ期(1月6日～3月23日)… 1名(帝京平成大学)

診 療 支 援 部 報 告

医療情報管理室

1. 業務紹介

2009年6月 オーダリング稼働・看護支援システム（ナース物語）・リハビリ支援システム（リハ物語）

2010年1月25日 PACS 稼働

2011年1月24日 電子カルテ稼働

ヘルプデスク、操作指導、システム管理・障害対応、端末管理・故障対応、統計業務、病床利用率統計、平均在院日数統計、中央病歴管理業務、医師事務作業補助、NCD 登録、地域がん登録、地域支援紹介率・逆紹介率

2. スタッフ紹介

11名（内、診療情報管理士2名）

3. 平成25年度実績（医師事務実績 別紙参照）

茨城県地域がん登録届出-92件

政府統計 病院報告データ処理（患者票4月～3月／従事者票年1回）

地域支援紹介率・逆紹介率の算出

病床利用率の算出

平均在院日数の算出

NCD登録（外科：323件／循環器：53件）

4. 今後の抱負・展望

医事システム バージョンアップに伴う入れ替え

給食システム バージョンアップに伴う入れ替え

電子カルテ バージョンアップに伴う入れ替え

診療録への記録を充実させるべく、職員の教育・指導を充実させ質の向上をしていきたいと考えています。パソコン自体のスキルを上げるべく、職員研修を行いパソコンの使い方や、基本操作方法を覚えればパソコンに対してストレスなく、効率よく業務ができるようになりペーパーレスへしていきけるように考えています。

医療連携室

1. 業務内容

紹介患者受付窓口
紹介患者逆紹介患者の把握・管理
診療情報提供書・報告書の把握・管理
紹介患者診察・入院・検査などの予約・調整
紹介元医療機関への結果報告・管理
他医療機関との連携・調整
セカンドオピニオン予約調整

2. スタッフ

常勤3名 非常勤2名の5名体制

3. 検査依頼内容

放射線検査（MRI CT 腹部超音波 胃・大腸内視鏡 骨密度 X-P ）
生理検査（心臓超音波 ホルター心電図 呼吸機能 脳波 神経伝導速度）
内視鏡検査（胃内視鏡検査・大腸内視鏡検査）
栄養指導

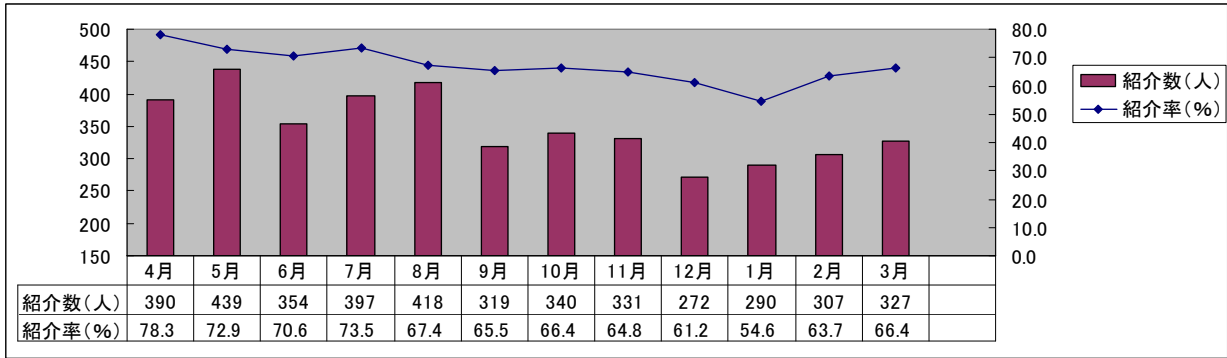
4. 広報業務

連携室便りの発行（年4回）

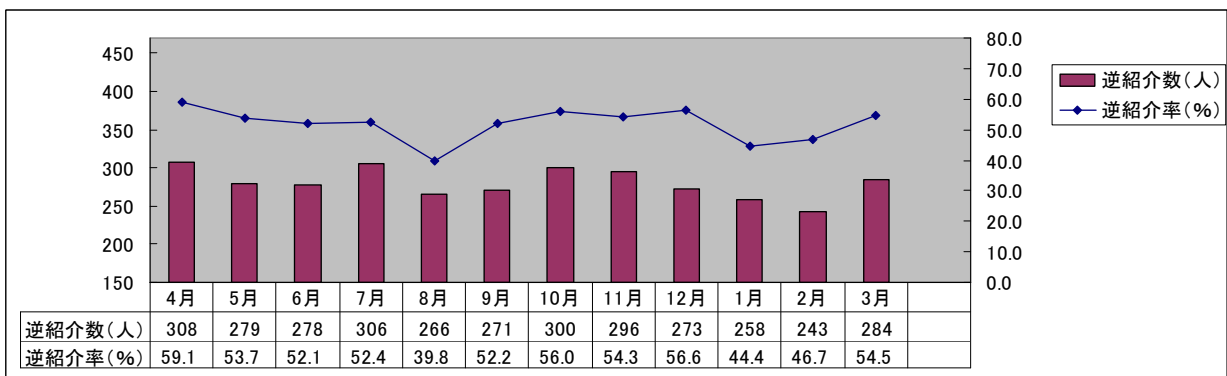
5. 今後の展望

医療連携室では、地域支援病院の窓口として地域の先生方や、医療機関との連携を図り、患者さまにより良い医療が提供できるように、連携・調整を強化し密な医療連携を目指します。

紹介率



逆紹介率



連携室便り

連携室便り

発行日：25年7月
取手北相馬保健医療センター
医師会病院
一階連携室便り一
一第28号一

猛暑の候、連日厳しい暑さが続いておりますが、諸先生方、関係機関の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より、当院に對しまして何かとご支援ご指導を賜り、心より感謝申し上げます。

医療連携室では、連携室便りを通して先生方へ、当院の情報を提供させていただきたいと考えております。今後、当院をご利用して頂きますよう宜しくお願いいたします。

奥の立山
【敬禮副院長撮影】

乳腺外来

例年にない早い梅雨明けで暑い夏がやってきました。先生方におかれましては、十分体調にお気を付けられ影響に動まれて下さい。

さて今回の連携室便りでは、乳がんをテーマとします。ご存知の通り乳がんは、90年代後半より日本の女性のがん罹患率において一位になり保続に至ります。まだまだ欧米に比較してその罹患率は低い段階ですが、内臓は欧米に近づく傾向に転じているのに対して日本では増加の一途をたどっていることです。得点16人1人が乳がんになるとの予測もあり、またメディアなどに取り上げられることが多くなる見込みです。その理由としては、発症年齢がB型ピークを示し、発症のピークが40歳代で、子育て中、主任の中間スタッフなどその社会的影響が大きいことが挙げられます。しかし正しい診断、治療を行えば All over でも70%以上の治癒が得られる比較的治るがんであることも乳がんの特徴であります。また取手医師会管内の乳がん検診における発見乳がんの検診においては、半数以上が検診検出(つまり触っても分からない)で、それらは遠隔転移も高く金銭無再発生存中です。当院は、日本乳がん学認定施設を取得し、一度も検査を受けた事のない患者さんには是非乳がん検診を受けることを、また少しでも懸念のある患者さんには、連携室を直し当院乳腺外来の子的受診をお勧めください。

取手北相馬保健医療センター医師会病院
院長 鈴木 武樹

連携室便り

発行日：26年1月
取手北相馬保健医療センター
医師会病院
一階連携室便り一
一第30号一

年頭のご挨拶

取手北相馬保健医療センター
医師会病院
院長 鈴木 武樹

新年明けましておめでとうございます。旧年中は、当院創立90周年を迎え、皆様には大変お世話になりました。私の所属科である外科に關しまして、手術総数 844 例と過去最多となりました。力を入れている腫瘍診療手帳においては、H23 年 46 例、H24 年 79 例、H25 年 112 例と順調な増加を認めました。

日本乳がん学認定施設を取得し1年経ちました乳がん手術も 84 例と過去最多の症例数でした。学会発表は研究会を含め14回でした。また国立がん研究センター東病院との連携を図り当地域の緩和ケアを要するケースを積極的に受け入れるように努めました。緩和ケアに關しますとさらに取手市医師会の在宅ネットワークとの連携を強化し、がんセンターから当院、当院から在宅へのスムーズな移行ができるよう在宅主治医先生方とカンファの機会を設けました。

さて、新年の館報として皆様にご案内されることは、1取手市医師会の公益法人化、2筑波大学寄附講座設置の二点があります。公益法人化につきましては、取手市医師会からの賛同があると思っておりますのでは割愛させていただきます。寄附講座設置に關しましては、2月5日大学との調印式が決定しています。20年度しかるべき時期に筑波大学より該講座の医師が就任され当院内に講座を設け、地域医療を推進していくこととなります。詳細につきましては今後随時報告させていただきます。

もちろん看護不足、病棟閉鎖、健全な病院経営等解決しなければならぬ問題が数多くあります。私も肝をすえてかかる所存であります。ますます皆様のお力が必要となります。今年も宜しくお願いします。

安全管理室

1. 業務紹介

安全管理室は当院では診療支援部に属し、ME機器の日常・定期点検、故障時の対応、操作・設定等の業務を行い、他のコメディカルと共にチーム医療に貢献し、病院理念のHEARTを提供できるよう努めています。

2. スタッフ紹介

臨床工学技士 2名（臨床検査技師兼1）

3. 平成25年度の実績

医療機器の管理（日常・定期点検等）や操作設定（ペースメーカー・フロートラック等）、ME機器の取扱説明、安全使用の勉強会等、機器の安全、安心な使用に努めてきました。

輸液ポンプ貸出件数 460 件、シリンジ貸出件数 106 件、呼吸器貸出件数 52 件

輸液ポンプ定期点検 98 件、シリンジポンプ定期点検 46 件、呼吸器定期点検 29 件

ペースメーカー24件（新規22 交換2）、ペースメーカー外来年4回（3, 6, 9, 12月）

フロートラック 15 件、PCPS 1 件

他、機器の点検、調整、修理

ME機器の説明・勉強会6回

4. 今後の抱負・展望

医療の進歩に伴い、ME機器の使用頻度は増える傾向にあり、安全安心使用はますます重要性を帯びてきます。適切な機器の管理、運用を充実させて行きたいと思えます。また新しい機器の使用、導入や更新等も検討されます。これらにおいても適時、取り扱いや注意点等の勉強会を開催して行きたいと思えます。

5. 研修会

1) 東京都臨床工学技士会主催 第1回不整脈セミナー

平成25年7月27日 汐留シティーセンター 1名参加

2) 日本メドトロニック主催 ペースメーカー研修会 応用編

平成25年12月7日 つくば国際会議場小会議室 1名参加

事 務 部 報 告

医 事 課

1. 業務紹介

入院・外来窓口業務、入院・外来会計業務、レセプト請求、統計業務、外来クラーク、診療アシスタント

2. スタッフ紹介

17名（平成26年3月31日現在）

3. 平成25年度実績

別紙参照

4. 今後の抱負・展望

今年度は、4年に1度の大きな点数改正がありましたので、視点を変え算定漏れがないよう職員のレベルの向上に向け、部署内での勉強会を定期的に行い、スキルアップを行っていきます。

また、窓口は病院の顔になる場所です。

会計の待ち時間を解消できるよう、患者様の待ち時間が短縮できるよう努めてまいります。笑顔で対応し、具合の悪い患者様が安心して気持ちよく帰宅できるよう、接遇にも力を入れ、また「かかりたい」と思われる病院にしていきたいと思っております。

5. 学生実習実績

筑波研究学園専門学校

東京医薬専門学校

つくばビジネスカレッジ専門学校

平成 25 年度病棟別入院人数

平成 25 年度

入院病棟人数

目標		東 3F													
稼働病床数 (許可病床数 58 床)		48 床													
		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	平均
稼働率	95%	77.7%	87.3%	84.5%	87.3%	92.4%	85.4%	91.8%	88.7%	94.3%	94.4%	89.8%	81.3%	1054.9%	87.9%
平均患者数		37.3	41.9	40.6	41.9	44.5	41.0	44.1	42.6	45.2	45.3	43.1	39.0	506.5	42.2
延患者数		1120.0	1300.0	1218.0	1299.0	1375.0	1230.0	1367.0	1278.0	1404.0	1405.0	1208.0	1210.0	15414.0	1284.5
平均在院日数		12.4	13.6	13.7	11.8	12.3	12.6	15.1	13.8	11.5	13.4	13.6	13.3	157.1	13.1

目 標		東 4F													
稼働病床数 (許可病床数 58 床)		48 床													
		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	平均
稼働率	95%	92.1%	94.4%	84.0%	96.1%	99.6%	98.6%	92.6%	94.1%	86.9%	88.5%	90.1%	90.3%	1107.3%	92.3%
平均患者数		44.2	45.3	40.3	46.1	47.8	47.0	44.4	45.1	45.1	42.5	43.2	43.3	534.3	44.5
延患者数		1327.0	1406.0	1210.0	1431.0	1482.0	1412.0	1378.0	1355.0	1355.0	1318.0	1211.0	1345.0	16230.0	1352.5
平均在院日数		22.9	21.6	17.7	21.4	21.0	25.2	20.7	18.4	18.4	17.2	18.9	21.9	245.3	20.4

目 標		南 4F													
稼働病床数 (許可病床数 50 床)		50 床													
		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	平均
稼働率	95%	91.4%	91.6%	90.2%	89.6%	85.6%	84.6%	82.8%	91.6%	88.8%	87.8%	86.4%	90.0%	1060.4%	88.4%
平均患者数		45.7	45.8	45.1	44.8	42.8	42.3	41.4	45.8	44.4	43.9	43.2	45.0	530.2	44.2
延患者数		1372.0	1420.0	1353.0	1390.0	1328.0	1270.0	1284.0	1374.0	1377.0	1361.0	1210.0	1395.0	16134.0	1344.5
平均在院日数		91.5	113.6	159.2	84.2	88.5	90.7	91.7	196.3	119.7	143.3	242.0	126.8	1547.5	129.0

平成25年度外来科別人数

	内科													合計	平均
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
実患者数	1,401	1,415	1,364	1,421	1,440	1,377	1,507	1,527	1,529	1,541	1,694	1,384	17,600	1,467	
延患者数	1,886	1,880	1,835	1,928	1,929	1,741	2,104	2,072	2,142	2,047	2,144	1,819	23,527	1,961	

	外科													合計	平均
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
実患者数	534	564	577	581	584	568	595	610	627	604	580	621	7,045	587	
延患者数	1,011	1,006	1,083	1,012	1,058	1,019	1,057	1,170	1,118	1,073	1,005	1,128	12,740	1,062	

	循環器科													合計	平均
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
実患者数	192	216	243	274	196	246	246	277	249	269	239	275	2,922	244	
延患者数	235	370	393	438	326	395	441	466	427	419	386	420	4,716	393	

	整形外科													合計	平均
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
実患者数	468	494	472	544	490	478	521	534	511	491	421	512	5,936	495	
延患者数	873	913	888	1,006	878	770	899	926	907	812	743	916	10,531	878	

	形成外科													合計	平均
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
実患者数	5	17	26	23	16	15	14	21	18	15	16	17	203	17	
延患者数	11	29	33	30	22	20	25	29	26	21	23	23	292	24	

	神経内科													合計	平均
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
実患者数	192	210	130	227	196	144	221	165	202	182	173	196	2,238	187	
延患者数	235	284	170	302	245	168	280	218	265	224	212	242	2,845	237	

	呼吸器科													合計	平均
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
実患者数	40	49	42	55	60	55	67	66	68	69	54	35	660	55	
延患者数	82	83	68	102	99	96	120	121	124	120	89	57	1,161	97	

	脳神経外科													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
実患者数	26	22	21	36	19	36	29	43	27	38	28	31	356	30
延患者数	40	41	39	73	29	62	54	70	51	61	50	58	628	52

	膠原病リウマチ科													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
実患者数	48	24	56	38	40	46	38	35	57	31	55	29	497	41
延患者数	60	31	63	50	50	51	49	42	71	35	70	33	605	50

	禁煙外来													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
実患者数	8	2	3	3	4	4	4	5	8	5	6	4	56	5
延患者数	6	3	4	5	8	5	5	9	11	9	10	7	82	7

	依頼検査													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
実患者数	126	100	89	101	83	97	122	114	78	85	88	113	1,196	100
延患者数	143	120	114	115	94	114	138	121	93	93	94	122	1,361	113

総務課

1. 業務紹介

就業規則の管理

人事、労務、給与

資材の発注／購入／払い出し

各種法定点検の実施（消防設備、エレベータ点検、ボイラ点検、建物点検等）

イベント・・・花見、忘年会、不在者投票、避難訓練等

病院設備改修、修繕

夜間事務当直

各種委員会

（医療安全管理委員会、感染対策委員会、輸血療法委員会、労働衛生委員会、医療の質向上委員会、医療ガス安全管理委員会、栄養委員会、災害対策委員会、教育委員会、その他）

業者折衝（価格交渉、運営交渉、その他）

病院基準の手続き（保健所、厚労省）

車両管理（点検、事故対応、管理）

郵便の発送、受取、配布

DMAT参加

救急情報端末入力

外来医師の表示

新聞・F a x の配布

救急車（当院）運行管理

2. スタッフ紹介

10名

3. 平成 25 年度実績

各種法定点検の実施、業者価格折衝、医ガス修繕工事、南病棟外壁点検実施

4. 今後の抱負

病院規則の充実をめざし、業務改善に取り組みます

5. 業績（学会発表等）

なし

6. 学生実習実績（平成 25 年度）

なし

経 理 課

1. 紹介

経理課は、平成 26 年 3 月末時点で、男 2 名、女 2 名のスタッフで構成されています。

前日の窓口会計の現金チェック、窓口会計の金種別釣銭準備が朝一番の業務です。これを終えてから日次業務、月次業務、年次業務へと日々の経過とともに業務をこなしていきます。

経理の仕事は、大きく分けて財務会計と管理会計という領域があります。財務会計とは、毎日の経済活動の『収支』と『財産』の両面をもれなく記録し、決算書として報告する仕事です。一方、管理会計は、一年間の経済活動の実績をふまえて、将来の目標の設定、業績の予測を行うため経営計画や予算を策定します。すなわち取手市医師会の業績を上げる目的、むだな経費の節約など、経営上の意志決定に必要なデータ作成・提供・分析を行うことです。

病院を取りまく経営環境は年々厳しくなり、病院経営を適切に運営していくためには迅速で本質をとらえた正確な情報の収集と分析、的確な意思決定を行う必要があります。会計記録から得られる情報が経営管理者に定期的、または必要に応じて伝達され、この情報を分析して原因を明らかにし、経営意思決定に役立てるように日々業務に取り組んでいます。

2. 平成 25 年度実績

正確で遅延なく日々の収支を記録し、取手市医師会の財務諸表を期日までに作成し経営管理者に正確な情報を提供することができました。

3. 平成 26 年度の展望

公益法人対応の経理的・会計的な実務処理の対応が必要となり、知識の習得が重要となってきます。また、収支の黒字化を目指すにあたって更なる情報を細分化し経営管理者の意思決定がスムーズに行われるようサポートして行きます。

保 育 室

1. 紹介

職員（看護部が中心となっておりますが・・・）のお子さんをお預かりしています。

日勤（AM7：45～17：30）

受入児童（生後3か月～未就学児）また、3歳以上児は、朝受け入れし、通園バスにのり通園。夕方戻ってきておやつを食べお母さんの迎えを待つ二重保育と夜間保育と行っております。また、学童児も長期の休み（春、夏、冬休み）の受け入れも行っています。

2. 職員数・・・常勤職員6名、パート職員8名 計14名

3. 入室児童数 0歳児・・・10名 1歳児・・・7名 2歳児・・・3名 3歳児・・・9名

臨時14名

29名 + 14名=44名

夜間利用人数は、4名

4. 運営方針

お母さん方が安心して預けられる施設の遂行

保育目標

明るく元気で自分の意思を素直に表現できる子

思いやりがある子

指導理念

個々を尊重し大切にす

スキンシップを大事にしながら個々に合わせた成長を育む

5. 実績

4月 父母会

5月 こいのぼり製作

6月 父の日プレゼント製作

7月 七夕がざり製作・プール遊び

9月 父母会

10月 園外保育

12月 クリスマス発表会・お楽しみ会

2月 節分の集い

3月 ひな祭りの集い

各 委 員 会 報 告

医療安全管理委員会

1. 業務紹介

患者さんが、安心して安全な医療を受けられる環境を整えて、良質な医療を提供できるように医療安全管理委員会規程に基づき実践しています。

患者さんの安全確保の観点から、医療事故の予防・再発防止を推進することは極めて重要な取り組みです。

「人間はエラーを犯すもの」という観点に立ち、事故を起こした個人の責任を追及するのではなく、事故を発生させた業務手順の不備や不十分な点に注目し、分析・対策立案を行い、二度と同じような事故が起こらないよう努めています。

医療安全管理委員会の活動としては、全職員対象に医療安全研修を実施しています。今年度は院内での事故に関するテーマで講演会を実施しました。

講師の了解が得られた講演会はビデオ撮影をし、業務の関係で研修会に参加できなかった職員にも、後日上映会を開催し対応しています。

医療安全管理推進者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者で、環境、医薬品、医療機器を中心に各部署を定期的に回診しています。

医療安全管理指針見直しと改訂、患者さんからの投書の検討、セクハラ・パワハラ相談、日本医療機能評価機構からの医療安全情報を院内に発信しています。

2. スタッフ紹介

委員長（病院長鈴木武樹）、副委員長、医療安全管理推進者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、看護部長、事務長、整形外科医長、健診科長、検査科長、放射線科長、リハビリテーション科長、取手市医師会員、事務担当者 計14名

3. 平成25年度実績

○委員会の開催

- ・ 定例 11回
- ・ 臨時 1回

○職員研修の実施

- ・ 4月16日 新入職員医療安全研修
- ・ 11月21日～27日 医療安全推進週間
- ・ 11月25日 医療安全研修会

○研修会等の参加

- ・ 8月 7日 平成25年度医療安全推進責任者研修会（参加：4名）
- ・ 12月 7日 Team STEPPS研修会（参加：4名）

- ・ 2月 2日 平成25年度茨城県医療安全研修会（参加：2名）

○インシデント・アクシデント報告件数

- ・ レベル3 b以上のアクシデント：2件

（独歩転倒、左橈骨遠位端骨折・布団をはがした際、胃瘻チューブ抜去）

（部署別報告件数）

医局	東3階	東4階	南4階	外来
1	56	91	60	41
手術室	医療相談室	薬剤科	放射線科	検査科
0	0	14	10	2
健診科	リハビリテーション科	栄養科	安全管理室	医療情報管理室
5	4	5	0	0
医療連携室	医事課	経理課	総務課（施設・保育室含む）	合計
0	17	0	1	307

4. 今後の抱負・展望

医療安全管理委員会委員長及び医療安全管理推進者を中心に各部署の職員との連携のもと、指針及びマニュアルに基づく医療安全管理体制を確立し、患者さんが安心して、安全な医療を受けられる環境を整え、良質な医療を提供するよう努めていきます。

今年度はインシデント・アクシデントの事例分析、対策・改善の実施状況の把握と評価が不十分であったため、来年度は委員会開催時に対策・改善の把握と評価をしっかりと行っていきます。また、事故の初期対応についてはスピードが重要なため、早急な対応ができるよう院内の危機意識の向上に努めていきます。

来年度は医療安全管理指針や各種マニュアルの改訂を行う活動を増やしていきます。

感染対策委員会

1. 業務紹介

感染対策委員会は、病院内や入院患者、入院患者の家族または地域で発生する感染症について情報収集や早期発見、感染対策を行い、感染拡大を防止し、安全で安楽な職場環境と療養環境を提供する委員会である。

2. スタッフ紹介

医師：鈴木武樹、熊谷宗士、江原千東、高安聡、以下 16 名

3. 平成 25 年度実績

1) 年 2 回の感染対策講習会は、当院南病棟 2 階会議室と食堂を使用し平成 25 年 11 月 19 日火曜日、講師 間島菜穂子が「インフルエンザ感染対策について」、平成 26 年 3 月 18 日 火曜日 講師 大塚康太（化学及血清療法研究所 学術第二課）、当院薬剤師 内田充恵が「ワクチンについて」講習会を行いました。

当日、講習会に参加できなかった職員を対象に、後日 DVD 放映を行い全職員が講習することができるようにしました。

日時	講習内容	出席者+DVD 講習者数	全職員数 (非常勤者も含む)	参加数・%
平成 25 年 11 月 19 日	インフルエンザ	230 名	380 名	60.53%
平成 26 年 3 月 18 日	ワクチンについて	221 名	318 名	69.49%

2) インフルエンザ感染に関する対応

対策と発生状況

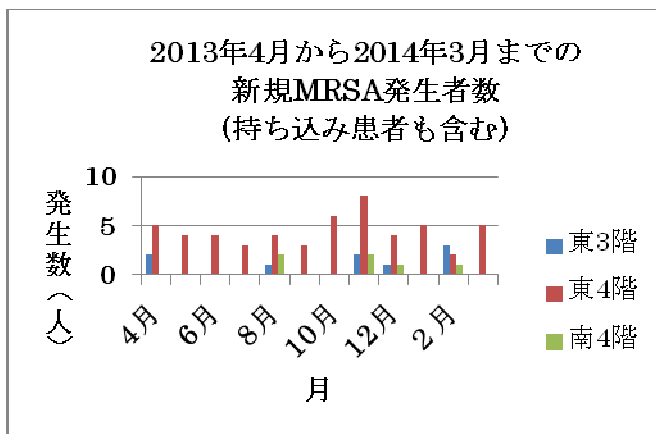
平成 25 年 10 月 1 日より、全職員と面会者、病院内に出入りする外部職員はマスク装着とする。11 月 1 日より、職員のインフルエンザ感染を早期発見する目的に健康管理報告書の記載を開始。

インフルエンザ発生 1 例目は平成 26 年 1 月 7 日、最終報告者は平成 26 年 3 月 25 日です。入院患者 18 名+職員 36 名=合計 53 名

3) インフルエンザアウトブレイク時の対応について

平成 26 年 2 月 9 日から 12 日の間で東 3 階職員が 7 名、東 3 階入院患者 13 名がインフルエンザ A に感染したため、臨時感染対策委員会を 12 日から毎日朝・夕に行い各部署の発生状況の確認を行った。12 日よりインフルエンザ A 感染が患者・多部署職員より発生したため、全職員と全入院患者は 10 日間のタミフル予防投与を開始した。2 月 16 日がピークとなり 2 月 18 日、職員のインフルエンザ A 発生を最後にインフルエンザ発生がなかったため、2 月 24 日、院内におけるインフルエンザアウトブレイクの終息宣言を発令し、臨時感染対策も終了しました。

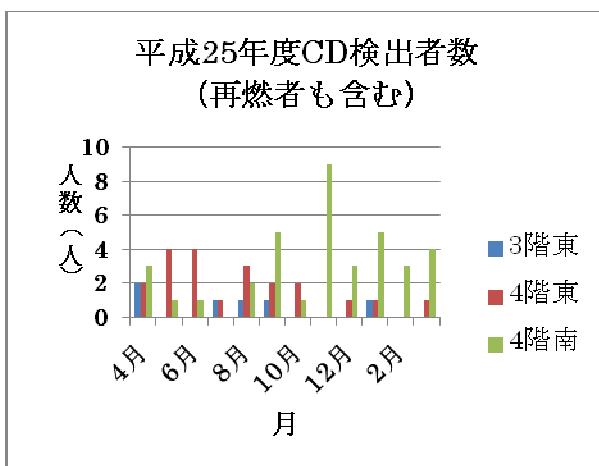
4) 平成 25 年度の感染症発生状況



平成 25 年度 MRSA 検出者数

部署	人数
東 3 階	9 名
東 4 階	53 名
南 4 階	6 名

平成 25 年度各部署の MRSA 発生者数、入院して 2 日以内の培養検査を実施し検出された者は持ち込み患者とする。(以下、持ち込み患者とする)



平成 25 年度 CD 検出者数

部署	人数
東 3 階	6 名
東 4 階	21 名
南 4 階	37 名

結核者数と多剤耐性緑膿菌

結核者	3 名
多剤耐性緑膿菌 (持ち込み患者数) (当院発生者数は 0 名です)	3 名

4. 今後の抱負・展望

- 1) インフルエンザシーズン前に予防策について職員の知識向上を図る。各部署の委員会メンバーが中心となり自部署の職員の教育を行うインフルエンザ感染対策(手指衛生、マスク装着、高頻度に手が触れる場所の環境整備、体調不良時は早期に医療機関受診)を実践できる職員を育成する。また、業務内で適正に実践しているかを感染対策ラウンド時にチェック、委員会メンバーにフィードバックし各部署の感染対策の底上げを行う。以上の事を行い、平成 25 年度シーズンより感染者数の減少を目指す。

- 2) MRSA や CD について、手指衛生の教育強化と接触予防策が業務内で適正に実践できるスタッフを育成する。また、今年度から看護部で感染部会を開始する為、部会メンバーの教育を行い感染対策モデルナースを育成する。感染対策を実践できるスタッフを育成することで感染症数の減少に繋げる。
- 3) 標準予防策について知識向上し実践できる職員を教育し、院内感染を平成 25 年度より減少でき、安全な職場環境や療養環境を提供できる委員会となる。

5. 業績

【講演】

1) 間島菜穂子

インフルエンザに対する感染対策について

平成 26 年 1 月 25 日 竜ヶ崎済生会病院 講義室

【学会発表】

「インフルエンザ感染対策に対する職員の取り組み」2月14日

「インフルエンザアウトブレイクを経験して」2月15日

間島菜穂子、内田充恵

第 29 回日本環境感染学会・学術集会 平成 26 年 2 月 14 日・15 日

グランドプリンスホテル新高輪、国際パミール、グランドプリンスホテル高輪

【研修会参加・講習会参加】

1) 北里大学感染制御研究機構 北里大学 白金キャンパス

平成 25 年 7 月 13 日 ワクチンのメリットとデメリット 1 名参加

平成 25 年 8 月 3 日 院内感染関連微生物、呼吸器系からの感染防御 1 名参加

平成 25 年 9 月 7 日 血液媒介感染対策、院内感染ネットワーク 1 名参加

平成 25 年 10 月 12 日 感染性廃棄物の分別、感染対策に関する環境整備 1 名参加

平成 25 年 11 月 2 日 真菌感染症の感染制御・抗菌薬の使い方 1 名参加

平成 25 年 12 月 7 日 医療器材関連感染・耐性菌の現状と対策 1 名参加

2) 茨城県感染管理認定看護師の会

平成 25 年 11 月 30 日 つくば国際会議所 大ホール

院内感染対策研修会

「院内感染対策で問題となる病原性微生物の基礎知識」

「感染関連訴訟をどう防ぐか～訴訟事例を振り返り～」 1 名参加

3) 平成 25 年 6 月 5 日・6 日 パシフィコ横浜

第 87 回日本感染症学会学術講演会第 61 回日本化学療法学会総会合同学会

4) 平成 25 年 5 月 30 日 埼玉県病院薬剤師会感染制御研修会

TDM 解析ソフトを使用する際の注意点

5) 平成 25 年 5 月 31 日 ICD Expert forum in Tsukuba part2

感染防止対策加算制度が導入されて

- 6) 平成 25 年 6 月 22 日 第 9 回千葉県重唱感染症研究会
抗菌薬の投与方法設定には何が必要か？
- 7) 平成 25 年 6 月 29 日 平成 25 年度第 1 回千葉県感染症専門・認定薬剤師講習会
肺炎 その実態と治療他
- 8) 平成 25 年 8 月 6 日第 50 回 ICP 研究会
高齢者の肺炎他
- 9) 平成 25 年 9 月 30 日第 51 回 ICP 研究会
Clostridium difficile でかわる周術期感染対策
- 10) 平成 25 年 10 月 5 日 第 16 回千葉 TDM セミナー
小児における TDM の考え方 他
- 11) 平成 25 年 10 月 9 日 第 3 回薬剤師のための感染制御を考える会
中小病院における薬剤師の感染制御について
- 12) 平成 25 年 10 月 23 日 東京都病院薬剤師会臨床薬学研究会
耐性菌の現状と対策他
- 11) 平成 25 年 11 月 14 日 埼玉県病院薬剤師会感染制御研修会
肺炎治療の基本、レントゲンの見方と抗菌薬治療
- 12) 平成 25 年 11 月 27 日 Infection Forum in Tokyo-Bay
インフルエンザ感染の重症化機序に関する最新知見
- 13) 平成 25 年 12 月 3 日 第 52 回 ICP 研究会
抗 MRSA 薬の使い方～症例を通じて～
- 14) 平成 26 年 1 月 11 日 平成 25 年度感染制御専門薬剤師講習会
災害と感染症他
- 15) 平成 26 年 2 月 27 日 埼玉県病院薬剤師会感染制御研修会
「医療安全－感染対策の立場から－」
- 16) 平成 26 年 3 月 12 日 千葉県病院薬剤師会第 10 回北部支部研修会
感染防止対策地域連携について
- 17) 平成 26 年 3 月 14 日 第 3 回茨城県重症感染症研究会
「輸入感染症について」他

カルテ・クリティカルパス委員会

1. 業務紹介

- (1) 診療情報の適切な管理・保存を行う。
- (2) 診療情報の管理に関連する電子カルテの運用の一部を判断・決定し周知するとともに、その運用を管理する。
- (3) クリティカルパスの内容を検討し、院内での導入・周知・運用を行う。

2. スタッフ紹介

委員長：横井 直幸
副委員長：白田 保夫
委員：8名

3. 平成25年度実績

- ・ 化学療法クリティカルパスの導入
- ・ ストーマサイトマーキング実施記録用紙の導入
- ・ 付箋機能の使用制限・監査実施
- ・ 身体抑制に関する説明・同意書の承認、導入
- ・ 外来輸血の説明文書及び付箋機能使用の承認、導入
- ・ 抗血小板薬、抗凝固薬に関する説明・同意書の承認、導入

4. 今後の抱負・展望

委員会の目的の一つとして、診療情報の管理に関する電子カルテの運用の一部を管理することがあげられるが、職種により日常業務にて使用している機能が異なるため、委員全員が電子カルテの機能や運用方法を全体的に把握できているとは言えないのが現状である。

今後、各職種がそれぞれの知識、経験、技術に基づき検討するのみでなく、委員全員が現状よりも電子カルテの機能や運用方法を把握できるように努めることにより、円滑な管理、運用を図りたい。

医療の質向上委員会

1. 業務紹介

- ① 掲示物の表現や張り出し等、来院者の視線に立ち見直し。
- ② 院内のアメニティー向上のための検討。
- ③ 医療サービスの質、療養環境、外来環境、付帯設備環境等、患者満足度を上げるための検討と提言。
- ④ 患者・家族、ご意見箱からの意見、要望に対する対応。
- ⑤ 年1回患者満足度調査を行い、患者および全職員にフィードバック。
- ⑥ 年1回外来待ち時間調査を行い、業務改善への提言。
- ⑦ その他、医療の質向上のための啓蒙活動。

2. スタッフ紹介

整形外科 吉田 綾医師 ほかコメディカル8名

3. 平成25年度実績

- ① 1回/月、チェック表を元に院内をラウンドし、掲示物、汚れなどを点検・改善。
- ② 患者満足度調査（外来・入院）を行い、患者からの意見を調査した。外来患者については、集計後外来に掲示済み。入院患者については今後掲示。
- ③ 院内に展覧してある絵画の管理。
- ④ 院内危険区域の管理についての提言。
- ⑤ 正面玄関の医師会マップの改善を提言。
- ⑥ 外来トイレの荷物置き台を清潔感のあるものに変更。
- ⑦ 清掃の行き届いていない箇所改善への提言。
- ⑧ 質の向上につながる標語を作成し、掲示。

4. 今後の展望

今年度も外来、入院患者満足度調査を行い、集計した。患者・家族からのご意見に対応するために、幅広い視野で検討することを目的とし、全職員から改善案を募集し、患者にフィードバックできる内容を検討する。今後、さらに具体的な調査（外来待ち時間調査や食事調査等）を行い、さらに本院の質向上に繋げていきたい。

院内ラウンドは前年度よりも不適切な項目が減少しており、定期的に継続して行っている効果がみられているのではないかと分析する。今後も、患者に快適な環境を提供する病院をつくるための啓蒙活動をしていきたい。

化学療法委員会

1. 業務紹介

化学療法委員会は、がん化学療法の有効性、安全性を確保することを目的として、月に1回開催し、次の事項について審議を行っています。

- ① 化学療法に関するレジメン(治療内容)の妥当性を評価し、検討・承認する。
- ② 新規薬剤の購入にあたり、委員会としての見解を薬事委員会に報告する。
- ③ 院内における治療上の問題点を検討する。特にグレード4以上の事例、または重篤な合併症の発生を認めた場合、すみやかに原因、再発防止策の分析・対策等を検討し安全委員会に報告する。
- ④ 化学療法に関する最新の情報の収集・知識の習得に励み、必要と認めた情報はすみやかに院内に周知する。

2. スタッフ紹介

- ・ 委員長（がん治療認定医）1名…萩原 謙 外科医長
- ・ 副委員長（薬剤師）1名
- ・ 病棟看護師（外科病棟看護師長、療養病棟主任看護師）各1名
- ・ 外来看護師（外来看護師長）1名
- ・ 医事課1名
- ・ 医療情報管理室1名

3. 平成25年度実績

平成25年度は、5件のレジメン登録申請があり、各種ガイドラインや文献等を基に審議のうえ、新たにレジメン登録を行いました（1件のレジメンを削除）。

平成25年度末日現在、当院で使用可能なレジメン数は、50件（表）となっております。

表 疾患別レジメン数

疾患	レジメン数
大腸がん	11
胃がん	14
食道がん	2
膵・胆嚢・胆管がん	3
悪性リンパ腫	2
肺がん	11
乳がん	9
合計	52

4. 今後の抱負・展望

- ・ 関係職員の化学療法に関する知識レベルの向上
- ・ 地域連携の充実（皮膚科医との連携、調剤薬局への研修会開催）

医療ガス安全管理委員会

1. 業務紹介

取手北相馬保健医療センター医師会病院において使用する医療ガス（酸素、麻酔ガス、吸引、医用圧縮空気、窒素等）の設置の安全を確保する

2. スタッフ紹介

白田 保夫 Dr 他、薬剤師1名、ME1名、施設管理1名、総務課1名

3. 平成25年度医療ガス設備点検修繕により2割の酸素購入量減

4. 今後の抱負・展望 医療ガス安全管理委員会は、病院機能の基礎的な医療ガスの安全を今後も確保するよう努力いたします。

5. 業績なし

6. 学生実習実績なし

N S T・褥瘡対策委員会

1. 業務紹介

(活動目的)

栄養管理をすべての治療に共通する医療行為の基本と位置づけ、患者の栄養状態が改善に向かうよう多職種で検討するとともに、栄養管理の重要性を病院内に周知する。

褥瘡のリスクアセスメント、褥瘡の評価、計画立案、実施を行い、多職種で検討し、入院患者の褥瘡予防対策および褥瘡の早期治癒を図る。

(活動内容)

週1回の症例検討会を開催し、患者の経過、検査やADL、服薬状況を把握し、栄養療法のすすめ方の検討を行う。

褥瘡のある患者に対し、処置法、ポジショニング等の対策を検討する。

2. スタッフ紹介

委員長 内科：川邊 淳夫 医師

整形外科：中島 佳子 医師

外科：江原 千東 医師

他 コ・メディカル 20名

3. 平成25年度実績

○平成25年度NST・褥瘡対策チーム回診件数

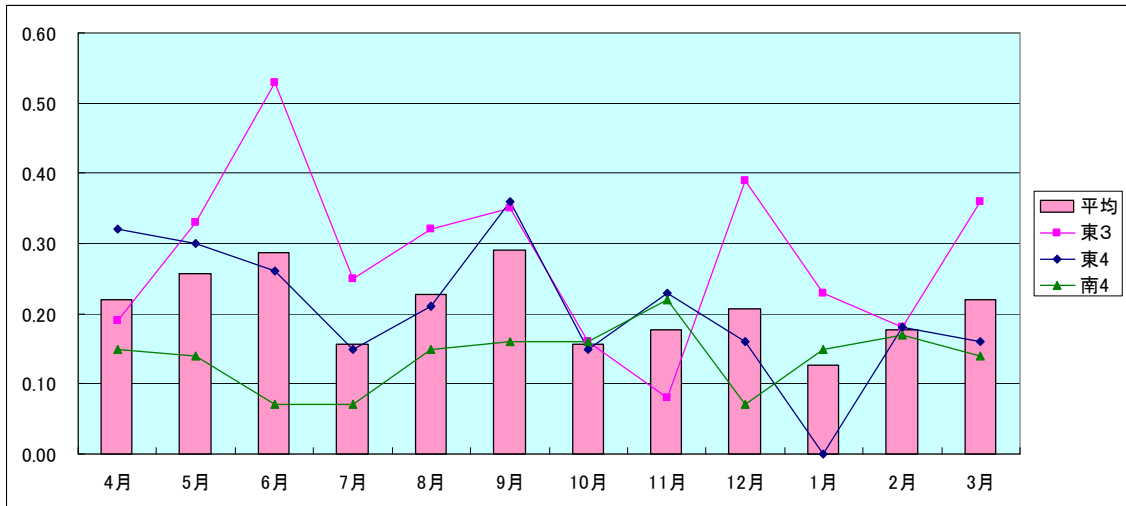
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
件	29	45	42	50	38	32	44	36	27	32	33	25

○平成25年度褥瘡発生率

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
%	東3	0.19	0.33	0.53	0.25	0.32	0.35	0.16	0.08	0.39	0.23	0.18	0.36
	東4	0.32	0.3	0.26	0.15	0.21	0.36	0.15	0.23	0.16	0	0.18	0.16
	南4	0.15	0.14	0.07	0.07	0.15	0.16	0.16	0.22	0.07	0.15	0.17	0.14
	平均	0.22	0.26	0.29	0.16	0.23	0.29	0.16	0.18	0.21	0.13	0.18	0.22

%

平成 25 年度褥瘡発生率



4. 今後の抱負・展望

- 経管栄養または静脈栄養患者さんの経口摂取への移行症例を増やす。
- 踵の褥瘡をなくす。

5. 業績

【勉強会開催】

1) 及川 卓一

NST・褥瘡対策委員会勉強会 褥瘡の治療

平成 25 年 5 月 17 日、31 日 取手北相馬保健医療センター医師会病院会議室

【学会発表】

1) パーキンソン病に急性脳梗塞を併発し再び経口摂取が可能となった一症例

～急性期から療養期までの NST・褥瘡対策チームの関わり～

○小島 麻記子¹⁾ 朝岡 紘子¹⁾ 秋葉 美佳¹⁾ 吉成 浩子¹⁾ 木村 めぐみ²⁾

染島 康子³⁾ 藤田 あけみ³⁾ 許 表勝⁴⁾ 川邊 淳夫⁴⁾ 及川 卓一⁵⁾ 鈴木 武樹⁵⁾

¹⁾栄養科 ²⁾リハビリテーション科 ³⁾看護部 ⁴⁾内科 ⁵⁾外科

第 17 回日本病態栄養学会 平成 26 年 1 月 11、12 日 大阪国際会議場

【研修・講習会】

1) 日本褥瘡学会 関東甲信越地方会

平成 25 年 6 月 7 日 幕張メッセ 2 名参加

2) 栄養サポートチーム担当者研修会

平成 25 年 8 月 2 日～4 日 東京栄養食糧専門学校 3 名参加

3) 栄養サポートチーム担当者研修会認定教育施設における研修

平成 25 年 10 月 24、31 日 茨城県立こども病院 2 名参加

平成 26 年 1 月 23、24 日 筑波メディカルセンター病院 1 名参加

4) 第 67 回 関東甲信越 TNT 研修会

平成 26 年 9 月 21、22 日 群馬大学医学部附属病院 1 名参加

5) 皮膚創傷ケア最新トピックス

平成 25 年 9 月 27 日 JA とりで総合医療センター 1 名参加

6) 楽しくマスター 1 日でわかる皮膚のすべて (学研セミナー)

平成 25 年 10 月 20 日 秋葉原 UDX 2 名参加

7) 経腸栄養セミナー

平成 25 年 11 月 9 日 筑波大学病院 4 名参加

8) 第 8 回日本褥瘡学会関東甲信越地方会 茨城県支部教育セミナー

平成 26 年 1 月 19 日 筑波メディカルセンター病院 2 名参加

9) 第 17 回 日本病態栄養学会

平成 26 年 1 月 11、12 日 大阪国際会議場 2 名参加

10) 第 29 回 日本静脈経腸栄養学会

平成 26 年 2 月 27、28 日 パシフィコ横浜 1 名参加

教育委員会

1. 業務紹介

- 1) 職員の教育に関する研修会等を企画し実施する。
- 2) 新入職員の教育に関する研修会等を企画し実施する。
- 3) 他委員会と連携し研修会等を開催する。
- 4) その他

2. スタッフ紹介

リハビリテーション科	1名	委員長
放射線科	1名	副委員長
医局	1名	
看護部	5名	
薬剤科	1名	
健診科	1名	
検査科	1名	
事務部門（総務・経理課各1名）	2名	

3. 平成25年度実績

1) 全体研修の開催

- ・ BLSの日（BLSインストラクターによる実技研修 AHAのBLS 2010を習得）

- ① 平成25年 6月26日 9:00～17:00 医師会病院会議室
予備日 7月16日 17:30～18:30 リハビリテーション室
参加者：計222名（参加率83.2%）
- ② 平成25年11月27日 9:00～17:00 医師会病院会議室
予備日12月10日 17:30～18:30 リハビリテーション室
参加者：計221名（参加率78.6%）
*医師会会員施設より 4名参加

- ・ 学術発表会（学会発表や専門領域の報告・予演会）

平成25年7月30日 17:30～19:00 医師会病院会議室
発表6演題 参加者：49名

- ・ 診療報酬改定勉強会

平成26年3月26日 17:30～18:30 医師会病院会議室
講師：医事課職員 参加者：90名

2) 新入職員オリエンテーション開催（辞令交付, 講義, 入職手続き, 各科紹介, 院内見学その他)

平成 25 年 4 月 1 日 9:00~17:00 医師会病院会議室

参加者 16 名

* 新入職員オリエンテーション用冊子作成 講師・参加者に配布

3) 委員会の開催 年 6 回 医師会病院会議室

4. 今後の抱負・展望

- ・ 今後も病院職員の質の向上を図るため、職員研修に取り組んでいきます。
- ・ 現在行っている研修についてはアンケート等から内容や時間など見直し図ります。
- ・ 他の委員会と連携を図り、職員に必要な研修等を企画し、開催します。

薬事委員会

1. 業務紹介

薬事委員会は、月に1回開催し、次の事項について審議を行っています。

- ① 医薬品の採用及び削除の決定に関すること。
- ② 医薬品による治療方法の検討と向上に関すること。
- ③ 医薬品の情報交換及び副作用情報に関すること。
- ④ 同種同効品の使用の検討と在庫品の活用に関すること。
- ⑤ 医薬品購入費の効率的使用に関すること。
- ⑥ 救急薬品、病棟保管薬品などの取り扱い及び夜間救急時の医薬品に関すること。
- ⑦ 院内採用医薬品のリストに関すること。
- ⑧ 医薬品の購入計画に関すること。
- ⑨ 後発医薬品の採用に関すること。
- ⑩ その他、医薬品に関する必要事項。

2. スタッフ紹介

- ・委員長・・・渡邊 寛(医師)
- ・各診療科医師・1名ずつ(計3名)
- ・薬剤師 1名
- ・医事課職員 1名

3. 平成 25 年度実績

平成 25 年度は、後発医薬品の切り替えを提案するとともに、医薬品を効率的に使用するために、使用頻度の少ない医薬品の削除を推進しました。

平成 26 年度(H. 26. 4 月～)より、34 品目について後発医薬品に切り替える予定です。

平成 25 年度 医薬品採用状況 (院内)

	採用品目数	削除品目数	平成 26 年 3 月
内服薬	12	18	356
注射薬	6	10	254
外用薬	2	5	113
合計	20	33	723

4. 今後の抱負・展望

今年度も引き続き後発医薬品の切り替えを推進していきます。

また、使用頻度の少ない医薬品についても削除し、医薬品を効率的に使用できるようにしていきます。

コンピュータ委員会

1. 業務紹介

病院のホームページ作成と管理および IT 化、コンピューター化全般にわたる円滑な運営のための活動を行っている。

2. スタッフ紹介

委員長：渡邊寛、副委員長：大石武彦、他委員 9 名

3. 平成 25 年度実績

病院ホームページの内容更新

医療情報管理室を中心とする病院の IT 化に協力する方針を決定

4. 今後の抱負・展望

患者様へ有益な情報を提供できるような病院ホームページにするため、定期的に委員会を開催し内容を検討する。

今後の病院発展のためには IT 化は必須であると考えられるので、委員会活動としてこれを最大限サポートする。

5. 業績（学会発表等）

なし

6. 学生実習実績（平成 25 年度）

なし

栄養委員会

1 業務紹介

給食業務に関わる情報を関連職種と共有し、問題解決や提案を行う。

患者満足度が高く、かつ効果的な治療に結びつき、栄養管理や指導を実現するための媒体として質の高い、安全な病院食の提供に結びつける。

【委員会開催】月 1 回の委員会を開催

2 スタッフ紹介

委員長：内科 熊谷 宗士 医師 他コ・メディカル 5 名
委託給食会社事業所責任者 1 名

3 平成 25 年度実績

○「食品の持ち込み、差し入れについて」配付および掲示用パンフレット作成

→持ち込み食に対する当院の考えを明確にする。(病院承認)

○薬袋下膳数の減少に対する働きかけ→薬袋下膳 0 件の月が出るようになった。

○食事オーダートラブル減少に対する働きかけ→原因を究明し、関係各所にフィードバックすることでオーダートラブルの減少を図った。

○食事配膳トラブルに対する解決策の検討→誤配膳のあった患者に対する注意喚起マークを食札へ設定(安全管理委員会で提案・承認。同一患者へのトラブルのリスク対策とする。)

4 今後の抱負・展望

○薬袋下膳ゼロ。

○誤配膳の減少への取り組み。

○患者満足度の向上(患者満足度調査および嗜好調査において)

5 業績

【研修】

1) やわらか嚥下プロジェクト

平成 25 年 8 月 26 日 エームサービス株式会社(本社)

2) やわらか嚥下プロジェクト

平成 25 年 9 月 26 日 エームサービス株式会社(本社)

3) 患者給食受託責任者継続講習会

平成 25 年 10 月 22 日 エームサービス株式会社(本社)

4) やわらか嚥下プロジェクト

平成 25 年 10 月 28 日 エームサービス株式会社(本社)

- | | |
|--------------------------------------|------------------|
| 5) やわらか嚙下プロジェクト
平成 25 年 11 月 22 日 | エームサービス株式会社 (本社) |
| 6) やわらか嚙下プロジェクト
平成 25 年 12 月 9 日 | エームサービス株式会社 (本社) |
| 7) やわらか嚙下プロジェクト
平成 26 年 1 月 15 日 | エームサービス株式会社 (本社) |
| 8) スマイルメニューセミナー
平成 26 年 1 月 27 日 | エームサービス株式会社 (本社) |
| 9) やわらか嚙下プロジェクト
平成 25 年 2 月 10 日 | エームサービス株式会社 (本社) |
| 10) 嚙下ピラミッド講習会
平成 25 年 2 月 25 日 | エームサービス株式会社 (本社) |

広報委員会

1 業務紹介

平成26年3月に委員会発足。
病院の広報活動（年報・広報誌）の作成を行う。

2 スタッフ紹介

委員長：渡邊寛
副委員長：渡来俊雅
委員：6名

3 平成25年度実績

なし

4 今後の抱負・展望

広報誌の年4回発行を行う。発行した広報誌を市役所・保健センター等へ配布し啓蒙活動を行っていく。

平成25年度年報の作成。

5 業績（学会発表等）

なし

6 学生実習実績（平成25年度）

なし

輸血療法委員会

1 平成25年度の報告と業績

主な活動として平成25年度には、献血者の善意である血液製剤を有効利用する事を目的に、血液製剤の使用量と廃棄量の数値について審査を行いました。この活動の結果、血液製剤の投与に関する手順（マニュアル）などを見直し、輸血準備を適切に行う体制を作り、一定の効果を得る事ができました。また、委員会による「輸血ガイドライン」の改定に伴い、輸血同意書及び輸血療法についての説明書や、輸血マニュアル（輸血療法の手順書）の改定作業も行いました。

2 業務紹介

年間6回以上の委員会開催をし、血液製剤の使用量、並びに廃棄量を審議しており、適切な使用状況を確認しております。

- ・輸血療法の適応（厚生労働省の指針を準用する）
- ・輸血実施時の手続き
- ・血液製剤の使用状況調査
- ・症例検討を含む適正使用促進の方法
- ・輸血療法に伴う事故・副作用・合併症の把握方法と対策
- ・輸血関連情報の伝達方法
- ・その他血液製剤使用に関する全般

3 スタッフ

委員長 医師 渡邊 寛
医師 熊谷 宗士
医師 江原 千東
看護部 藤田 あけみ
看護部 川田 祐一
薬剤科 五十嵐 佳子
検査科 古田 恒二
検査科 平山 佐知子
総務課 秋元 靖行

4 今後の抱負と展望

委員会において血液製剤が適正に使用されているかを調査するとともに、さらに安全性を高めるためには、副作用などの情報の収集と管理が必要と考え輸血療法委員会を中心に院内の周知徹底に努めていきます。

個人情報保護委員会

1.業務紹介

職務上獲得した個人情報の適正な管理と保護を行う。

2.スタッフ紹介

委員長：平岡 昌和、副委員長：白田 保夫、他 7名

3.平成 25 年度実績なし

4.今後の抱負・展望

個人情報保護委員会は、業務上知り得た患者および病院関係者の個人情報などの適正な管理と保護を今後も行うよう努力いたします。

倫理委員会

1. 業務紹介

患者の権利や尊厳を熟慮した医療を行って行くために、当院にて行われる生命倫理や医学研究に関する案件を本委員会にて審議し、倫理的配慮の行き届いた医療機関として地域への役割を果たす。

2. スタッフ紹介

委員長 鈴木 武樹

副委員長 渡邊 寛

委員 看護師 1名、事務長 1名、薬剤師 1名、検査科 1名

外部委員 1名

担当事務 1名

3. 今後の抱負・展望

本委員会で審議すべき案件を審議し当院としての方針を決定し、倫理的配慮の行き届いた医療機関を維持してゆくとともに、倫理面での更なる体制の充実を図っていく。

以上

災 害 対 策 報 告

D M A T

1. 業務紹介

DMATとは、災害派遣医療チーム「Disaster Medical Assistance Team」の頭文字をとってDMAT（ディーマット）と呼ばれています。

医師、看護師、業務調整員（医師・看護師以外の医療職及び事務職員）で構成され、大規模災害や多数傷病者が発生した事故などの現場に、急性期（おおむね48時間以内）に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームです。

現在では、現場の医療だけでなく、災害時に多くの患者さんが運ばれる被災地の病院機能を維持、拡充するために病院の指揮下に入り、病院の医療行為を支援させて頂く病院支援や、首都直下型、東海、東南海・南海地震など想定される大地震で、多数の重症患者が発生した際に、平時の救急医療レベルを提供するため、被災地の外に搬送する、広域医療搬送など、機動性、専門性を生かした多岐にわたる医療的支援を行います。

本院も平成18年に結成し、DMAT指定病院として大規模災害や地域内災害・事故等に備えています。

2. スタッフ紹介

医師	横井 直幸（整形外科医師）	日本DMAT隊員、統括DMAT
業務調整員	諸岡 雅之（事務）	日本DMAT隊員
〃	高倉 有（放射線技師）	DMAT補助要員（研修申請中）
〃	鈴木 孝浩（薬剤師）	DMAT補助要員（研修申請中）

3. 平成25年度実績

○平成25年度 第1回統括DMAT技能維持研修

7月22日～23日 独立行政法人国立病院機構災害医療センター

○平成25年度 第2回関東ブロックDMAT技能維持研修

8月10日～11日 茨城県立県民文化センター

○平成25年度 第2回茨城DMAT連絡会

8月15日 茨城県立中央病院

○平成25年度 関東ブロックDMAT訓練

9月20日～21日 神奈川県（海老名サービスエリア、平塚市民病院等）

○第32回取手市総合防災訓練

10月5日 取手市藤代スポーツセンター

○平成25年度 茨城県・笠間市総合防災訓練

11月9日 笠間市芸術の森公園

4. 今後の抱負

○現在、医師1名、業務調整員3名（内補助要員2名）で活動をしています。

平常時から、災害時に適切な対応ができるよう行動をイメージし、緊急事態にも平常心で対応できるように定期的に訓練を行っていきます。

義務感と使命感をもって、スキルアップを図るとともに、人員補充、資機材の整備等も進めていきたいと思っています。

いつ起きるかわからない災害に対して、万全の体制で、資格を生かしながら病院運営に貢献できればと考えています。

取 手 市 医 師 会

役員

会長	眞壁文敏
副会長	貝塚広史 高安聡 石井啓一
理事	伊藤睦子 松崎信夫 城賀本満登 鈴木武樹 海老原聡 秋谷正彦 塩澤史隆 市丸勝二 田中勲
監事	飯泉智弘 檜山輝男
議長	瀧澤義矩
副議長	渡邊寛
裁定委員	村田達也 龍田泰成 下村滋 小林静江 吉岡巖
職員	
事務員	狩谷佳子

医師会の活動内容

取手北相馬保健医療センター医師会病院

医師会病院は、地域住民の方々が、必要な時、いつでも安心して医療を受けられるように、会員の先生方では導入が困難な CT や MRI などの医療機器を共同で利用できるようにと昭和 57 年 7 月に設立されました。ただ患者を待つだけの医療ではなく、保健予防活動にも積極的に取り組んでおります。

取手北相馬休日夜間緊急診療所

取手市・守谷市・利根町の委託により、医師会病院が診療を行っていない夜間と休日に救急診療を行っています。医師会病院とあわせると、24 時間、365 日診療が受けられます。

訪問看護ステーションひまわり

医師の指示により看護師が家庭を訪問し、在宅介護を支援しています。

ひまわり居宅介護支援事業所

ケアマネージャー（介護支援専門員）が、様々な介護サービスをどのように組み合わせれば利用される方にあうのかを考え、介護サービス利用計画（ケアプラン）を作ったり、各サービスを提供する各事業者と連絡、調整をします。

学校検診

茨城県、取手市、守谷市、利根町をはじめ、近隣市町村より委託を受け、小中高校の学校検診事業を行っております。

住民検診

地域住民の方の疾病予防のために各地で検診車による出張検診を行い、疾病の早期発見・早期治療をめざして活動しています。

予防接種

各市町村の保健センターと協力して国で定められた予防接種及び任意の予防接種について乳幼児から成人まで毎年行っています。

学校医

各小中高校に学校医を派遣しています。

産業医活動

茨城県南地域産業保健センターと協調し、従業員 50 人未満の事業所の皆様に対して、無料で産業保健活動を行ってきております。

生涯教育講演会・研究会

研 修 会 名	日 時	開催場所	演題・講師名
第175回 取手糖尿病研究会	4月2日(火) 19:00～	取手医師会病院	「糖尿病患者の脂質異常症」 つくば糖尿病センター川井クリニック 院長:川井 紘一
第272回 臨床研究会	4月5日(金) 19:00～	取手医師会病院	①「孤立性肺結節の取り扱いについて」 医師会病院放射線科:小槻 泰三 ②「患者満足度調査について」 医師会病院整形外科:吉田 綾
第88回 守谷地区医療研究会	4月9日(火) 19:00～	総合守谷第一病院	①「当院の救急診療の実際～救急搬送例を中心に～」 総合守谷第一病院循環器科:遠藤 優枝 ②「腎機能障害併発例に対する下肢動脈 PTA について」 守谷慶友病院血管外科:久米 博子
第228回 取手循環器研究会	4月10日(水) 19:15～	取手医師会病院	「悪性心室性不整脈のトータル治療」 筑波大学医学医療系循環器内科 教授:青沼 和隆
第13回 取手認知症研究会	4月16日(火) 19:00～	取手医師会病院	「認知症タイプ別ケアのポイント」 ナーシング・リソース 代表:馬場先 淳子
第179回 取手北相馬在宅ケア事例検討会	4月18日(木) 18:30～	取手医師会病院	「通所介護における理学療法士の役割～通所介護の機能訓練の位置付けを考える～」 会田記念リハビリテーション病院 社会福祉士:原 幸子・理学療法士:渋谷 奈緒美
取手市医師会 学術講演会	4月23日(火) 19:15～	取手医師会病院	「食物アレルギー UP TO DATE」 帝京大学医学部小児科学講座 教授:小林 茂俊

第273回 臨床研究会	5月10日(金) 19:00～	取手医師会病院	①「当院における進行乳癌の治療法の検討」 医師会病院外科：鈴木 武樹 ②「心不全、NPPV、栄養」 医師会病院内科：川邊 敦夫
第180回 取手北相馬在宅ケア事 例検討会	5月16日(木) 18:30～	取手医師会病院	「取手北相馬地域における在宅医療（在宅ケア）の課題 （KJ法を活用した課題の抽出と解決策の検討）」
取手市医師会 学術講演会	5月30日(木) 19:30～	取手医師会病院	「たかが咳、されど咳～咳から考える診療とは～」 川崎医科大学総合内科学1 准教授：宮下 修行
第176回 取手糖尿病研究会	6月4日(火) 19:00～	取手医師会病院	「糖尿病腎症」 つくば糖尿病センター川井クリニック 院長：川井 統一
第274回 臨床研究会	6月7日(金) 19:00～	取手医師会病院	①「褥瘡の治療」 医師会病院外科：及川 卓一 ②「危険な不整脈の見分け方」 医師会病院健診科：平岡 昌和
第248回 JAとりで総合医療セ ンターCPC	6月14日(金) 18:30～	JAとりで総合 医療センター	「意識障害をきたし、腫瘍マーカーの著増が認められた77歳男性」 JAとりで総合医療センター神経内科：沼沢 祥行・病理科：稲留 征典
第181回 取手北相馬在宅ケア事 例検討会	6月20日(木) 18:30～	取手医師会病院	「10代で統合失調症にて入院、退院後自立に向けての生活支援を通 して」 訪問看護ステーションまごころ：二重作 久美子
取手市医師会 学術講演会	6月25日(火) 19:15～	取手医師会病院	①「有床診療所における脳梗塞診療の実際（仮）」 丸野医院 院長：丸野 博子
第42回 取手消化器研究会	6月26日(水) 19:00～	取手医師会病院	「胆道疾患における内視鏡的診断と治療」 駿河台日本大学病院消化器科 助教：小林 駿
第12回 取手リウマチ懇話会	7月4日(木) 19:00～	龍ヶ崎済生会病院	「生物学的製剤を使いこなすために」 慶應義塾大学医学部内科学教室リウマチ内科 教授：竹内 勤

第249回 JAとりで総合医療センターCPC	7月5日(金) 18:30～	JAとりで総合医療センター	「副腎転移が疑われた肺未分化がんの63歳男性」 JAとりで総合医療センター呼吸器内科:柴田 翔・病理科:稲留 征典
第275回 臨床研究会	7月5日(金) 19:00～	取手医師会病院	①「自然気胸術後再発症例」 医師会病院外科:白田 保夫 ②「新機序利尿剤のV2受容体拮抗薬が有効であった重症心不全症例」 医師会病院内科:渡邊 寛
第89回 守谷地区医療研究会	7月9日(火) 19:00～	総合守谷第一病院	①「日常診療における膝関節痛の診断と治療」 総合守谷第一病院整形外科:須藤 光敏 ②「血栓症と共に無痛性甲状腺炎をくり返した橋本病の一例」 守谷慶友病院内科:熊谷 尚子
第229回 取手循環器研究会	7月10日(水) 19:15～	取手医師会病院	「心血管イベント抑制を考えた糖尿病治療戦略」 筑波大学疾患制御医学臨床検査分野 教授/糖尿病代謝内分泌内科 /副病院長:川上 康
第93回 取手呼吸器勉強会	7月12日(金) 19:00～	JAとりで総合医療センター	「プライマリーケアで注意すべき画像診断のポイントー医療連携を踏まえてー」 東京医科大学茨城医療センター内科学 教授(呼吸器内科):中村 博幸
第182回 取手北相馬在宅ケア事例検討会	7月18日(木) 18:30～	取手医師会病院	「取手市医師会在宅ネットワーク事例検討」
取手市医師会 学術講演会	7月23日(火) 19:00～	取手医師会病院	「小児整形外科ー最近の話題ー」 東京大学大学院リハビリテーション医学研究科 教授:芳賀 信彦
第177回 取手糖尿病研究会	8月6日(火) 19:00～	取手医師会病院	①「SPIDDMの2症例について」 取手医師会病院内科:熊谷 宗士 ②「糖尿病急性イベント時への対処方法」 つくば糖尿病センター川井クリニック 理事長:川井 紘一
医療安全推進責任者研修会	8月7日(水) 19:00～	JAとりで総合医療センター	「日常診療に必要なリスク管理ー明日はわが身の医療事故ー」 東京海上日動メディカルサービス(株)取締役医療本部長:長野 展久

第10回 JAとりで総合医療センター・地域連携癌診療講演会	8月30日(金) 18:30～	JAとりで総合医療センター	「がん治療における外見ケア～取り組みの実際と新たな動き～」 独立行政法人国立がん研究センター中央病院アピランス支援センター センター長：野澤 桂子
第250回 JAとりで総合医療センターCPC	9月6日(金) 18:30～	JAとりで総合医療センター	「進行性に悪化がみられた脳梗塞の78歳男性」 JAとりで総合医療センター神経内科：沼沢 祥行・病理科：稲留 征典
第276回 臨床研究会	9月6日(金) 19:00～	取手医師会病院	①「肝性脳症について」 取手医師会病院内科：岩崎 正彦 ②「消化器外科手術患者は深部静脈血栓症のリスクグループか？」 取手医師会病院外科：萩原 謙
取手・北相馬緩和ケア研究会	9月13日(金) 19:00～	取手医師会病院	「地域の緩和ケアネットワークをどう作るかーOPTIM研究の成果からー」 筑波メディカルセンター病院 副院長：志真 泰夫
第183回 取手北相馬在宅ケア事例検討会	9月19日(木) 18:30～	取手医師会病院	「ターミナル・ケアへの試み」 緑寿荘 介護福祉士：清水 久美子
取手市医師会 学術講演会	9月24日(火) 19:15～	取手医師会病院	「2か月齢から始める4つのワクチンより良い効果を得るために認識しておきたいことー」 横浜南共済病院小児科 部長：成相 昭吉
第178回 取手糖尿病研究会	10月1日(火) 19:00～	取手医師会病院	①「低血糖症状の外来アンケートについて」 取手医師会病院内科：熊谷 宗士 ②「CGMを用いた糖尿病治療の最適化」 東京慈恵会医科大学糖尿病・代謝・内分泌内科 准教授：西村 理明
第251回 JAとりで総合医療センターCPC	10月4日(金) 18:30～	JAとりで総合医療センター	「頻回の低血糖発作を繰り返した74歳男性」 JAとりで総合医療センター神経内科：富満 弘之・病理科：稲留 征典
第277回 臨床研究会	10月4日(金) 19:00～	取手医師会病院	①「突発性難聴」 取手医師会病院内科：熊谷 宗士 ②「正中弓状靭帯症候群の一例」 取手医師会病院外科：江原 千東

第90回 守谷地区医療研究会	10月8日(火) 19:00～	総合守谷第一病院	『妊婦とくすり』について知っておきたいこと～添付文書の医療訴訟における位置づけも含めて～ 筑波大学医学医療系総合周産期医学 教授:濱田 洋実
第230回 取手循環器研究会	10月9日(水) 19:15～	取手医師会病院	「心肺運動負荷検査・心臓リハビリテーションの今後の展望」 筑波大学医学医療系医療科学 教授:小池 朗
第184回 取手北相馬在宅ケア事例検討会	10月17日 (木) 18:30～	取手医師会病院	「最後は家で亡くなりたいと願を叶えるための訪問看護の役割～看取りの3事例を振り返って～」 (株)佐瀬トータルケアセンター 看護師:樋口 香代子
取手市医師会 学術講演会 －炎症性腸疾患治療を考える－	10月22日 (火) 19:15～	取手医師会病院	「外科医から見た炎症性腸疾患の治療」 日本大学医学部総合外科 教授:増田 英樹
第43回 取手消化器研究会	10月23日 (水) 19:00～	J Aとりで総合 医療センター	「消化器疾患の画像・病理」 J Aとりで総合医療センター外科:宇田川 勝
第252回 J Aとりで総合医療センターCPC	11月1日(金) 18:30～	J Aとりで総合 医療センター	「外傷性くも膜下出血で入院後、心不全と意識障害を発症した75歳男性」 J Aとりで総合医療センター循環器内科:服部 英二郎・病理科:稲留 征典
第278回 臨床研究会	11月1日(金) 19:00～	取手医師会病院	①「高齢者に見られる画像変化～頭部と胸部を中心に～」 取手医師会病院放射線科:小槻 泰三 ②「末梢神経両断端緩徐伸長法の紹介」 取手医師会病院整形外科:中島 佳子
第185回 取手北相馬在宅ケア事例検討会	11月21日 (木) 18:30～	取手医師会病院	「介護老人保健施設における ST の役割と経口移行への取り組み～施設と在宅の症例より～」 はあとびあ 言語聴覚士:佐藤 理恵
取手市医師会 学術講演会	11月26日 (火) 19:15～	取手医師会病院	「生活習慣病合併高血圧に対する良質な降圧治療を考える～脳・心・腎連関の重要性～」 東京慈恵会医科大学附属柏病院糖尿病・代謝・内分泌内科 教授:東條 克能
第179回 取手糖尿病研究会	12月3日(火) 19:00～	取手医師会病院	①「インスリン導入に否定的な患者の血糖コントロール状況」 取手医師会病院内科:熊谷 宗士 ②「糖尿病患者の運動療法」 つくば糖尿病センター川井クリニック 院長:川井 紘一

第231回 取手循環器研究会	1月8日(水) 19:15～	取手医師会病院	「SAS(睡眠時無呼吸症候群)と心疾患ー持続陽圧呼吸療法の有用性ー」 東取手病院循環器内科 部長:高松 剛
第279回 臨床研究会	1月10日(金) 19:00～	取手医師会病院	①「ブルガダ症候群について」 取手医師会病院健診科:平岡 昌和 ②「当院での救急車の受け入れ状況」 医師会病院整形外科:横井 直幸
第91回 守谷地区医療研究会	1月14日(火) 19:00～	総合守谷第一病院	①「関節リウマチによるステロイド治療中、急速な右横隔膜ヘルニア発症によるイレウスにより手術を施行したChilaiditi症候群の1例」 ②「十二指腸下行脚部にピンホール状狭窄を呈した良性十二指腸潰瘍の1例」 総合守谷第一病院外科:渡辺 基信 ③「画像所見の経時的変化から肺癌を疑い、手術を施行した炎症性肉芽腫症の1例」 ④「経鼻的イレウス管による減圧後に腹腔鏡下手術を施行した閉塞性脾弯曲部大腸癌の1例」 守谷慶友病院外科:根木 快
第186回 取手北相馬在宅ケア事例検討会	1月16日(木) 18:30～	取手医師会病院	①「要介護状態となった母を精神疾患のある息子が介護しているケース」 ぽっかぽか龍ヶ崎 管理者:飯島 暢子 ②「疼痛の評価とマネージメント」 JAとりで総合医療センター消化器外科:谷畑 英一
取手市医師会 学術講演会	1月28日(火) 19:00～	取手医師会病院	「アスピリン喘息について(仮)」 筑波大学医学医療系呼吸器内科 講師:森島 祐子
第13回 取手リウマチ懇話会	1月31日(金) 19:00～	取手医師会病院	「関節リウマチに対するMTXの適正投与ー有効かつ安全に使用するためにー」 東海大学医学部内科学系リウマチ内科学 教授:鈴木 康夫
児童虐待対策講演会	2月6日(木) 19:30～	取手医師会病院	①「医療機関で虐待を疑ったときー子ども虐待への初期対応ー」 土浦児童相談所 児童健全育成主査:中崎 恵子・計良 明美 ②「取手市の現状ー医療機関との連携がスムーズにいった事例紹介ー」 取手市 家庭児童相談員:森 雅子 ③「JAとりで総合医療センターの現状と医療機関における児童虐待発見の要点ー子ども虐待対応ー医学診断ガイドよりー」 JAとりで総合医療センター小児科:太田 正康

第280回 臨床研究会	2月7日(金) 19:00～	取手医師会病院	①「症例検討」取手医師会病院内科：許 表勝 ②「透析性肩関節症に対する内視鏡手術」 取手医師会病院整形外科：吉田 綾
医療従事者向け肝炎セミナー	2月13日(木) 19:30～	取手医師会病院	「C型肝炎治療の新たな展開～新しい3剤併用療法と地域医療連携～」 東京医科大学茨城医療センター 病院長：松崎 靖司
第187回 取手北相馬在宅ケア事例検討会	2月20日(木) 18:30～	取手医師会病院	①「危険予知シートの導入とその後」短期入所療養介護ダ・ヴィンチ 介護職：宇賀山 恵 ②「看取りをめぐるコミュニケーション」利根町国保診療所：中澤 義明
第44回 取手消化器研究会	2月26日(水) 19:00～	総合守谷第一病院	「消化器疾患の画像・病理」総合守谷第一病院：原 健
第2回取手・守谷・北相馬緩和ケア研究会	2月27日(木) 19:30～	取手医師会病院	「ステップアップ在宅緩和ケア」 筑波大学医学医療系総合診療科 講師：浜野 淳
第281回 臨床研究会	3月7日(金) 19:00～	取手医師会病院	①「当院における乳がん手術例の検討」 取手医師会病院外科：鈴木 武樹 ②「ハント症候群」 取手医師会病院内科：川邊 淳夫
取手市医師会 学術講演会	3月14日(金) 19:00～	取手医師会病院	「呼吸器感染症診療のガイドラインに沿った一般的考え方」 大阪大学医学部附属病院感染制御部 副部長 診療教授：関 雅文
第188回 取手北相馬在宅ケア事例検討会	3月20日(木) 18:30～	取手医師会病院	①「取手市医師会在宅ネットワークと医師会病院との連携」 取手医師会病院 医療相談員：本多 剛 ②「硬縮の予防と治療」有田内科整形リハビリクリニック：有田 元英
生活習慣病予防セミナー	3月25日(火) 19:15～	取手医師会病院	「腎障害の悪化因子とその対策－糖尿病、生活習慣病を中心に－」 筑波大学医学医療系腎臓内科学 教授：山縣 邦弘

メディア掲載

取手の病院に医師派遣 筑波大、市医師会と協定

2014年2月6日(木) 茨城新聞

筑波大(つくば市、永田恭介学長)と取手市医師会(真壁文敏会長)は5日、同医師会が運営する取手北相馬保健医療センター医師会病院(取手市)に同大から3人の教員(医師)を派遣し、寄付講座を設置することで合意した。全国平均の7割にとどまる取手・竜ヶ崎医療圏の医師不足に対応するため、地域医療を学ぶ若手医師の育成にも務める。

寄付講座は医師会病院内に筑波大付属病院のサテライト拠点を立てて設置される。期間は4月1日から2019年3月末までの5年間。

教員(医師)は筑波大が現在、全国から公募しており、4月から教授、准教授、講師の3人が常勤で働く予定。人件費などの費用は年間4500万円で同医師会が寄付。3人は現地で患者の診療に当たるとともに、医学生や研修医を受け入れて指導し、さまざまな症例を学んでもらうことで地域医療を志す人材を育てる。

寄付講座設置の協定書締結式は5日、筑波大で行われ、永田学長は「医師会病院を県南地域の教育研究拠点と位置付け、この地域の医療の充実と強化を図りたい」、真壁会長は「人材が限られている中で、画期的な取り組み。地元の人にとっても無上の喜び」と語った。

筑波大付属病院は2009年以降、県内各地の中核病院と連携し、今回のようなサテライト拠点を北茨城、日立、ひたちなか、水戸、土浦、神栖など各市に開設しているが、医師会と提携するのは初めて。取手市医師会は取手や守谷市の開業医で構成。医師会病院の病床数は215床。



【写真説明】寄附講座設置で締結した取手市医師会の真壁文敏会長と筑波大の永田恭介学長、五十嵐哲也筑波大付属病院長(左から)=つくば市の同大

取手北相馬保健医療センター医師会病院 年報 第1号
平成25年度版

発行 2014年8月

発行者 取手北相馬保健医療センター医師会病院 広報委員会

〒302-0032 茨城県取手市野々井1926

TEL 0297-78-6111

FAX 0297-78-6116

URL <http://www.ishikaibyoin.or.jp>